

**紀の川市立学校適正配置のための
学校のあり方に関するアンケート調査報告書
【市民調査】**

令和3年8月

紀 の 川 市

目 次

1. 調査の概要と回答者の属性	1
1 調査の概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査対象及び調査方法	1
(3) 配布数及び回収結果	1
(4) 本報告書の留意事項について	1
2 回答者の属性	2
(1) お住まいの小学校区	2
(2) 性別	2
(3) 年代	3
(4) 中学生以下の同居家族	3
2. 調査の結果	4
1 市立小学校について	4
(1) 小学校の通学距離について	4
(2) 小学校1学年あたりの学級数について	5
(3) 「小学校1学年あたりの学級数」で選んだ理由	6
(4) 小学校1学級あたりの児童数	9
(5) 「小学校1学級あたりの人数」で選んだ理由	10
2 市立中学校について	13
(1) 中学校の通学可能範囲	13
(2) 中学校1学年あたりの学級数	14
(3) 「中学校1学年あたりの学級数」で選んだ理由	15
(4) 中学校1学級あたりの生徒数	18
(5) 「中学校1学級あたりの人数」で選んだ理由	19
3 市立学校の今後の適正な規模や配置について	23
(1) 今後の小中学校の教育環境について	23
(2) 学校規模や配置の対策について	25
(3) 将来の学校の再編について	28
(4) 現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持する理由	31
4 義務教育学校について	34
(1) 義務教育学校の設置について	34
資料 アンケート調査票	36

1. 調査の概要と回答者の属性

1 調査の概要

(1) 調査の目的

紀の川市立小学校の適正規模・適正配置を検討するうえでの参考資料とするため、市民を対象にアンケート調査を実施する。

(2) 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	住民基本台帳より無作為に抽出した20歳以上の紀の川市民
配布数	1500
調査方法	郵送にて配布し回収
調査時期	令和3年5月～6月

(3) 配布数及び回収結果

配布数	1500
有効回収数	568
有効回収率	37.9%

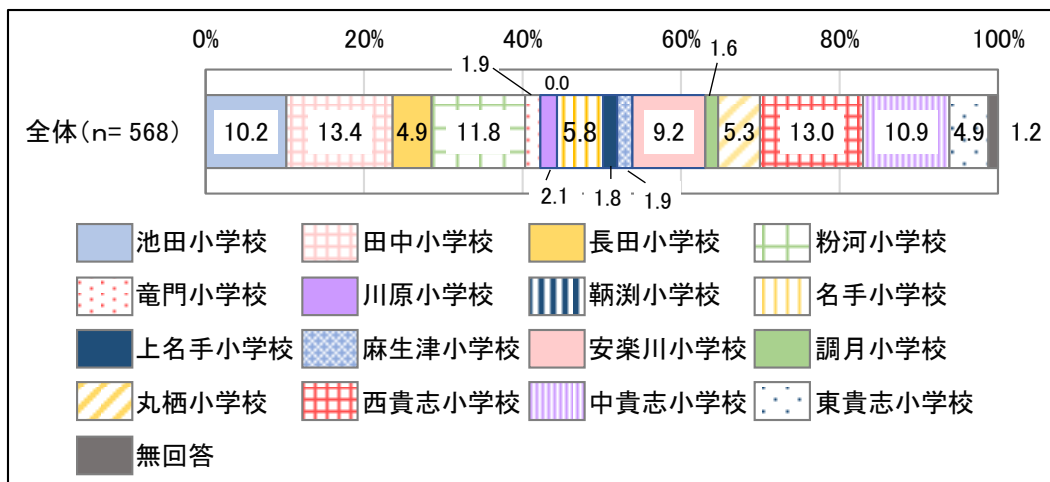
(4) 本報告書の留意事項について

- ① 比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。従って、合計が100%を上下する場合があります。
- ② 基数となるべき実数(人数)は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出しています。
- ③ 設問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出してもよい問であり、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- ④ グラフ中で0.0%と表示されているものは、回答者も0人となります。

2 回答者の属性

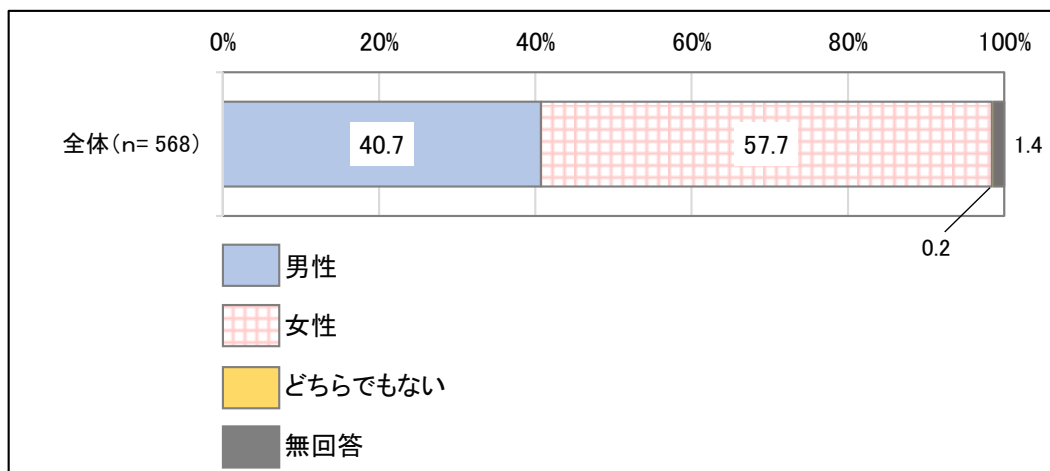
(1) お住まいの小学校区

回答者のお住まいの小学校区は、「田中小学校」(13.4%)、「西貴志小学校」(13.0%)、「粉河小学校」(11.8%)、「中貴志小学校」(10.9%)、「池田小学校」(10.2%)、「安楽川小学校」(9.2%)、「名手小学校」(5.8%)、「丸栖小学校」(5.3%)、「長田小学校」・「東貴志小学校」(同率 4.9%)、「川原小学校」(2.1%)、「竜門小学校」・「麻生津小学校」(同率 1.9%)、「上名手小学校」(1.8%)「調月小学校」(1.6%)、「鞆渚小学校」(0.0%)となっています。



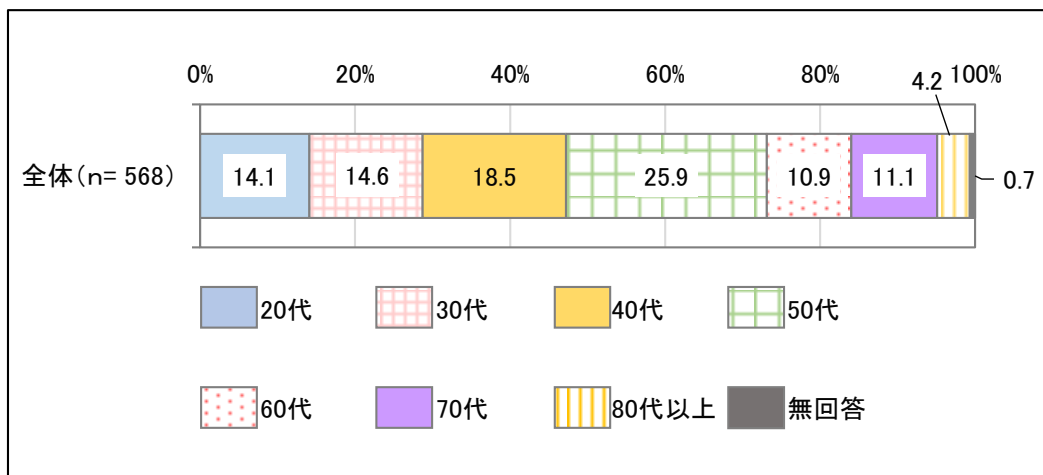
(2) 性別

回答者の性別構成は、「男性」(40.7%)、「女性」(57.7%)、「どちらでもない」(0.2%)となっています。



(3) 年代

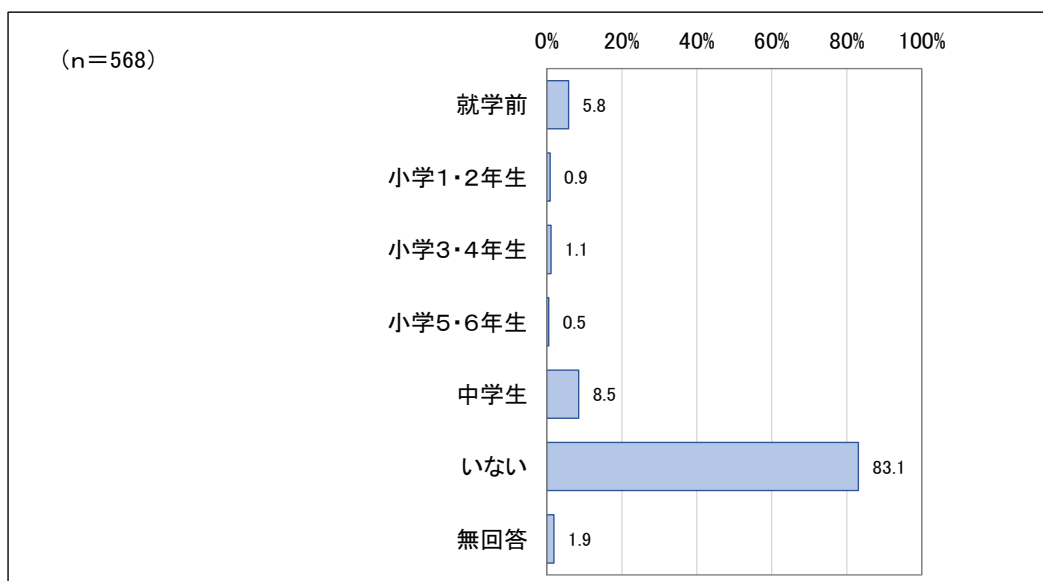
回答者の年代は、「50代」(25.9%)、「40代」(18.5%)、「30代」(14.6%)、「20代」(14.1%)、「70代」(11.1%)、「60代」(10.9%)、「80代以上」(4.2%)の順となっています。



(4) 中学生以下の同居家族

回答者の中学生以下の同居の家族は、「いない」が83.1%となっています。

次いで「中学生」が8.5%、「就学前」が5.8%、「小学3・4年生」が1.1%、「小学1・2年生」が0.9%、「小学5・6年生」が0.5%となっています。



2. 調査の結果

1 市立小学校について

(1) 小学校の通学距離について

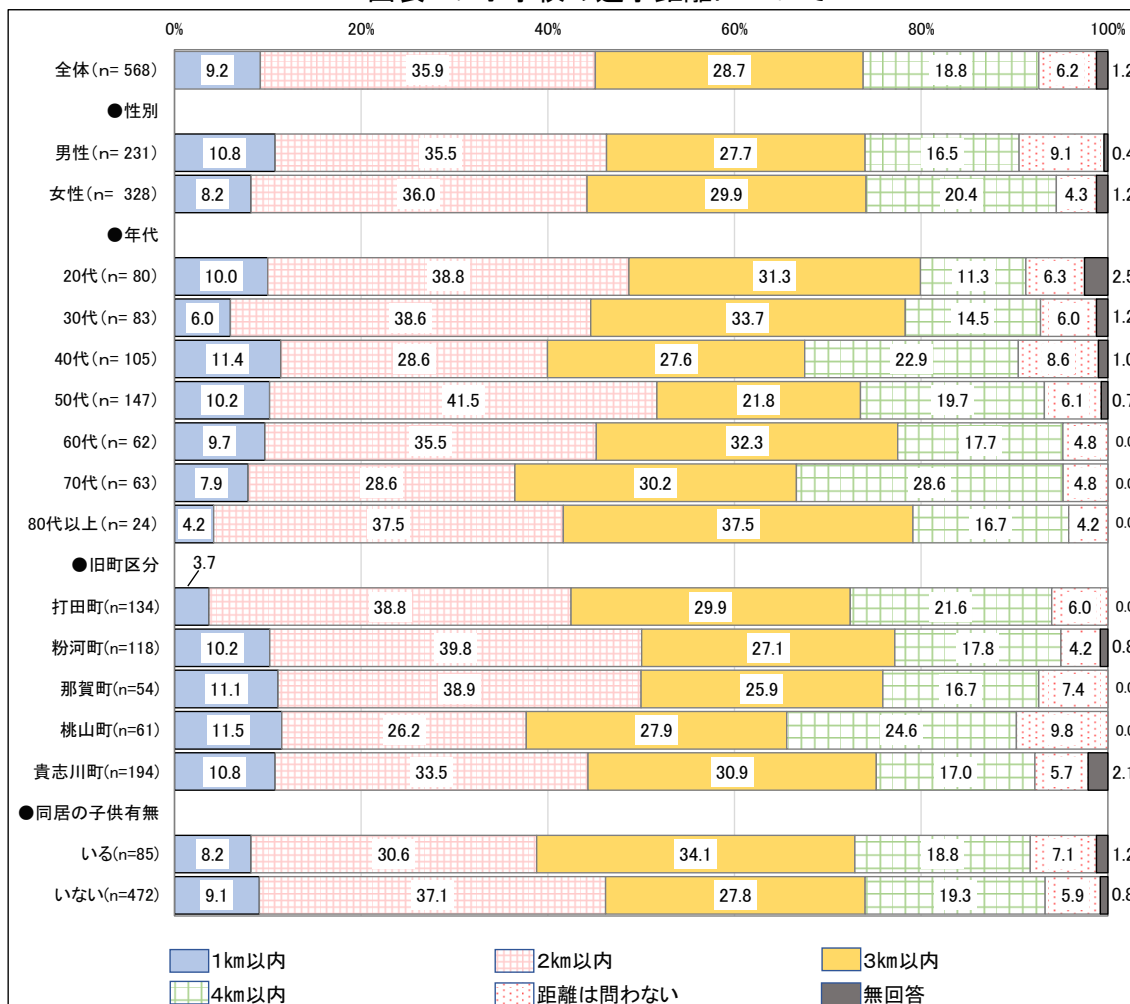
問5 小学校の通学距離について、どの程度までが通学可能範囲と思われますか。

- 通学可能範囲は、「2 km 以内」(35.9%)、「3 km 以内」(28.7%) と考える人で6割以上を占めている。

小学校の通学可能範囲に関して、どの程度までが通学範囲と思われるかをたずねたところ、「2 km 以内」と答えた人が35.9%で最も多く、次いで「3 km 以内」(28.7%)、「4 km 以内」(18.8%)、「1 km 以内」(9.2%)の順となっており、「距離は問わない」と答えた人は6.2%となっています。

属性別でも、ほとんどの属性で「2 km 以内」が最も多くなっていますが、年代別の70代や旧町区分の桃山町では、「2 km 以内」、「3 km 以内」、「4 km 以内」の割合が同程度となっています。[図表1参照]

図表1. 小学校の通学距離について



(2) 小学校1学年あたりの学級数について

問6 小学校1学年あたりの学級数についてお尋ねします。1学年あたりの学級数(複式学級含む)は何学級がよいと思いますか。

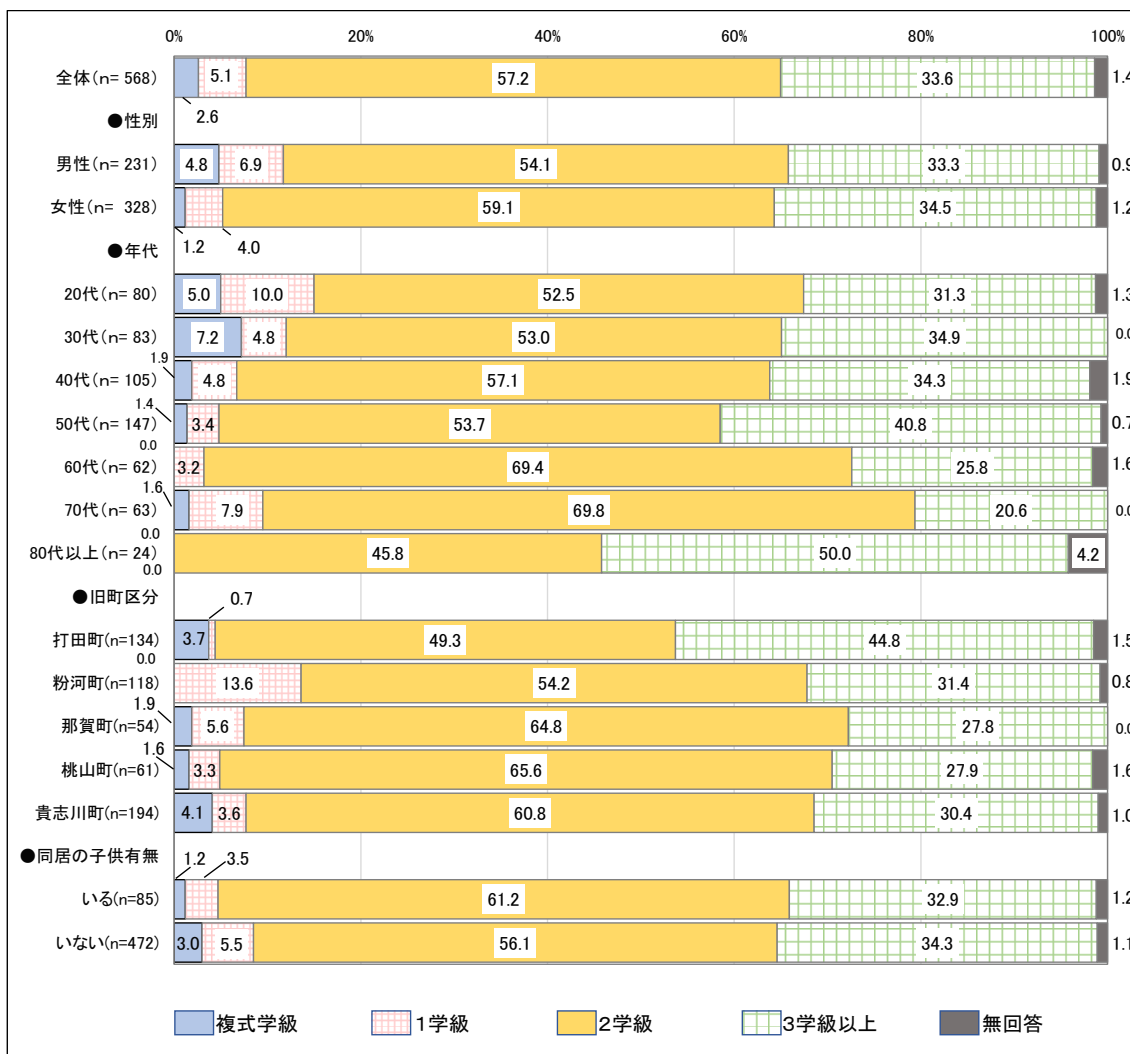


● 1学年あたりの学級数は「2学級」が適当と思われる方が多く、次いで「3学級以上」となっている。

小学校1学年あたりの学級数については、「2学級」が57.2%と大半を占めており、続いて「3学級以上」(33.6%)、「1学級」(5.1%)、「複式学級」(2.6%)の順となっています。

属性別にみても、ほとんどの属性で「2学級」が最も多く、続いて「3学級以上」、「1学級」、「複式学級」の順になっています。[図表2参照]

図表2. 小学校1学年あたりの学級数



(3) 「小学校1学年あたりの学級数」で選んだ理由

問7 問6「小学校1学年あたりの学級数」で選んだ回答の理由として、あてはまるものをお答えください。【複数回答】



● 「クラス替えにより、人間関係に変化を与えることができる」(68.5%)、「さまざまな個性や考え方を持つ友達とふれあえる」(56.0%)、「児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい」(45.8%)といった項目の割合が高い。

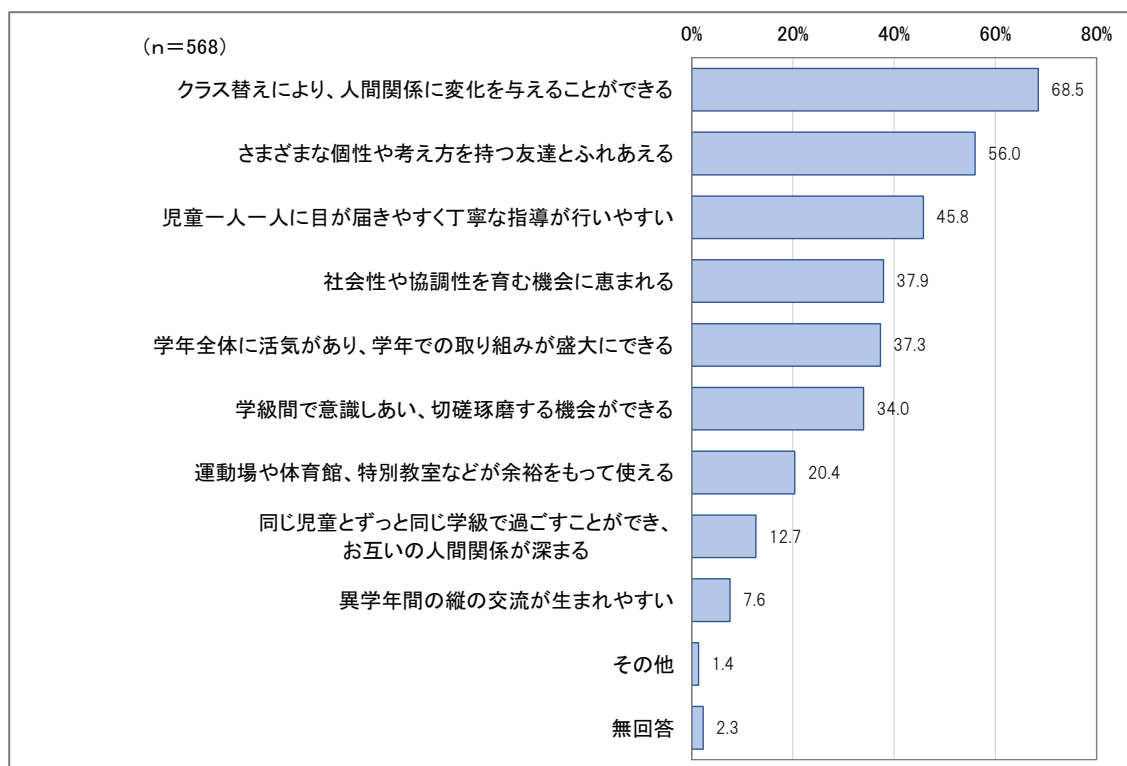
問6で「小学校1学年あたりの学級数」で選んだ回答の理由をたずねたところ、「クラス替えにより、人間関係に変化を与えることができる」(68.5%)の割合が最も高く、次いで「さまざまな個性や考え方を持つ友達とふれあえる」(56.0%)、「児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい」(45.8%)の割合が高くなっています。

これら以外では、「社会性や協調性を育む機会に恵まれる」(37.9%)、「学年全体に活気があり、学年での取り組みが盛大にできる」(37.3%)「学級間で意識しあい、切磋琢磨する機会ができる」(34.0%)といった項目が続いています。

属性別でも、ほとんどの属性で「クラス替えにより、人間関係に変化を与えることができる」の割合が最も高くなっており、それ以下の項目も概ね同様の傾向となっています。

学級数別でみると、1学級では「同じ児童とずっと同じ学級で過ごすことができ、お互いの人間関係が深まる」(62.1%)の割合が最も高くなっています。[図表3・4参照]

図表3. 「小学校1学年あたりの学級数」で選んだ回答の理由について



図表4. 「小学校1学年あたりの学級数」で選んだ回答の理由について
(属性別—上位第3位、%)

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=568)		クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 68.5	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 56.0	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 45.8
性別	男性 (n=231)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 64.5	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 54.1	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 44.2
	女性 (n=328)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 72.0	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 57.9	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 47.3
年代	20代 (n=80)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 65.0	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 55.0	社会性や協調性を育む機会に恵ま れる 40.0
	30代 (n=83)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 60.2	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 56.6	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 47.0
	40代 (n=105)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 74.3	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる/児童一人一人に目が届きや すく丁寧な指導が行いやすい	49.5
	50代 (n=147)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 72.1	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 60.5	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 46.9
	60代 (n=62)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 72.6	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 54.8	学級間で意識しあい、切磋琢磨す る機会ができる 53.2
	70代 (n=63)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 57.1	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 50.8	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 49.2
	80代以上 (n=24)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 83.3	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 75.0	学年全体に活気があり、学年での取 り組みが盛大にできる 58.3
	旧 町 区 分	打田町 (n=134)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 71.6	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 57.5
粉河町 (n=118)		クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 66.1	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 54.2	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 44.9
那賀町 (n=54)		クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 72.2	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 61.1	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 50.0
桃山町 (n=61)		クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 80.3	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 57.4	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 41.0
貴志川町 (n=194)		クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 63.9	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 54.6	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 47.9
子 供 有 無	同居の いる (n=85)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 75.3	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 49.4	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 45.9
	いない (n=472)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 67.6	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 57.6	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 46.0
学 級 数 別	複式学級 (n=15)	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 80.0	異学年間の縦の交流が生まれやすい 60.0	社会性や協調性を育む機会に恵ま れる 46.7
	1学級 (n=29)	同じ児童とずっと同じ学級で過ごすこ とができ、お互いの人間関係が深まる 62.1	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 58.6	学年全体に活気があり、学年で の取り組みが盛大にできる 34.5
	2学級 (n=325)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 71.4	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 54.2	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 48.3
	3学級以上 (n=191)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 79.1	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 63.4	学年全体に活気があり、学年で の取り組みが盛大にできる 49.7

●その他の内容

区 分	内 容
1 学級	1 学級になっても地元の近くに小学校がある方が良い
	学校を確保することが第一です
	人数が多い場合、2 学級とかにするとよい
2 学級	人数が多いほうが気の合う友達ができやすいから
3 学級以上	気の合わない子とクラスを離すことができる
無回答	1 学級あたりの人数にあわせて、学級数を決めると良いと思う

(4) 小学校1学級あたりの児童数

問8 小学校1学級あたりの人数についてお尋ねします。1学級あたりの児童数は何人程度がよいと思いますか。

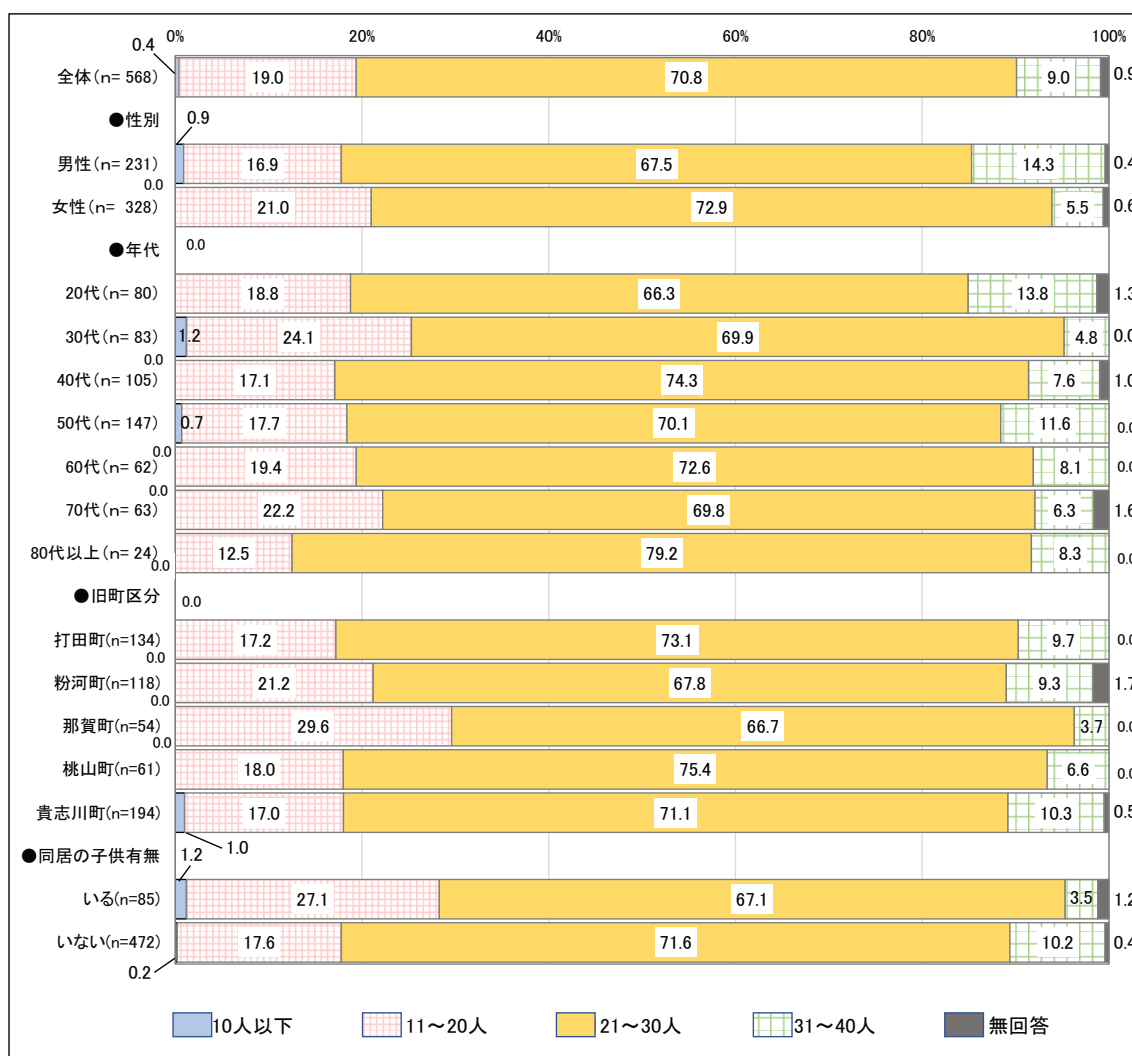


● 「21～30人」(70.8%)の割合が他を引き離し、もっとも高い。

小学校1学級あたりの児童数については、「21～30人」の割合が70.8%と約7割を占めており、続いて「11～20人」(19.0%)、「31～40人」(9.0%)、「10人以下」(0.4%)の順となっています。

属性別でも、すべての属性で「21～30人」が最も高い割合を占めており、続いて「11～20人」、「31～40人」、「10人以下」の順となっています。[図表5参照]

図表5. 小学校1学級あたりの児童数



(5) 「小学校 1 学級あたりの人数」で選んだ理由

問9 問8「小学校 1 学級あたりの人数」で選んだ回答の理由として、あてはまるものをお答えください。【複数回答】



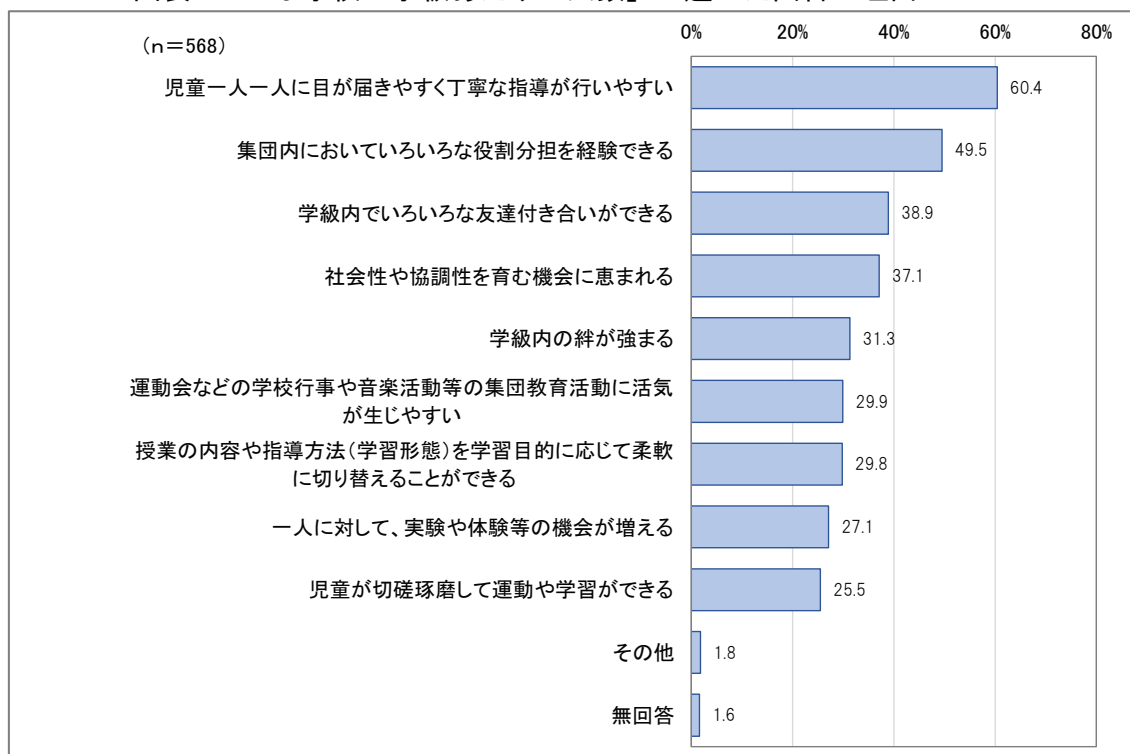
● 「児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい」(60.4%)の割合が最も高い。

問8「小学校 1 学級あたりの人数」で選んだ回答の理由をたずねたところ、「児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい」(60.4%)の割合が最も高く、次いで「集団内においていろいろな役割分担を経験できる」(49.5%)、「学級内でいろいろな友達付き合いができる」(38.9%)の割合が高くなっています。

これら以外では、「社会性や協調性を育む機会に恵まれる」(37.1%)、「学級内の絆が強まる」(31.3%)、「運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい」(29.9%)といった項目が続いています。

属性別にみても、ほとんどの属性で「児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい」の割合が高くなっており、それ以下の項目に関しても、概ね同様の傾向となっています。年代別の 80 代、旧町区分別の粉河町、学級人数別の 31～40 人では「集団内においていろいろな役割分担ができる」の割合が最も高くなっています。[図表 6・7 参照]

図表 6. 「小学校 1 学級あたりの人数」で選んだ回答の理由について



図表7. 「小学校1学級あたりの人数」で選んだ回答の理由について
(属性別—上位第3位、%)

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=568)		児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 60.4	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 49.5	学級内でいろいろな友達付き合いができる 38.9
性別	男性 (n=231)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 57.6	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 47.6	学級内でいろいろな友達付き合いができる 41.1
	女性 (n=328)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 62.8	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 50.3	社会性や協調性を育む機会に恵まれる/学級内でいろいろな友達付き合いができる 38.1
年代	20代 (n=80)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 51.3	学級内でいろいろな友達付き合いができる 46.3	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 42.5
	30代 (n=83)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 62.7	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 49.4	学級内の絆が強まる/社会性や協調性を育む機会に恵まれる 38.6
	40代 (n=105)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 64.8	授業の内容や指導方法(学習形態)を学習目的に応じて柔軟に切り替えることができる 37.1	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 36.2
	50代 (n=147)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 63.3	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 52.4	社会性や協調性を育む機会に恵まれる 44.2
	60代 (n=62)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい/ 集団内においていろいろな役割分担を経験できる 61.3	授業の内容や指導方法(学習形態)を学習目的に応じて柔軟に切り替えることができる 40.3	
	70代 (n=63)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 60.3	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 58.7	学級内でいろいろな友達付き合いができる 41.3
	80代以上 (n=24)	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 58.3	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい/ 学級内でいろいろな友達付き合いができる 50.0	
旧町区分	打田町 (n=134)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 58.2	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 47.0	社会性や協調性を育む機会に恵まれる 38.1
	粉河町 (n=118)	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 54.2	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 50.8	学級内でいろいろな友達付き合いができる 47.5
	那賀町 (n=54)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 61.1	学級内でいろいろな友達付き合いができる 48.1	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 44.4
	桃山町 (n=61)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 59.0	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 55.7	社会性や協調性を育む機会に恵まれる 47.5
	貴志川町 (n=194)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 69.1	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 47.9	学級内でいろいろな友達付き合いができる 36.1
子供有無	いる (n=85)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 70.6	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 41.2	社会性や協調性を育む機会に恵まれる 35.3
	いない (n=472)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 58.9	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 51.1	学級内でいろいろな友達付き合いができる 40.7
学級人数別	10人以下 (n=2)	児童が切磋琢磨して運動や学習ができる/児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 50.0		
	11~20人 (n=108)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 84.3	授業の内容や指導方法(学習形態)を学習目的に応じて柔軟に切り替えることができる 47.2	学級内の絆が強まる 45.4
	21~30人 (n=402)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 61.7	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 50.7	学級内でいろいろな友達付き合いができる 40.5
	31~40人 (n=51)	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 82.4	学級内でいろいろな友達付き合いができる 66.7	社会性や協調性を育む機会に恵まれる 60.8

●その他の内容

区 分	内 容
11～20 人	少なすぎない人数だから
	子どもの人数が少なくなっても、地元近くに小学校がある方が良い
	新型コロナウイルス感染症対策
	教室の広さに応じて人数を調整する
21～30 人	新型コロナウイルス感染症対策
	友達関係の良・不が見分けられるギリギリの数だから
	児童数が少ない場合は10人以下でも可です
	多すぎず、少なすぎずの人数だから
31～40 人	家が遠い友達ができる

2 市立中学校について

(1) 中学校の通学可能範囲

問 10 中学校の通学距離について、どの程度の距離までが通学可能範囲と思われますか。

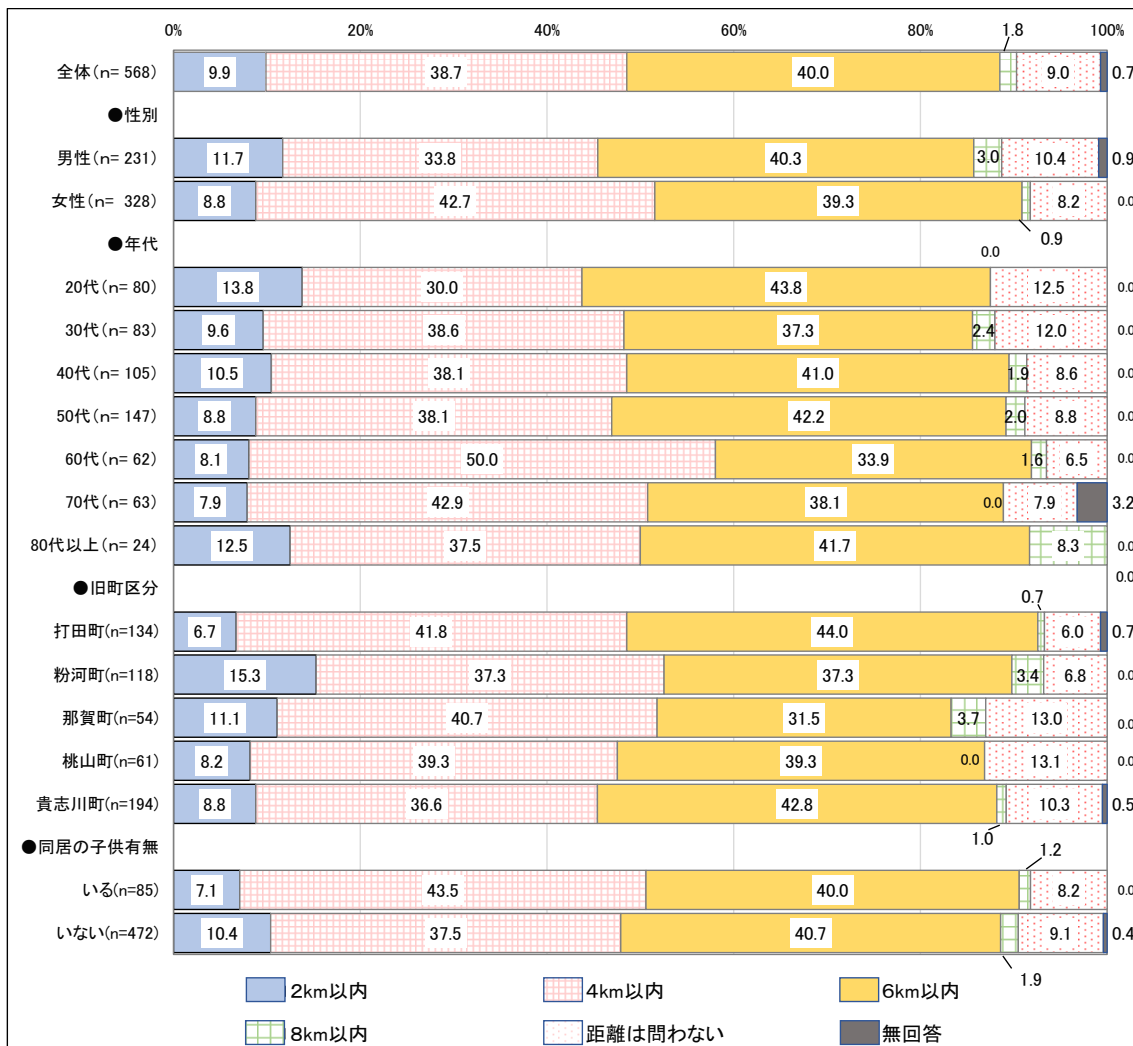
- 通学可能範囲は、「6 km 以内」(40.0%)、「4 km 以内」(38.7%) と考える人で約 8 割を占めている。

中学校の通学範囲については、「6 km 以内」が 40.0% と最も多く、「4 km 以内」(38.7%)、「2 km 以内」(9.9%)、「距離は問わない」(9.0%)、「8 km 以内」(1.8%) の順となっています。

属性別でみると、性別の女性、年代別の 30・60・70 代、旧町区分別の那賀町、同居の子供がいる属性では「4 km 以内」のが最も多くなっています。また旧町区分の粉河町・桃山町では「4 km 以内」、「6 km 以内」が同率で最も高い割合となっています(それぞれ 37.3%、39.3%)。

[図表 8 参照]

図表 8. 中学校の通学距離について



(2) 中学校 1 学年あたりの学級数

問 11 中学校 1 学年あたりの学級数についてお尋ねします。1 学年あたりの学級数（複式学級含む）は何学級がよいと思いますか。

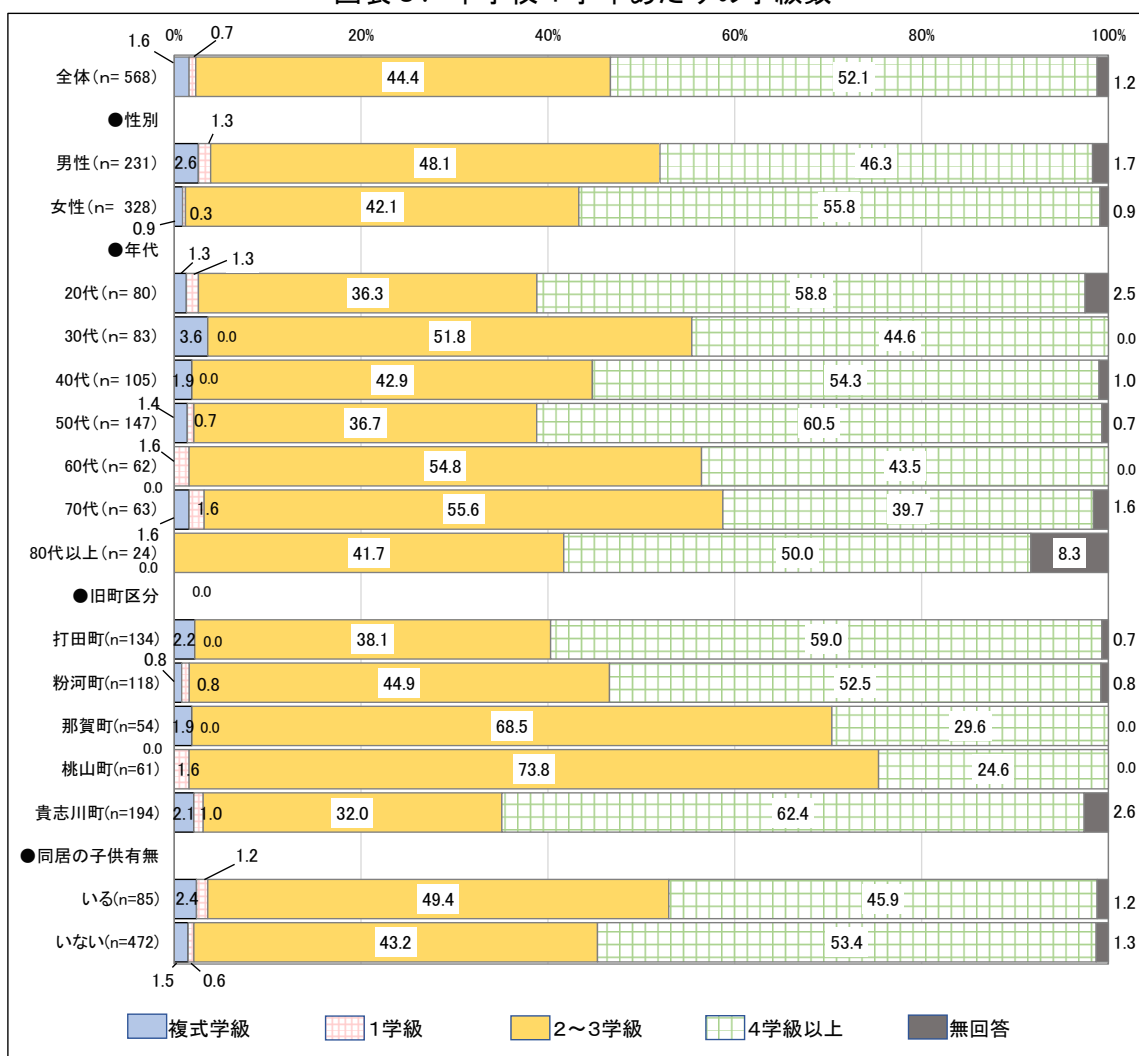
● 「4 学級以上」（52.1%）、「2～3 学級」（44.4%）が多い。

中学校 1 学年あたりの学級数については、「4 学級以上」が 52.1%と半数を占めており、続いて「2～3 学級」（44.4%）、「複式学級」（1.6%）、「1 学級」（0.7%）となっています。

属性別でみると、概ね全体と同様の傾向がみられます。年代別では、30・60・70 代では「2～3 学級」が最も多く、いずれも半数以上を占めています（それぞれ 51.8%、54.8%、55.6%）。

旧町区分別でみると、町により傾向に差がみられ、那賀町・桃山町では「2～3 学級」の割合が大幅に大きくなっています（それぞれ 68.5%、73.8%）。[図表 9 参照]

図表 9. 中学校 1 学年あたりの学級数



(3) 「中学校 1 学年あたりの学級数」で選んだ理由

問 12 問 11「中学校 1 学年あたりの学級数」で選んだ回答の理由として、あてはまるものをお答えください。【複数回答】



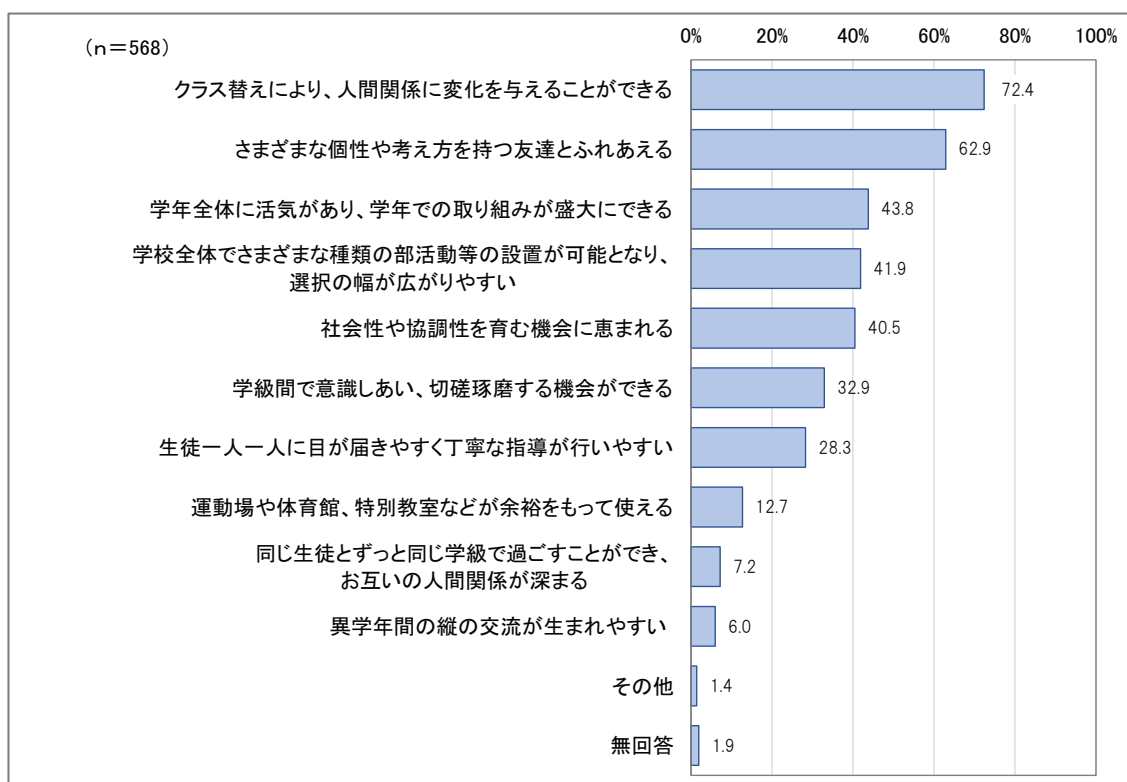
● 「クラス替えにより、人間関係に変化を与えることができる」(72.4%)、「さまざまな個性や考え方を持つ友達とふれあえる」(62.9%)の割合が高い。

問 11「中学校 1 学年あたりの学級数」で選んだ回答の理由をたずねたところ、「クラス替えにより、人間関係に変化を与えることができる」(72.4%)と、「さまざまな個性や考え方を持つ友達とふれあえる」(62.9%)の 2 項目の割合が、他を引き離して特に高くなっています。

これら以外では、「学年全体に活気があり、学年の取り組みが盛大にできる」(43.8%)、「学年全体でさまざまな種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい」(41.9%)、「社会性や協調性を育む機会に恵まれる」(40.5%)、「学級間で意識しあい、切磋琢磨する機会ができる」(32.9%)といった項目が続いています。

属性別では、ほとんどの属性で「クラス替えにより、人間関係に変化を与えることができる」の割合が最も高くなっており、それ以下の項目についても概ね同様の傾向がみられます。[図表 10・11 参照]

図表 10. 「中学校 1 学年あたりの学級数」で選んだ回答の理由について



図表 1 1. 「中学校 1 学年あたりの学級数」で選んだ回答の理由について
(属性別—上位第 3 位、%)

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=568)		クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 72.4	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 62.9	学年全体に活気があり、学年での 取り組みが盛大にできる 43.8
性別	男性 (n=231)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 67.5	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 61.5	学校全体でさまざまな種類の部活動 等の設置が可能となり、選択の幅が 広がりやすい 44.6
	女性 (n=328)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 75.9	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 63.7	学年全体に活気があり、学年での 取り組みが盛大にできる 45.1
年代	20代 (n=80)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 80.0	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 58.8	学年全体に活気があり、学年での 取り組みが盛大にできる 47.5
	30代 (n=83)	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 65.1	クラス替えにより、人間関係に 変化を与えることができる 61.4	社会性や協調性を育む機会に 恵まれる 41.0
	40代 (n=105)	クラス替えにより、人間関係に 変化を与えることができる 73.3	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 56.2	学年全体に活気があり、学年での 取り組みが盛大にできる 44.8
	50代 (n=147)	クラス替えにより、人間関係に 変化を与えることができる 75.5	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 65.3	学年全体に活気があり、学年での 取り組みが盛大にできる 47.6
	60代 (n=62)	クラス替えにより、人間関係に 変化を与えることができる 75.8	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 61.3	学校全体でさまざまな種類の部活動 等の設置が可能となり、選択の幅が 広がりやすい/社会性や協調性を 育む機会に恵まれる/学級間で 意識しあい、切磋琢磨する機会 ができる 43.5
	70代 (n=63)	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 68.3	クラス替えにより、人間関係に 変化を与えることができる 65.1	学年全体に活気があり、学年での 取り組みが盛大にできる 46.0
	80代以上 (n=24)	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる/ クラス替えにより、人間関係に 変化を与えることができる 70.8		学校全体でさまざまな種類の部活動 等の設置が可能となり、選択の幅 が広がりやすい 54.2
旧町区分	打田町 (n=134)	クラス替えにより、人間関係に 変化を与えることができる 73.9	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 59.7	学年全体に活気があり、学年での 取り組みが盛大にできる 47.8
	粉河町 (n=118)	クラス替えにより、人間関係に 変化を与えることができる 73.7	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 62.7	学校全体でさまざまな種類の部活動 等の設置が可能となり、選択の幅 が広がりやすい 44.1
	那賀町 (n=54)	クラス替えにより、人間関係に 変化を与えることができる 77.8	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 61.1	学年全体に活気があり、学年での 取り組みが盛大にできる 42.6
	桃山町 (n=61)	クラス替えにより、人間関係に 変化を与えることができる 72.1	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 63.9	社会性や協調性を育む機会に 恵まれる 47.5
	貴志川町 (n=194)	クラス替えにより、人間関係に 変化を与えることができる 69.6	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 65.5	学校全体でさまざまな種類の部活動 等の設置が可能となり、選択の幅 が広がりやすい 44.3
子供有無	同居 いる (n=85)	クラス替えにより、人間関係に 変化を与えることができる 75.3	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 63.5	社会性や協調性を育む機会に 恵まれる 47.1
	同居 いない (n=472)	クラス替えにより、人間関係に 変化を与えることができる 72.0	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 62.9	学年全体に活気があり、学年での 取り組みが盛大にできる 43.4

		第1位	第2位	第3位
学級数別	複式学級 (n=9)	さまざまな個性や考え方を持つ友達とふれあえる 77.8	クラス替えにより、人間関係に変化を与えることができる 55.6	学年全体に活気があり、学年での取り組みが盛大にできる/学校全体でさまざまな種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい 44.4
	1学級 (n=4)	社会性や協調性を育む機会に恵まれる 50.0	学年全体に活気があり、学年での取り組みが盛大にできる/学校全体でさまざまな種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい/同じ生徒とずっと同じ学級で過ごすことができ、お互いの人間関係が深まる/さまざまな個性や考え方を持つ友達とふれあえる/生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 25.0	
	2～3学級 (n=252)	クラス替えにより、人間関係に変化を与えることができる 65.1	さまざまな個性や考え方を持つ友達とふれあえる 58.7	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 40.1
	4学級以上 (n=296)	クラス替えにより、人間関係に変化を与えることができる 81.1	さまざまな個性や考え方を持つ友達とふれあえる 67.2	学年全体に活気があり、学年での取り組みが盛大にできる 54.7

●その他の内容

区 分	内 容
11～20 人	上下関係が激しくならない
	学校を廃止してはダメです
21～30 人	2～3学級は少なめだが、クラス替えが出来るので、少なすぎない 少なめでも地元意識の持てる校区内に中学校がある方が良い
31～40 人	複数の小学校から集まるので
	先生の人数
無回答	1学級あたりの人数にあわせた学級数にしたら良いと思う

(4) 中学校 1 学級あたりの生徒数

問 13 中学校 1 学級あたりの人数についてお尋ねします。1 学級あたりの生徒数は何人程度がよいと思いますか。

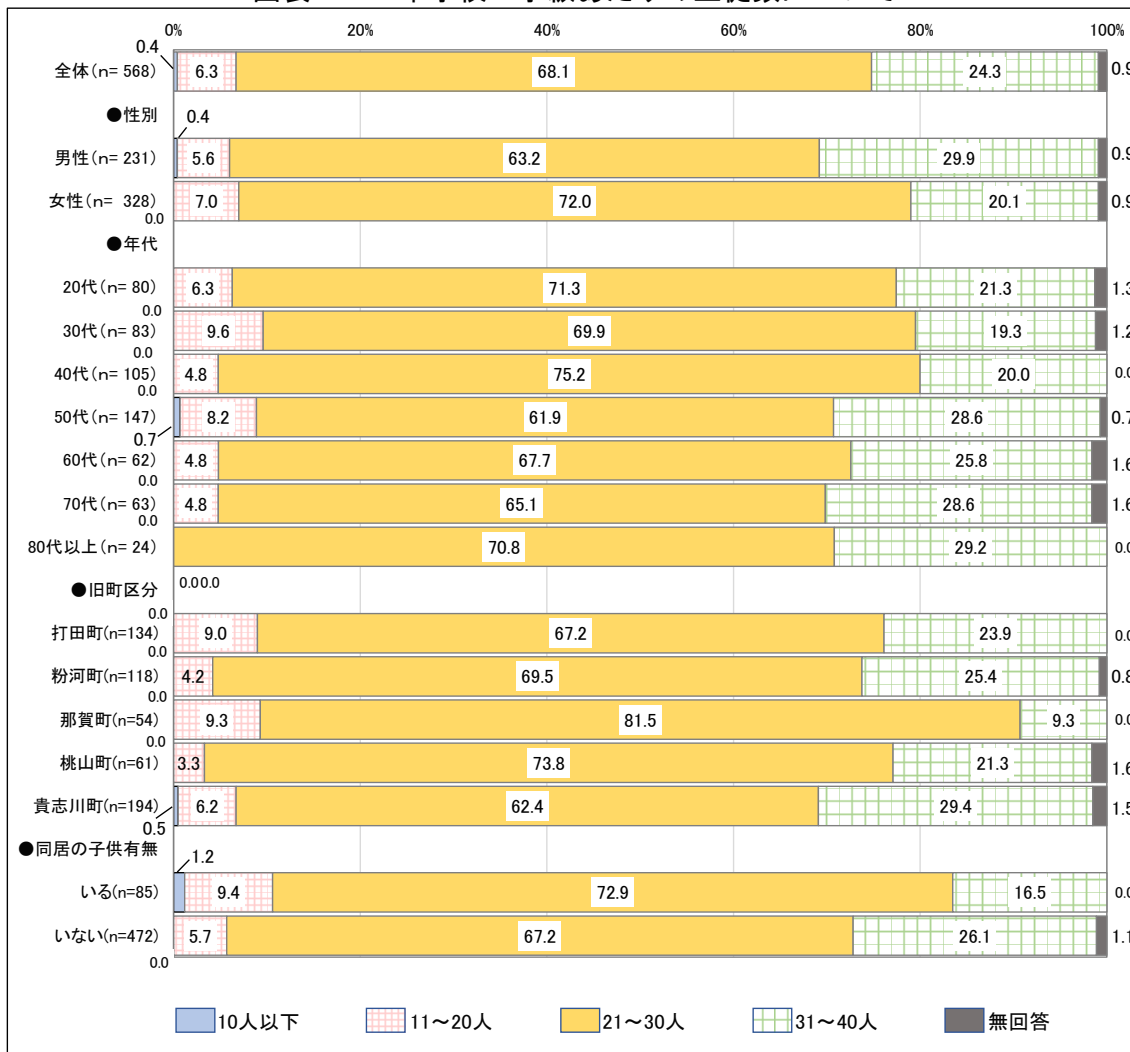


● 「21～30 人」(68.1%) の割合が他を引き離し、最も高い。

中学校 1 学級あたりの生徒数については、「21～30 人」が 68.1%と大半を占めており、続いて「31～40 人」(24.3%)、「11～20 人」(6.3%)、「10 人以下」(0.4%) となっています。

属性別にみても、概ね全体と同様の傾向がみられます。[図表 1 2 参照]

図表 1 2. 中学校 1 学級あたりの生徒数について



(5) 「中学校 1 学級あたりの人数」で選んだ理由

問 14 問 13「中学校 1 学級あたりの人数」で選んだ回答の理由として、あてはまるものをお答えください。【複数回答】



- 「集団内においていろいろな役割分担を経験できる」(51.4%)の割合が最も高い。

問 13「中学校 1 学級あたりの人数」で選んだ回答の理由をたずねたところ、「集団内においていろいろな役割分担を経験できる」(51.4%)の割合が最も高く、次いで「生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい」(46.1%)、「学級内でいろいろな友達付き合いができる」(44.5%)の割合が高くなっています。

これら以外では、「社会性や協調性を育む機会に恵まれる」(43.3%)、「体育祭などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい」(39.6%)、「生徒が切磋琢磨して運動や学習ができる」(31.9%)といった項目が続いています。

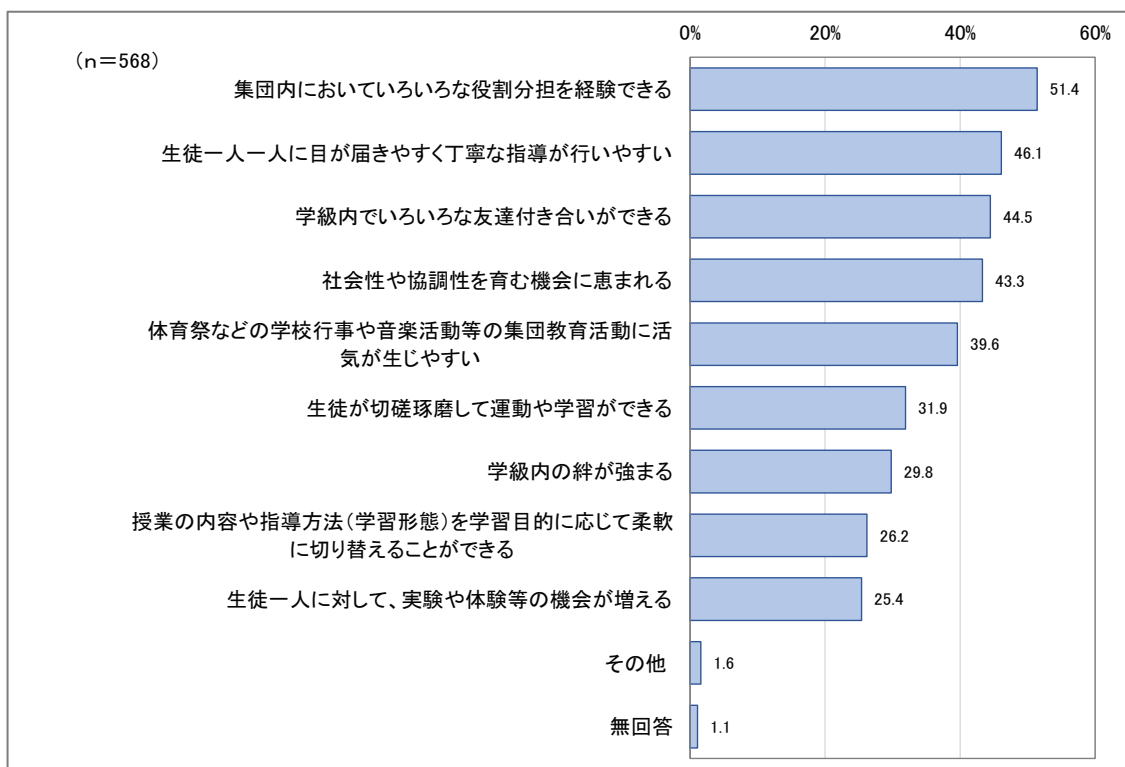
属性別にみても、多くの属性で「集団内においていろいろな役割分担を経験できる」の割合が最も高くなっていますが、年代別にみると、20代は「学級内でいろいろな友達付き合いができる」(52.5%)、30・40代では「生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい」(それぞれ 50.6%、58.1%)の割合が最も高くなっています。

旧町区分別では、打田町では「生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい」(50.7%)、那賀町では「学級内でいろいろな友達付き合いができる」(53.7%)の割合が最も高くなっています。

同居の子供がいる属性では「生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい」(54.1%)の割合が最も高くなっています。

学級人数別の 11～20 人、21～30 人では「生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい」の割合が最も高くなっています(それぞれ 75.0%、56.8%)。[図表 13・14 参照]

図表 1.3. 「中学校 1 学級あたりの人数」で選んだ回答の理由について



図表 1 4. 「中学校 1 学級あたりの人数」で選んだ回答の理由について
(属性別—上位第 3 位、%)

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=568)		集団内においていろいろな役割分担を経験できる 51.4	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 46.1	学級内でいろいろな友達付き合いができる 44.5
性別	男性 (n=231)	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 50.6	学級内でいろいろな友達付き合いができる 45.0	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい/社会性や協調性を育む機会に恵まれる 42.9
	女性 (n=328)	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 51.2	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 48.5	学級内でいろいろな友達付き合いができる 44.2
年代	20代 (n=80)	学級内でいろいろな友達付き合いができる 52.5	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 47.5	社会性や協調性を育む機会に恵まれる 37.5
	30代 (n=83)	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 50.6	学級内でいろいろな友達付き合いができる/社会性や協調性を育む機会に恵まれる 42.2	
	40代 (n=105)	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 58.1	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 44.8	授業の内容や指導方法(学習形態)を学習目的に応じて柔軟に切り替えることができる 40.0
	50代 (n=147)	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 51.0	学級内でいろいろな友達付き合いができる/社会性や協調性を育む機会に恵まれる 46.3	
	60代 (n=62)	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 56.5	社会性や協調性を育む機会に恵まれる 54.8	学級内でいろいろな友達付き合いができる 41.9
	70代 (n=63)	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 65.1	学級内でいろいろな友達付き合いができる 50.8	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい/社会性や協調性を育む機会に恵まれる 44.4
	80代以上 (n=24)	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 75.0	体育祭などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい 54.2	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 50.0
旧町区分	打田町 (n=134)	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 50.7	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 47.0	社会性や協調性を育む機会に恵まれる 46.3
	粉河町 (n=118)	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 51.7	学級内でいろいろな友達付き合いができる 48.3	体育祭などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい 42.4
	那賀町 (n=54)	学級内でいろいろな友達付き合いができる 53.7	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 51.9	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 50.0
	桃山町 (n=61)	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 59.0	社会性や協調性を育む機会に恵まれる 50.8	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 42.6
	貴志川町 (n=194)	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 51.0	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 45.9	学級内でいろいろな友達付き合いができる 43.8
子供有無	いる (n=85)	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 54.1	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 47.1	社会性や協調性を育む機会に恵まれる 45.9
	いない (n=472)	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 51.9	学級内でいろいろな友達付き合いができる 46.2	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 44.3

		第1位	第2位	第3位
学級人数別	10人以下 (n=2)	学級内の絆が強まる 100.0	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい/集団内においていろいろな役割分担を経験できる/授業の内容や指導方法(学習形態)を学習目的に応じて柔軟に切り替えることができる/生徒一人に対して、実験や体験等の機会が増える 50.0	
	11~20人 (n=36)	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 75.0	学級内の絆が強まる/生徒一人に対して、実験や体験等の機会が増える 41.7	
	21~30人 (n=387)	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 56.8	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 47.0	学級内でいろいろな友達付き合いができる 40.3
	31~40人 (n=138)	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 73.2	体育祭などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい 65.9	学級内でいろいろな友達付き合いができる 63.8

●その他の内容

区 分	内 容
11~20 人	コロナで、机の配置に距離をとれるように人数を少なくしてほしい
21~30 人	子どもがある程度少なくなっても、地元に近い中学校が維持される方が良い
	新型コロナウイルス感染症対策
	地区の下級生との交流や人間関係が良くなる
	多すぎず、少なすぎないから 先生の人数
31~40 人	クラスの人数は多くして、選択授業が増えるほうが良いと思うので

3 市立学校の今後の適正な規模や配置について

(1) 今後の小中学校の教育環境について

問 15 今後、下記のグラフのように、将来児童生徒数が少なくなることが予測されます。
これからの紀の川市の小中学校のよりよい教育環境の確保及び向上のためには、
どちらを選んだ方がよいと思いますか。



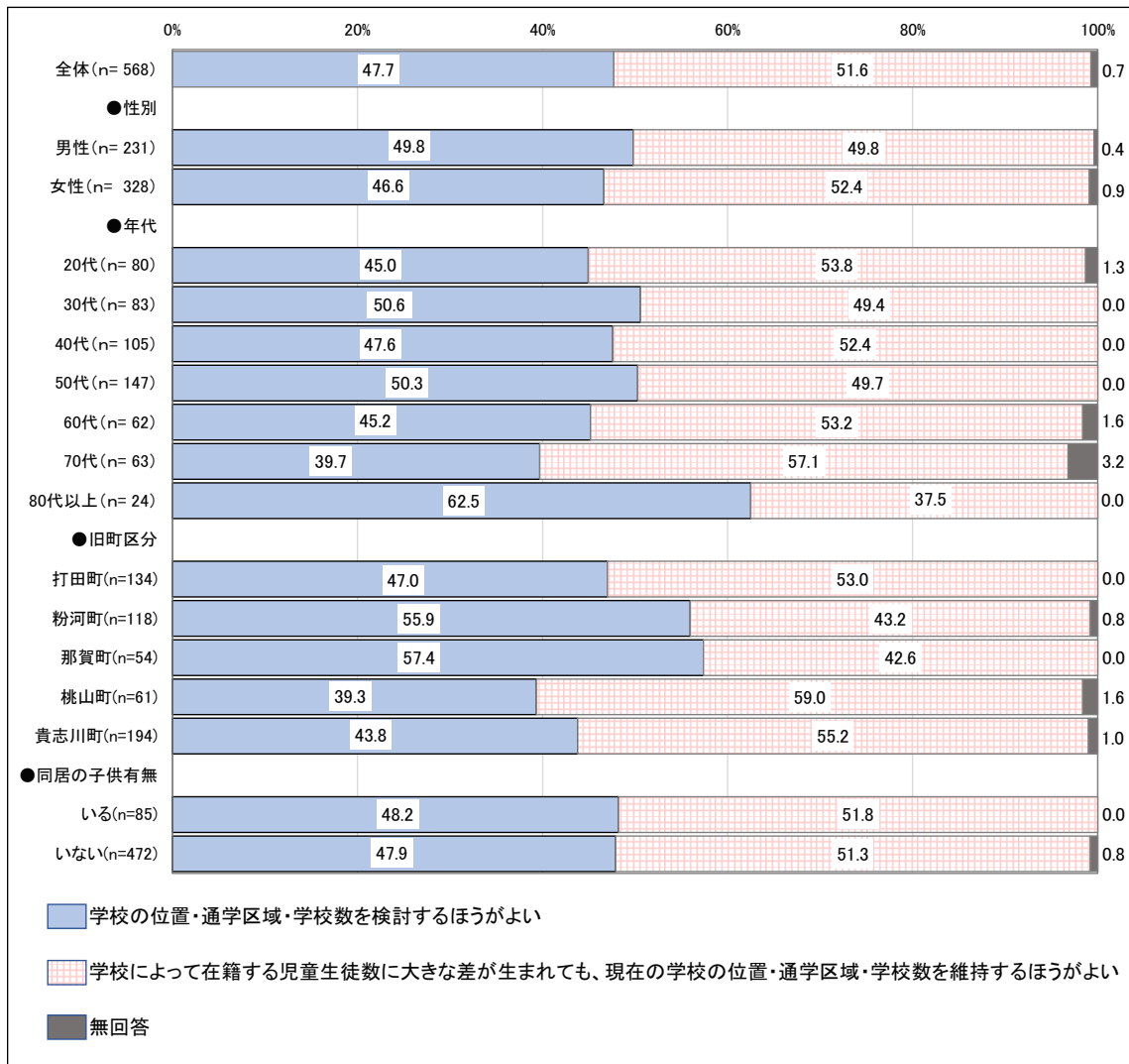
- 「現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持するほうがよい」(51.6%)が「学校の位置・通学区域・学校数を検討するほうがよい」(47.7%)を3.9ポイント上回る。

今後のよりよい教育環境の確保及び向上のための意見を把握するため、「学校の位置・通学区域・学校数を検討するほうがよい」、「学校によって在籍する児童生徒数に大きな差が生まれても、現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持するほうがよい」のいずれかを選んでもらいました。

その結果、「学校によって在籍する児童生徒数に大きな差が生まれても、現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持するほうがよい」(51.6%)と答えた人が「学校の位置・通学区域・学校数を検討するほうがよい」(47.7%)を上回る結果となりました。

属性別にみると、全体と同じ傾向にあるものが多いですが、性別における男性では割合は同率(49.8%)となっており、年代別の30・50・80代、旧町区分別の粉河町・那賀町では「学校の位置・通学区域・学校数を検討するほうがよい」が「学校によって在籍する児童生徒数に大きな差が生まれても、現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持するほうがよい」を上回っています。[図表15参照]

図表 15. 今後の小中学校の教育環境について



(2) 学校規模や配置の対策について

問 16 問 15 で「1) 学校の位置・通学区域・学校数を検討するほうがよい」と答えた方にお聞きします。学校規模や配置の対策として、どの方法が適切だと思いますか。【複数回答】

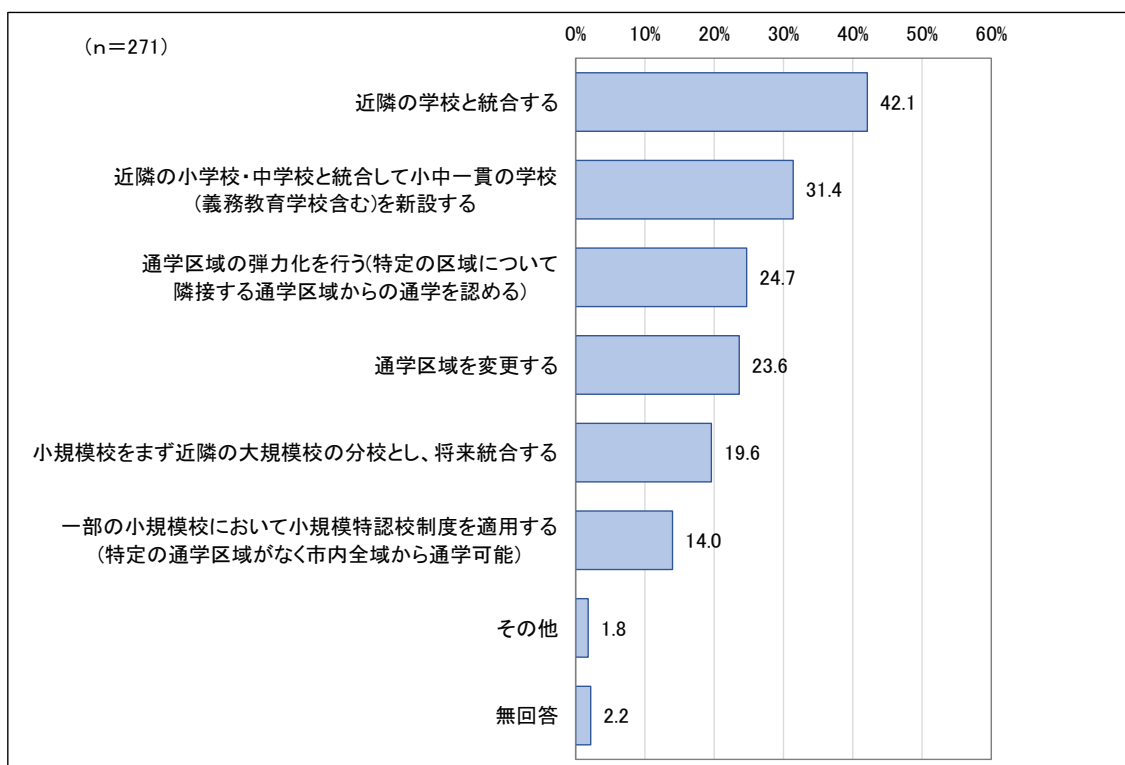


- 「近隣の学校と統合する」(42.1%) の割合が最も高い。

問 15 「今後のよりよい教育環境の確保及び向上のための意見」で「1) 学校の位置・通学区域・学校数を検討するほうがよい」と答えた方に学校規模や配置の対策をたずねたところ、「近隣の学校と統合する」(42.1%) の割合が最も高く、次いで「近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する」(31.4%)、「通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める)」(24.7%) の割合が高くなっています。

属性別にみても、「近隣の学校と統合する」の割合が各属性とも最も高くなっています。[図表 16・17 参照]

図表 16. 学校規模や配置の対策について



図表 17. 学校規模や配置の対策について（属性別—上位第3位、％）

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=271)		近隣の学校と統合する 42.1	近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する 31.4	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 24.7
性別	男性 (n=115)	近隣の学校と統合する 50.4	近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する 32.2	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 24.3
	女性 (n=153)	近隣の学校と統合する 35.9	近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する 30.7	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 24.2
年代	20代 (n=36)	近隣の学校と統合する 47.2	通学区域を変更する 30.6	小規模校をまず近隣の大規模校の分校とし、将来統合する/近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する 25.0
	30代 (n=42)	近隣の学校と統合する 42.9	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 28.6	通学区域を変更する/小規模校をまず近隣の大規模校の分校とし、将来統合する/近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する 23.8
	40代 (n=50)	近隣の学校と統合する/近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する 44.0	通学区域を変更する 22.0	通学区域を変更する 22.0
	50代 (n=74)	近隣の学校と統合する 39.2	通学区域を変更する 27.0	近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する 24.3
	60代 (n=28)	近隣の学校と統合する/近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する 39.3	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 32.1	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 32.1
	70代 (n=25)	近隣の学校と統合する 40.0	一部の小規模校において小規模特認校制度を適用する(特定の通学区域がなく市域全域から通学可能) 36.0	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 32.0
	80代以上 (n=15)	近隣の学校と統合する/近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する 46.7	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 33.3	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 33.3
旧町区分	打田町 (n=63)	近隣の学校と統合する 38.1	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める)/近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する 31.7	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 31.7
	粉河町 (n=66)	近隣の学校と統合する 40.9	近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する 28.8	小規模校をまず近隣の大規模校の分校とし、将来統合する 27.3
	那賀町 (n=31)	近隣の学校と統合する 51.6	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 32.3	小規模校をまず近隣の大規模校の分校とし、将来統合する 25.8
	桃山町 (n=24)	通学区域を変更する/近隣の学校と統合する 33.3	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める)/近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する/一部の小規模校において小規模特認校制度を適用する(特定の通学区域がなく市内全域から通学可能) 25.0	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 25.0
	貴志川町 (n=85)	近隣の学校と統合する 45.9	近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する 37.6	通学区域を変更する 27.1

		第1位	第2位	第3位
子同居 供有無の	いる (n=41)	近隣の学校と統合する 46.3	近隣の小学校・中学校と統合して小中 一貫の学校(義務教育学校含む)を 新設する 34.1	通学区域を変更する 26.8
	いない (n=226)	近隣の学校と統合する 41.2	近隣の小学校・中学校と統合して小中 一貫の学校(義務教育学校含む)を 新設する 29.6	通学区域の弾力化を行う(特定の区 域について隣接する通学区域からの 通学を認める) 24.8

●その他の内容

スクールバスを配備
学校を減らすことにより建物にかかる費用が浮くので、他の事業にまわしてほしい。

(3) 将来の学校の再編について

問 17 問 15 で「1) 学校の位置・通学区域・学校数を検討するほうがよい」と答えた方にお聞きします。将来学校の再編を検討していく際に、特に重要と考えることは何だと思えますか。【複数回答】

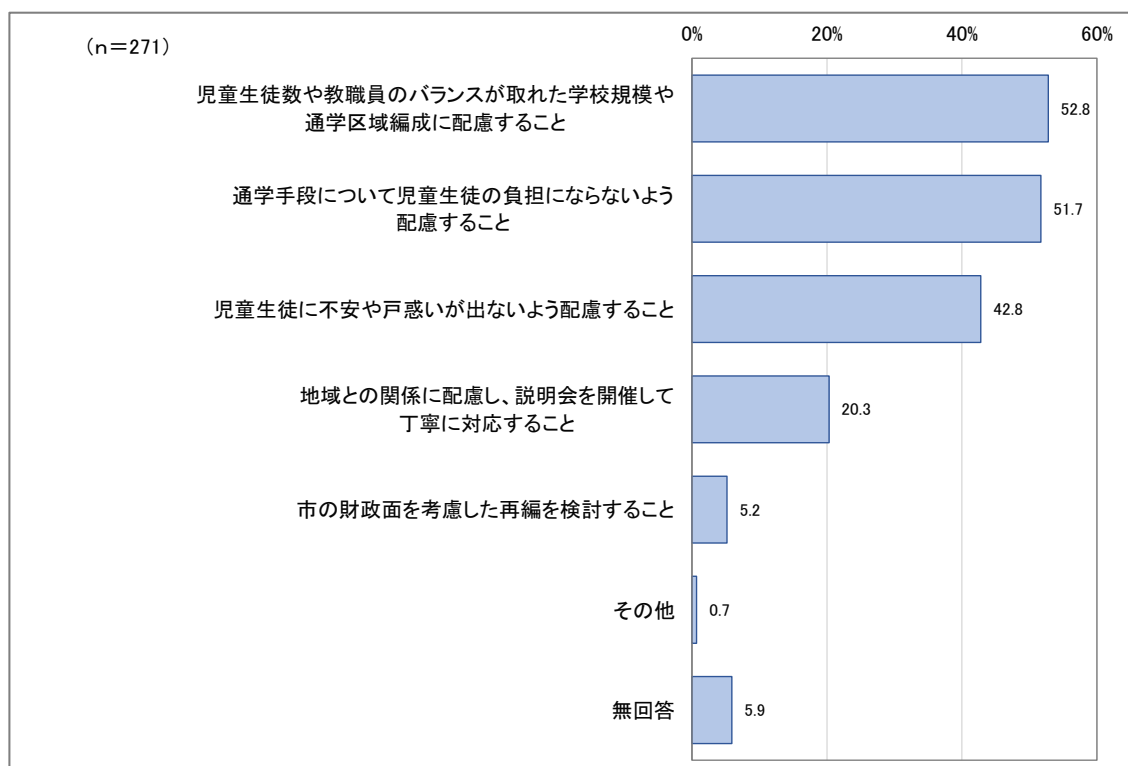
- 「児童生徒数や教職員のバランスが取れた学校規模や通学区域編成に配慮すること」(52.8%)、「通学手段について児童生徒の負担にならないよう配慮すること」(51.7%) の割合が高い。

問 15 で「1) 学校の位置・通学区域・学校数を検討するほうがよい」と答えた方に、将来学校の再編を検討していく際に特に重要と考えることをたずねたところ、「児童生徒数や教職員のバランスが取れた学校規模や通学区域編成に配慮すること」(52.8%) の割合が最も高く、次いで「通学手段について児童生徒の負担にならないよう配慮すること」(51.7%) が第2位、「児童生徒に不安や戸惑いが出ないよう配慮すること」(42.8%) の割合が高くなっており、他を引き離しています。

これら以外では、「地域との関係に配慮し、説明会を開催して丁寧に対応すること」(20.3%)、「市の財政面を考慮した再編を検討すること」(5.2%) といった項目が続いています。

属性別でも、概ね全体と同様の傾向がみられます。[図表 18・19 参照]

図表 18. 将来の学校の再編について



図表 19. 将来の学校の再編について（属性別—上位第3位、％）

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=271)		児童生徒数や教職員のバランスが 取れた学校規模や通学区域編成に 配慮すること 52.8	通学手段について児童生徒の負担に ならないよう配慮すること 51.7	児童生徒に不安や戸惑いが出ない よう配慮すること 42.8
性別	男性 (n=115)	児童生徒数や教職員のバランスが 取れた学校規模や通学区域編成に 配慮すること 54.8	通学手段について児童生徒の負担に ならないよう配慮すること 47.0	児童生徒に不安や戸惑いが出ない よう配慮すること 40.0
	女性 (n=153)	通学手段について児童生徒の負担に ならないよう配慮すること 55.6	児童生徒数や教職員のバランスが 取れた学校規模や通学区域編成に 配慮すること 51.0	児童生徒に不安や戸惑いが出ない よう配慮すること 45.1
年代	20代 (n=36)	児童生徒に不安や戸惑いが出ないよう配慮すること/児童生徒数や教職員の バランスが取れた学校規模や通学区域編成に配慮すること 50.0	通学手段について児童生徒の負担に ならないよう配慮すること 47.2	児童生徒に不安や戸惑いが出ない よう配慮すること 47.2
	30代 (n=42)	通学手段について児童生徒の負担に ならないよう配慮すること 71.4	児童生徒数や教職員のバランスが 取れた学校規模や通学区域編成に 配慮すること 42.9	児童生徒に不安や戸惑いが出ない よう配慮すること 35.7
	40代 (n=50)	通学手段について児童生徒の負担に ならないよう配慮すること 58.0	児童生徒数や教職員のバランスが取 れた学校規模や通学区域編成に配 慮すること 56.0	児童生徒に不安や戸惑いが出ない よう配慮すること 42.0
	50代 (n=74)	児童生徒数や教職員のバランスが 取れた学校規模や通学区域編成に 配慮すること 64.9	通学手段について児童生徒の負担に ならないよう配慮すること 47.3	児童生徒に不安や戸惑いが出ない よう配慮すること 33.8
	60代 (n=28)	児童生徒に不安や戸惑いが出ない よう配慮すること 57.1	児童生徒数や教職員のバランスが取 れた学校規模や通学区域編成に配 慮すること/通学手段について児童 生徒の負担にならないよう配慮す ること 42.9	児童生徒に不安や戸惑いが出ない よう配慮すること 42.9
	70代 (n=25)	児童生徒に不安や戸惑いが出ない よう配慮すること 60.0	児童生徒に不安や戸惑いが出ない よう配慮すること/児童生徒数や 教職員のバランスが取れた学校規 模や通学区域編成に配慮すること 48.0	児童生徒に不安や戸惑いが出ない よう配慮すること 48.0
	80代以上 (n=15)	児童生徒数や教職員のバランスが 取れた学校規模や通学区域編成に 配慮すること 46.7	児童生徒に不安や戸惑いが出ない よう配慮すること 40.0	通学手段について児童生徒の負担 に ならないよう配慮すること 33.3
旧町区分	打田町 (n=63)	児童生徒数や教職員のバランスが 取れた学校規模や通学区域編成に 配慮すること 49.2	通学手段について児童生徒の負担 に ならないよう配慮すること 47.6	児童生徒に不安や戸惑いが出ない よう配慮すること 39.7
	粉河町 (n=66)	通学手段について児童生徒の負担 に ならないよう配慮すること 57.6	児童生徒数や教職員のバランスが 取れた学校規模や通学区域編成に 配慮すること 47.0	児童生徒に不安や戸惑いが出ない よう配慮すること 43.9
	那賀町 (n=31)	児童生徒に不安や戸惑いが出ない よう配慮すること/児童生徒数や 教職員のバランスが取れた学校規 模や通学区域編成に配慮すること 51.6	通学手段について児童生徒の負担 に ならないよう配慮すること 45.2	児童生徒に不安や戸惑いが出ない よう配慮すること 45.2
	桃山町 (n=24)	児童生徒数や教職員のバランスが 取れた学校規模や通学区域編成に 配慮すること 62.5	通学手段について児童生徒の負担 に ならないよう配慮すること 41.7	児童生徒に不安や戸惑いが出ない よう配慮すること/地域との関係に 配慮し、説明会を開催して丁寧 に対応すること 37.5
	貴志川町 (n=85)	児童生徒数や教職員のバランスが 取れた学校規模や通学区域編成に 配慮すること 58.8	通学手段について児童生徒の負担 に ならないよう配慮すること 55.3	児童生徒に不安や戸惑いが出ない よう配慮すること 43.5
子供の 同居の有無	いる (n=41)	児童生徒数や教職員のバランスが 取れた学校規模や通学区域編成に 配慮すること 63.4	通学手段について児童生徒の負担 に ならないよう配慮すること 56.1	児童生徒に不安や戸惑いが出ない よう配慮すること 36.6
	いない (n=226)	児童生徒数や教職員のバランスが 取れた学校規模や通学区域編成に 配慮すること 51.3	通学手段について児童生徒の負担 に ならないよう配慮すること 50.4	児童生徒に不安や戸惑いが出ない よう配慮すること 44.2

●その他の内容

同じ地域の子が同じ学校へ通うこと
小学校の自転車通学を許可すること

(4) 現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持する理由

問 18 問 15 で「2) 学校によって在籍する児童生徒数に大きな差が生じても、現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持するほうがよい」と答えた方にお聞きします。その理由として、当てはまるものをお答えください。【複数回答】

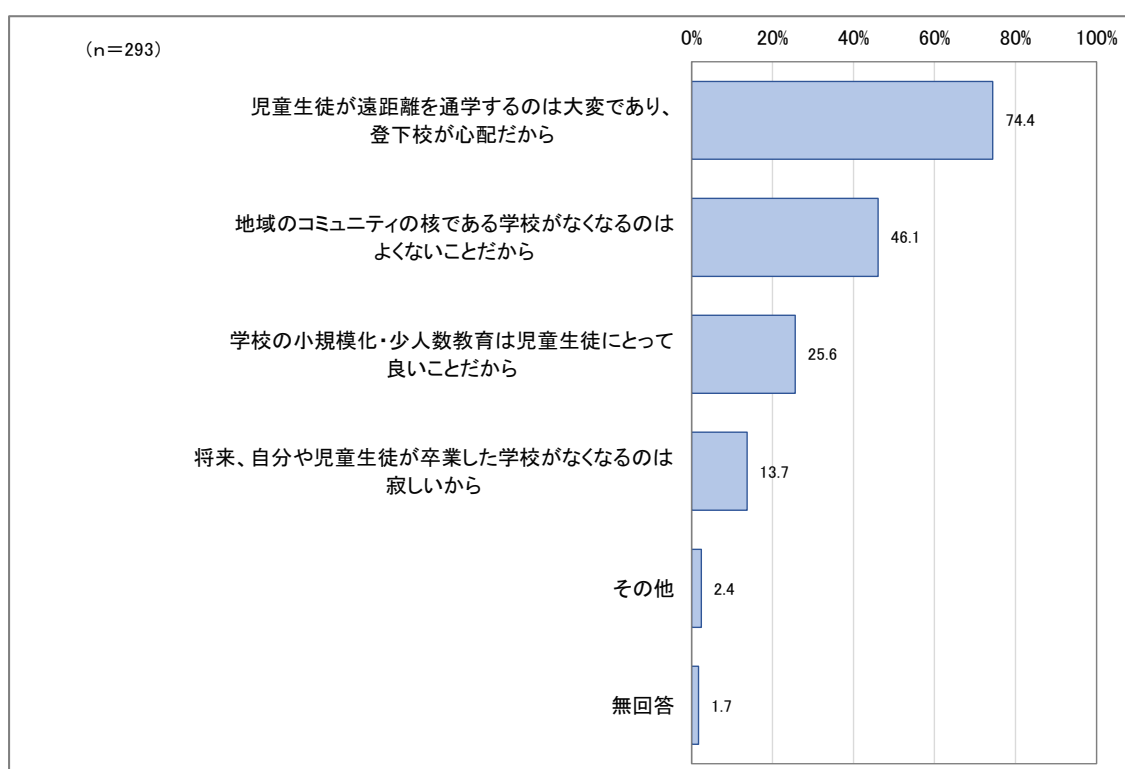
- 「児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから」(74.4%)の割合が他を引き離し、最も高い。

問 15 で「2) 学校によって在籍する児童生徒数に大きな差が生じても、現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持するほうがよい」と答えた方に、現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持する理由をたずねたところ、「児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから」の割合が74.4%となっており、最も高くなっています。

それ以外では、「地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから」(46.1%)、「学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから」(25.6%)、「将来、自分や児童生徒が卒業した学校がなくなるのは寂しいから」(13.7%)と続いています。

属性別でも、すべての属性で「児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから」の割合が最も高くなっており、それ以下の項目も同様の傾向がみられます。[図表 20・21 参照]

図表 20. 現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持する理由



図表 2 1. 現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持する理由

(属性別—上位第3位、%)

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=293)		児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 74.4	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 46.1	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 25.6
性別	男性 (n=115)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 70.4	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 53.0	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 21.7
	女性 (n=172)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 76.2	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 41.3	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 28.5
年代	20代 (n=43)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 72.1	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 32.6	将来、自分や児童生徒が卒業した学校がなくなるのは寂しいから 20.9
	30代 (n=41)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 63.4	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 53.7	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 22.0
	40代 (n=55)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 76.4	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 41.8	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 29.1
	50代 (n=73)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 76.7	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 47.9	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 27.4
	60代 (n=33)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 81.8	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 54.5	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 30.3
	70代 (n=36)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 72.2	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 50.0	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 25.0
	80代以上 (n=9)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 77.8	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 55.6	将来、自分や児童生徒が卒業した学校がなくなるのは寂しいから 22.2
旧町区分	打田町 (n=71)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 69.0	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 46.5	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 32.4
	粉河町 (n=51)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 90.2	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 49.0	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 19.6
	那賀町 (n=23)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 60.9	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 47.8	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 34.8
	桃山町 (n=36)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 61.1	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 41.7	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 25.0
	貴志川町 (n=107)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 78.5	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 46.7	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 20.6
子供同居の有無	いる (n=44)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 77.3	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 36.4	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 25.0
	いない (n=242)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 74.0	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 47.9	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 25.2

●その他の内容

災害時の避難場所になるため
新たに学校を設立したり統合によりかかる資金を、現状の学校の設備の維持や環境の向上（エアコン等）にあててあげてほしいため
遠い将来、多子化になるかもしれないから
住んでいる地区に学校がないと、より過疎化が進む原因となるから
児童数を増やす努力をせよ
学校の数が減れば、先生の数も減るため

4 義務教育学校について

(1) 義務教育学校の設置について

問 19 県内（和歌山市）に義務教育学校が設置されていることについて、どのように思いますか。

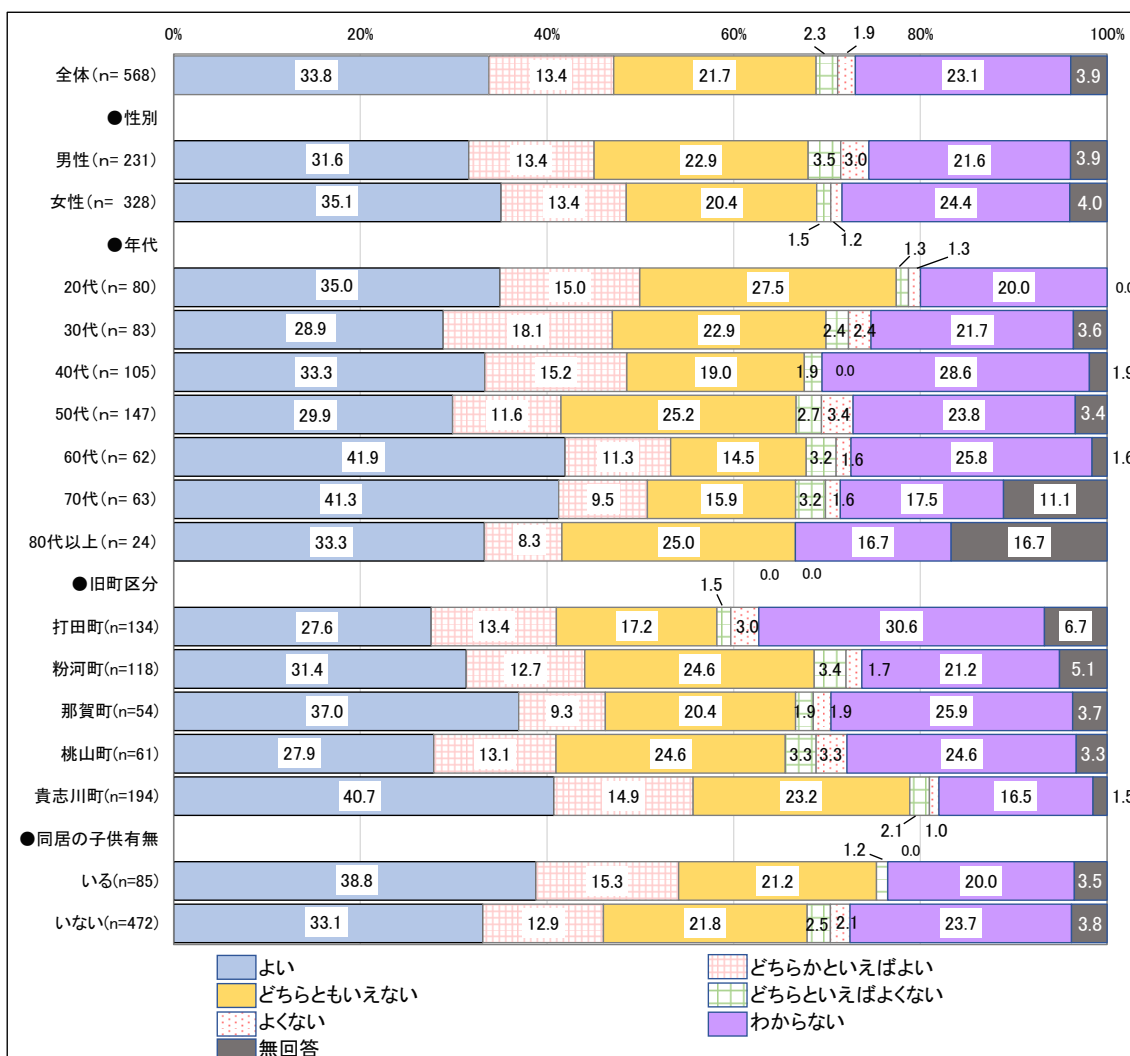
- “よい”（47.2%）が“よくない”（4.2%）を大幅に上回る。

県内（和歌山市）に義務教育学校が設置されていることについて、「よい」、「どちらかといえばよい」、「どちらともいえない」、「どちらかといえばよくない」、「よくない」、「わからない」の中から1つを選んでもらいました。

その結果、“よい”（「よい」（33.8%）と「どちらかといえばよい」（13.4%）の合計）が47.2%、“よくない”（「どちらかといえばよくない」（2.3%）と「よくない」（1.9%）の合計）は4.2%となっており、“よい”が“よくない”を大幅に上回っています。また「どちらともいえない」は21.7%となっています。

また、属性別にみても、“よい”の割合がいずれも“よくない”の割合を大幅に上回っています。[図表22参照]

図表 2.2. 義務教育学校の設置について



学校のあり方に関するアンケート調査

—ご協力のお願—

市民の皆さまには、日頃から市政全般にわたりご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

紀の川市教育委員会では「次代を担う子供たちのためによりよい教育環境の確保及びその向上を図る」ことを目的とし、紀の川市立小中学校の適正規模と適正配置の検討をすすめています。今回、市民の皆さまのご意見をお伺いし、今後の参考とするため、本アンケート調査を実施させていただきます。

お忙しいところ、誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

この調査は、紀の川市にお住まいの20歳以上の方の中から1,500人の方を抽出し、実施しております。ご回答いただいた内容は、調査の目的以外に使用いたしません。

令和3年5月

調査票のご記入にあたって

- ・お手数ですが、回答後は同封の返信用封筒に入れて6月15日（火）までにご返送ください。
- ・宛名のご本人がお答えください。ご本人が記入することが難しい場合は、代理の方に回答していただいても構いません。
- ・記入は、鉛筆やボールペンなど、はっきりと読み取れる筆記用具をご使用ください。
- ・調査票にお名前を書いていただく必要はありません。
- ・お答えは、あてはまる回答の番号に「○」をつけてください。また、「その他」をお選びになった場合は、その後ろにある（ ）の中に内容をご記入ください。
- ・問によっては、（○は1つ）、（○は2つまで）、（○は5つまで）、（○はいくつでも）など、ご記入いただく「○」の数を指定していますので、ご注意ください。
- ・問によっては、前の問の回答によって次に進む問が異なる箇所がありますので、問の指示に従いご回答ください。
- ・この調査につきまして、ご不明な点などございましたら下記へお問い合わせください。

紀の川市教育委員会教育総務課

電話 0736(77)2511 FAX 0736(77)0917

※公立小・中学校の適正規模・適正配置について

公立小・中学校において、活力ある学校づくりのため、地域の実情に応じて学校規模や学校の配置を適正化するための取り組みです。学校統合により魅力ある学校づくりを行ったり、小規模校のデメリットの克服を図りつつ学校の存続を選択したりするなど、複数の選択肢が考えられます。しかし児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、小・中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいものと考えられており、国の基準では、学級数は1学年2学級以上が望ましいとされています。また、通学距離については、小学校は片道4km以内、中学校は片道6km以内が望ましいとされています。ただし、いずれも地域の実情により、特別の事情があるときはこの限りではないとされています。

はじめに、あなたご自身のことについてお伺いします。

【問1】 お住まいの小学校区はどこですか。該当する番号に○をつけてください。(○は1つ)

- | | | | |
|------------|----------------------|------------|------------|
| 1) 池田小学校 | 2) 田中小学校 (※高野分校区を含む) | 3) 長田小学校 | |
| 4) 粉河小学校 | 5) 竜門小学校 | 6) 川原小学校 | 7) 鞆渕小学校 |
| 8) 名手小学校 | 9) 上名手小学校 | 10) 麻生津小学校 | 11) 安楽川小学校 |
| 12) 調月小学校 | 13) 丸栖小学校 | 14) 西貴志小学校 | 15) 中貴志小学校 |
| 16) 東貴志小学校 | | | |

【問2】 アンケートにお答えになっている方の性別をお答えください。(○は1つ)

- | | | |
|-------|-------|------------|
| 1) 男性 | 2) 女性 | 3) どちらでもない |
|-------|-------|------------|

【問3】 アンケートにお答えになっている方の年代をお答えください。(○は1つ)

- | | | | |
|--------|--------|----------|--------|
| 1) 20代 | 2) 30代 | 3) 40代 | 4) 50代 |
| 5) 60代 | 6) 70代 | 7) 80代以上 | |

【問4】 アンケートにお答えになっている方に中学生以下の同居の家族はいらっしゃいますか。(○はいくつでも)

- | | | | |
|--------|------------|------------|------------|
| 1) 就学前 | 2) 小学1・2年生 | 3) 小学3・4年生 | 4) 小学5・6年生 |
| 5) 中学生 | 6) いない | | |

つぎに、市立小学校について、あなたのご意見をお伺いします。

【問5】 小学校の通学距離について、どの程度の距離までが通学可能範囲と思われますか。(○は1つ)

- | | | | | |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| 1) 1 km 以内 | 2) 2 km 以内 | 3) 3 km 以内 | 4) 4 km 以内 | 5) 距離は問わない |
|------------|------------|------------|------------|------------|

※国においては、小学校の通学距離をおおむね4 km 以内としています。また、通学状況に応じてスクールバス等の運行を実施しています。

【問6】 小学校1学年あたりの学級数についてお尋ねします。1学年あたりの学級数(複式学級含む)は何学級がよいと思いますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---------|--------|--------|----------|
| 1) 複式学級 | 2) 1学級 | 3) 2学級 | 4) 3学級以上 |
|---------|--------|--------|----------|

※国においては、小学校では1学年あたり2学級～3学級を標準としています。

※複式学級とは異なる学年の児童を1つの学級に編成した学級です。

【問7】【問6】「小学校1学年あたりの学級数」で選んだ回答の理由として、あてはまるものをお答えください。(○は5つまで)

- 1) 学年全体に活気があり、学年での取り組みが盛大にできる
- 2) 同じ児童とずっと同じ学級で過ごすことができ、お互いの人間関係が深まる
- 3) さまざまな個性や考え方を持つ友達とふれあえる
- 4) 社会性や協調性を育む機会に恵まれる
- 5) 児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい
- 6) クラス替えにより、人間関係に変化を与えることができる
- 7) 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える
- 8) 異学年間の縦の交流が生まれやすい
- 9) 学級間で意識しあい、切磋琢磨する機会ができる
- 10) その他 ()

【問8】小学校1学級あたりの人数についてお尋ねします。1学級あたりの児童数は何人程度がよいと思いますか。(○は1つ)

- | | | | |
|----------|-----------|-----------|-----------|
| 1) 10人以下 | 2) 11~20人 | 3) 21~30人 | 4) 31~40人 |
|----------|-----------|-----------|-----------|

※国においては、小学校1年と2年生は35人以下、その他の学年は40人以下を標準としています。
(R3.5.1現在)

【問9】【問8】「小学校1学級あたりの人数」で選んだ回答の理由として、あてはまるものをお答えください。(○は5つまで)

- 1) 児童が切磋琢磨して運動や学習ができる
- 2) 児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい
- 3) 集団内において色々な役割分担を経験できる
- 4) 学級内の絆が強まる
- 5) 社会性や協調性を育む機会に恵まれる
- 6) 授業の内容や指導方法(学習形態)を学習目的に応じて柔軟に切り替えることができる
- 7) 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい
- 8) 学級内でいろいろな友達付き合いができる
- 9) 一人に対して、実験や体験等の機会が増える
- 10) その他 ()

続いて、市立中学校について、あなたのご意見をお伺いします。

【問10】中学校の通学距離について、どの程度の距離までが通学可能範囲と思われますか。(○は1つ)

- | | | | | |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| 1) 2 km 以内 | 2) 4 km 以内 | 3) 6 km 以内 | 4) 8 km 以内 | 5) 距離は問わない |
|------------|------------|------------|------------|------------|

※国においては、中学校の通学距離をおおむね6 km 以内としています。また、通学状況に応じてスクーターバス等の運行を実施しています。

【問 11】 中学校 1 学年あたりの学級数についてお尋ねします。1 学年あたりの学級数（複式学級含む）は何学級がよいと思いますか。（○は 1 つ）

- | | | | |
|---------|---------|-----------|-----------|
| 1) 複式学級 | 2) 1 学級 | 3) 2～3 学級 | 4) 4 学級以上 |
|---------|---------|-----------|-----------|

※国においては、中学校では 1 学年あたり 4 学級～6 学級を標準としています。

※複式学級とは異なる学年の生徒を 1 つの学級に編成した学級です。

【問 12】 【問 11】「中学校 1 学年あたりの学級数」で選んだ回答の理由として、あてはまるものをお答えください。（○は 5 つまで）

- | |
|---|
| 1) 学年全体に活気があり、学年での取り組みが盛大にできる |
| 2) 学校全体でさまざまな種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい |
| 3) 同じ生徒とずっと同じ学級で過ごすことができ、お互いの人間関係が深まる |
| 4) さまざまな個性や考え方を持つ友達とふれあえる |
| 5) 社会性や協調性を育む機会に恵まれる |
| 6) 生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい |
| 7) クラス替えにより、人間関係に変化を与えることができる |
| 8) 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える |
| 9) 異学年間の縦の交流が生まれやすい |
| 10) 学級間で意識しあい、切磋琢磨する機会ができる |
| 11) その他 () |

【問 13】 中学校 1 学級あたりの人数についてお尋ねします。1 学級あたりの生徒数は何人程度がよいと思いますか。（○は 1 つ）

- | | | | |
|-----------|------------|------------|------------|
| 1) 10 人以下 | 2) 11～20 人 | 3) 21～30 人 | 4) 31～40 人 |
|-----------|------------|------------|------------|

※国においては、中学校は 40 人以下を標準としています。（R3. 5. 1 現在）

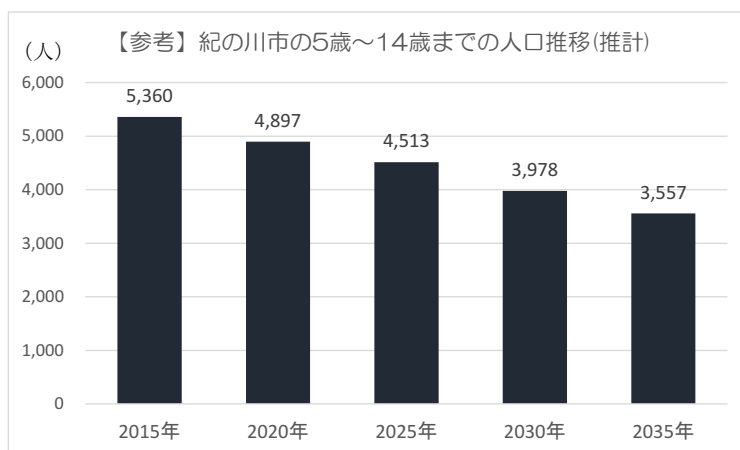
【問 14】 【問 13】「中学校 1 学級あたりの人数」で選んだ回答の理由として、あてはまるものをお答えください。（○は 5 つまで）

- | |
|--|
| 1) 生徒が切磋琢磨して運動や学習ができる |
| 2) 生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい |
| 3) 集団内においていろいろな役割分担を経験できる |
| 4) 学級内の絆が強まる |
| 5) 社会性や協調性を育む機会に恵まれる |
| 6) 授業の内容や指導方法（学習形態）を学習目的に応じて柔軟に切り替えることができる |
| 7) 体育祭などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい |
| 8) 学級内でいろいろな友達付き合いができる |
| 9) 生徒一人に対して、実験や体験等の機会が増える |
| 10) その他 () |

続いて、市立学校の今後の適正な規模や配置について、あなたのご意見をお伺いします。

【問 15】 今後、下記のグラフのように、将来児童生徒数が少なくなることが予測されます。これからの紀の川市の小中学校のよりよい教育環境の確保及び向上のためには、どちらを選んだ方がよいと思いますか。(○は1つ)

- 1) 学校の位置・通学区域・学校数を検討するほうがよい ⇒【問 16】【問 17】にお進みください
- 2) 学校によって在籍する児童生徒数に大きな差が生まれても、現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持するほうがよい ⇒【問 18】にお進みください



出典：将来人口・世帯予測ツールV2（国土技術政策総合研究所）

【問 16】【問 15】で「1) 学校の位置・通学区域・学校数を検討するほうがよい」と答えた方にお聞きします。学校規模や配置の対策として、どの方法が適切だと思いますか。(○は2つまで)

- 1) 通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める)
- 2) 通学区域を変更する
- 3) 近隣の学校と統合する
- 4) 小規模校をまず近隣の大規模校の分校とし、将来統合する
- 5) 近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する
- 6) 一部の小規模校において小規模特認校制度を適用する
(特定の通学区域がなく市内全域から通学可能)
- 7) その他 ()

※義務教育学校とは

小学校の6年間と中学校の3年間の義務教育期間の合計9年間で1つの学校として、一貫の教育を実施するための学校です。義務教育を一貫して行い、9年間の系統的な教育、9年間の継続的な生徒指導、1年生から9年生までの異学年交流が行われることが、主な特徴となっています。

※小規模特認校とは

小規模校の特性を活かして特色ある教育を展開している、通学区域外からでも入学を許可することのできる学校のことです。

【問 17】【問 15】で「1) 学校の位置・通学区域・学校数を検討するほうがよい」と答えた方にお聞きします。将来学校の再編を検討していく際に、特に重要と考えることは何だと思えますか。(○は2つまで)

- | |
|---|
| 1) 児童生徒に不安や戸惑いが出ないように配慮すること |
| 2) 地域との関係に配慮し、説明会を開催して丁寧に対応すること |
| 3) 児童生徒数や教職員のバランスが取れた学校規模や通学区域編成に配慮すること |
| 4) 通学手段について児童生徒の負担にならないよう配慮すること |
| 5) 市の財政面を考慮した再編を検討すること |
| 6) その他 () |

【問 18】【問 15】で「2) 学校によって在籍する児童生徒数に大きな差が生じても、現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持するほうがよい」と答えた方にお聞きします。その理由として、当てはまるものをお答えください。(○は2つまで)

- | |
|-------------------------------------|
| 1) 学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから |
| 2) 児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから |
| 3) 地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから |
| 4) 将来、自分や児童生徒が卒業した学校がなくなるのは寂しいから |
| 5) その他 () |

最後に、以下の質問について、あなたのご意見をお伺いします。

【問 19】 県内（和歌山市）に義務教育学校が設置されていることについて、どのように思いますか。
(○は1つ)

- | | | |
|-----------------|---------------|--------------|
| 1) よい | 2) どちらかといえばよい | 3) どちらともいえない |
| 4) どちらかといえばよくない | 5) よくない | 6) わからない |

【問 20】 その他、紀の川市の学校のあり方に関してご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。

--

質問は以上となります。ご協力、ありがとうございました。

お手数ですが、同封の返信用封筒に入れて6月15日（火）までにご返送ください。

**紀の川市立学校適正配置のための
学校のあり方に関するアンケート調査報告書
【保護者調査】**

令和3年8月

紀 の 川 市

目 次

1. 調査の概要と回答者の属性	1
1 調査の概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査対象及び調査方法	1
(3) 配布数及び回収結果	1
(4) 本報告書の留意事項について	1
2 回答者の属性	2
(1) お住まいの小学校区	2
(2) 性別	2
(3) 年代	3
(4) お子様の年代	3
2. 調査の結果	4
1 市立小学校について	4
(1) 小学校の通学距離について	4
(2) 小学校1学年あたりの学級数について	5
(3) 「小学校1学年あたりの学級数」で選んだ理由	6
(4) 小学校1学級あたりの児童数	9
(5) 「小学校1学級あたりの児童数」で選んだ理由	10
2 市立中学校について	13
(1) 中学校の通学可能範囲	13
(2) 中学校1学年あたりの学級数	15
(3) 「中学校1学年あたりの学級数」で選んだ理由	16
(4) 中学校1学級あたりの生徒数	19
(5) 「中学校1学級あたりの人数」で選んだ理由	20
3 市立学校の今後の適正な規模や配置について	23
(1) 今後の小中学校の教育環境について	23
(2) 学校規模や配置の対策について	25
(3) 将来学校の再編について	28
(4) 現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持する理由	31
4 義務教育学校について	34
(1) 義務教育学校の設置について	34
資料 アンケート調査票	36

1. 調査の概要と回答者の属性

1 調査の概要

(1) 調査の目的

紀の川市立小学校の適正規模・適正配置を検討するうえでの参考資料とするため、小学校及び未就学児の保護者を対象にアンケート調査を実施する。

(2) 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	紀の川市内の学校・保育園等に通う小学生までの子どもを持つ保護者
調査方法	各学校・保育園等を通して保護者に配布し回収
調査時期	令和3年5月～6月

(3) 配布数及び回収結果

配布数	2873
有効回収数	2489
有効回収率	86.6%

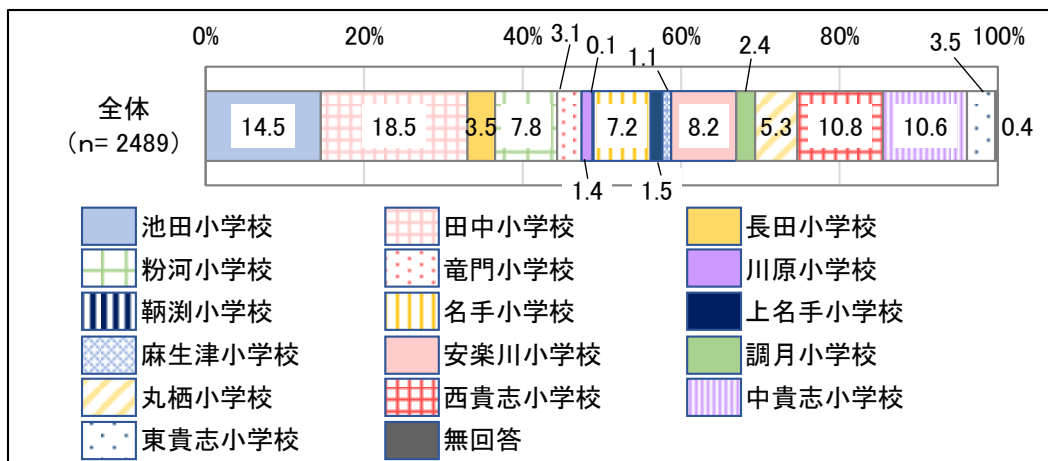
(4) 本報告書の留意事項について

- ① 比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。従って、合計が100%を上下する場合があります。
- ② 基数となるべき実数(人数)は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出しています。
- ③ 設問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出してもよい問であり、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- ④ グラフ中で0.0%と表示されているものは、原則として回答者0人となります。回答者がいるものの数値の表示上0.0%と表記されている場合については、個別に設問内で注記しています。

2 回答者の属性

(1) お住まいの小学校区

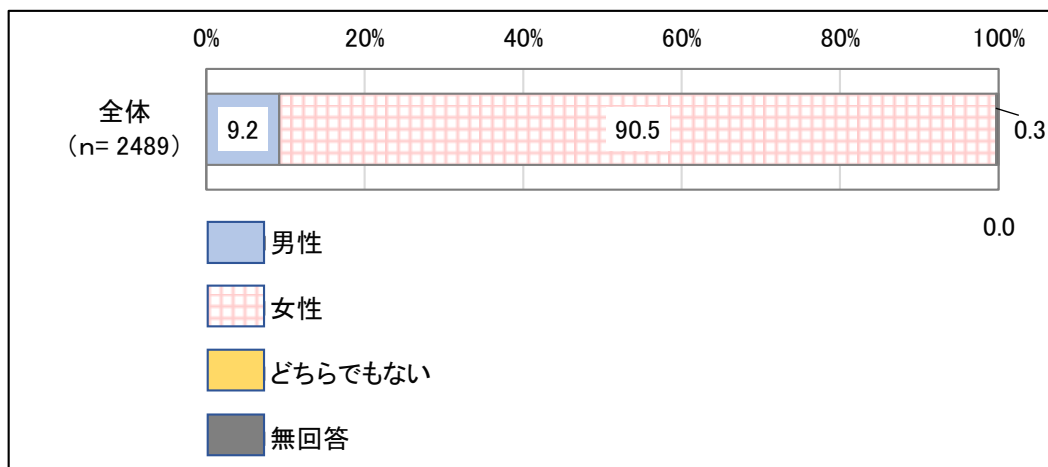
回答者のお住まいの小学校区は、「田中小学校」(18.5%)、「池田小学校」(14.5%)、「西貴志小学校」(10.8%)、「中貴志小学校」(10.6%)、「安楽川小学校」(8.2%)、「粉河小学校」(7.8%)、「名手小学校」(7.2%)、「丸栖小学校」(5.3%)、「長田小学校」・「東貴志小学校」(同率 3.5%)、「竜門小学校」(3.1%)、「調月小学校」(2.4%)、「上名手小学校」(1.5%)、「川原小学校」(1.4%)、「麻生津小学校」(1.1%)、「鞆淵小学校」(0.1%)となっています。



(2) 性別

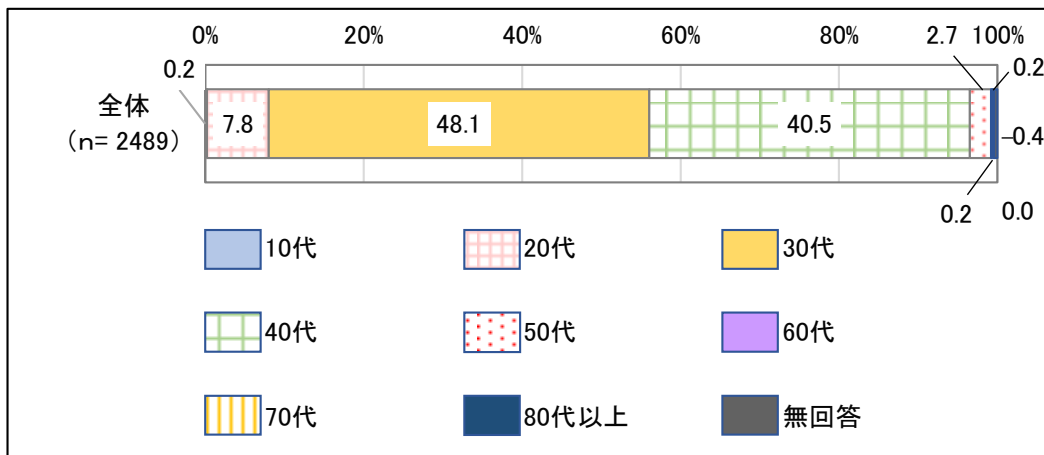
回答者の性別構成は、「女性」(90.5%)、「男性」(9.2%)、「どちらでもない」(0.0%)となっています。

※「どちらでもない」は数値の表示上 0.0%ですが、1名回答がありました。



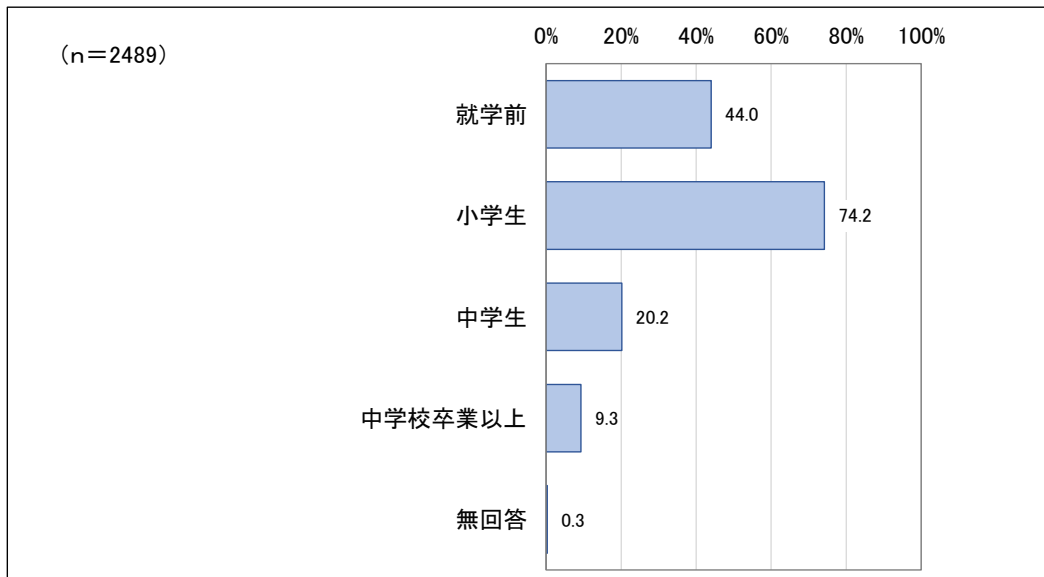
(3) 年代

回答者の年代は、「30代」(48.1%)、「40代」(40.5%)、「20代」(7.8%)、「50代」(2.7%)、「10代」・「60代」・「70代」(同率0.2%)、「80代以上」(0.0%)の順となっています。



(4) お子様の年代

回答者のお子様の年代は、「小学生」(74.2%)、「就学前」(44.0%)、「中学生」(20.2%)、「中学校卒業以上」(9.3%)となっています。



2. 調査の結果

1 市立小学校について

(1) 小学校の通学距離について

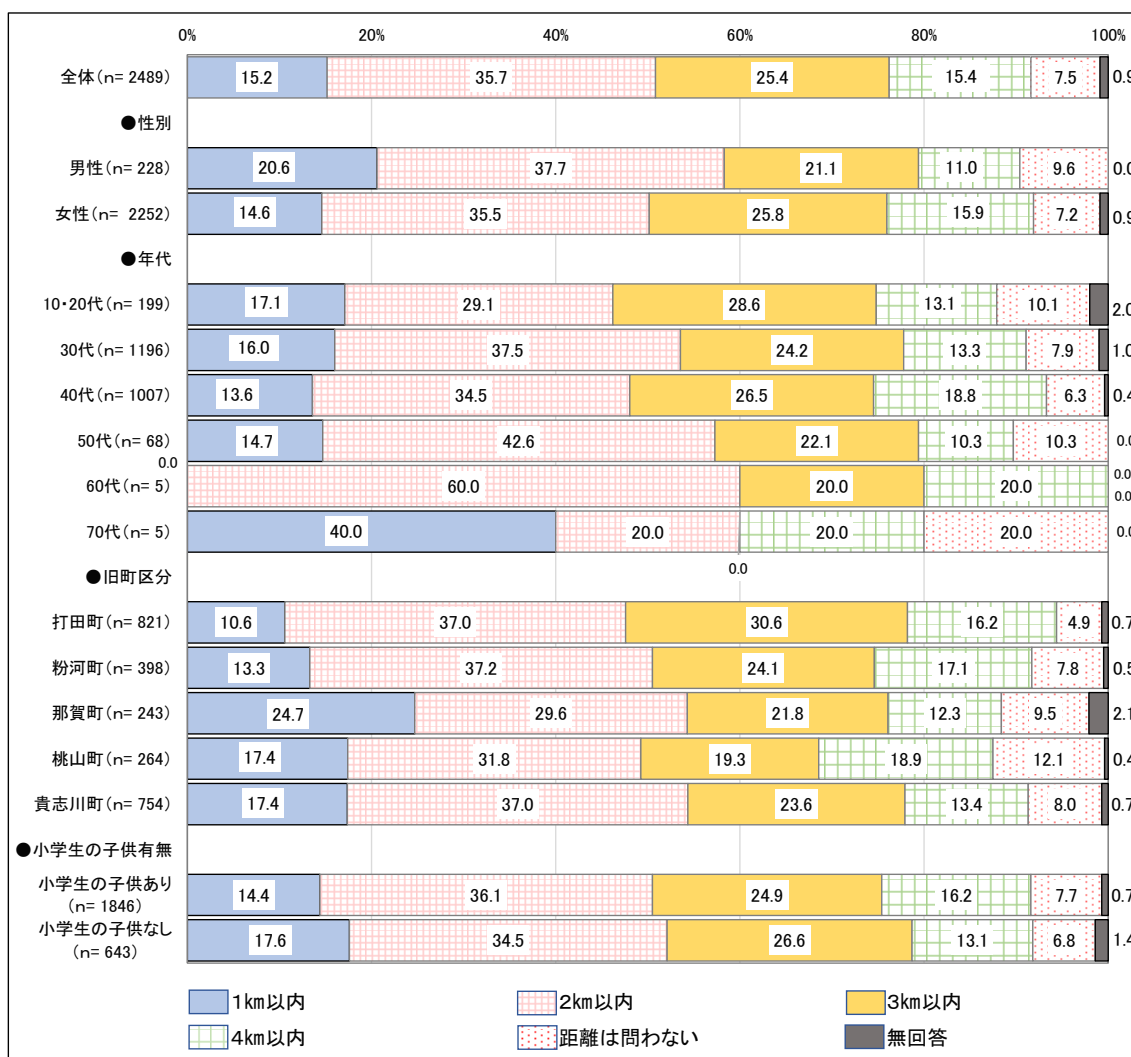
問5 小学校の通学距離について、どの程度までが通学可能範囲と思われますか。

- 通学可能範囲は、「2 km 以内」(35.7%)、「3 km 以内」(25.4%) と考える人で約6割を占めている。

小学校の通学可能範囲に関して、どの程度までが通学範囲と思われるかをたずねたところ、「2 km 以内」と答えた人が35.7%で最も多く、次いで「3 km 以内」(25.4%)、「4 km 以内」(15.4%)、「1 km 以内」(15.2%) の順となっており、「距離は問わない」と答えた人は7.5%となっています。

属性別でも、ほとんどの属性で「2 km 以内」が最も多くなっており、続いて「3 km 以内」、「1 km 以内」、「4 km 以内」の順となっています。[図表1参照]

図表1. 小学校の通学距離について



(2) 小学校1学年あたりの学級数について

問6 小学校1学年あたりの学級数についてお尋ねします。1学年あたりの学級数(複式学級含む)は何学級がよいと思いますか。



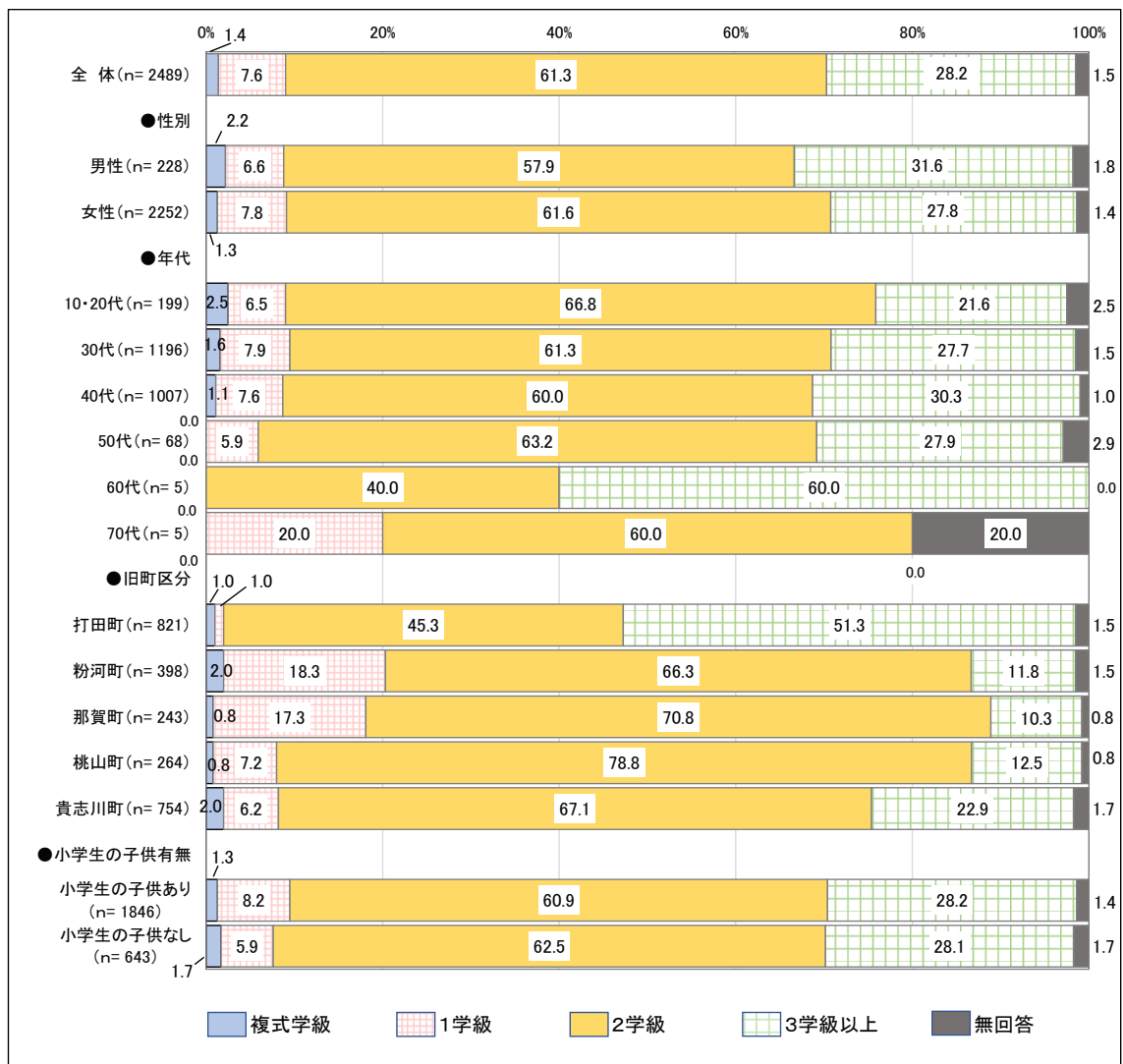
● 1学年あたりの学級数は「2学級」が適当と思われる方が多く、次いで「3学級以上」となっている。

小学校1学年あたりの学級数については、「2学級」が61.3%と大半を占めており、続いて「3学級以上」(28.2%)、「1学級」(7.6%)、「複式学級」(1.4%)の順となっています。

属性別にみても、ほとんどの属性で「2学級」の割合が最も高く、続いて「3学級以上」、「1学級」、「複式学級」の順になっています。

旧町区分別ではややばらつきがみられ、打田町では、「3学級以上」が51.3%と半数以上を占めています。粉河町や那賀町では、「1学級」がそれぞれ18.3%、17.3%と、2割弱程度みられます。[図表2参照]

図表2. 小学校1学年あたりの学級数



(3) 「小学校1学年あたりの学級数」で選んだ理由

問7 問6「小学校1学年あたりの学級数」で選んだ回答の理由として、あてはまるものをお答えください。【複数回答】

- 「クラス替えにより、人間関係に変化を与えることができる」(64.1%)、「児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい」(50.7%)、「さまざまな個性や考え方を持つ友達とふれあえる」(48.5%)といった項目の割合が高い。

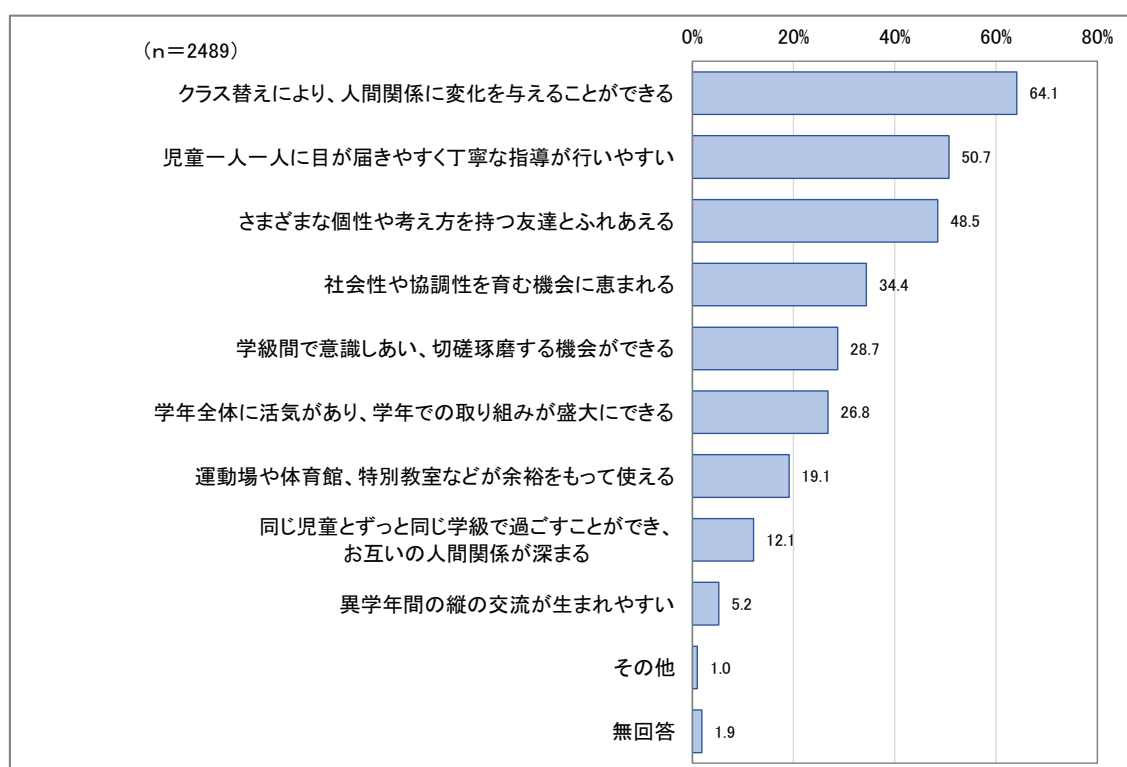
問6で「小学校1学年あたりの学級数」で選んだ回答の理由をたずねたところ、「クラス替えにより、人間関係に変化を与えることができる」(64.1%)の割合が最も高く、次いで「児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい」(50.7%)、「さまざまな個性や考え方を持つ友達とふれあえる」(48.5%)といった項目の割合が高くなっています。

これら以外では、「社会性や協調性を育む機会に恵まれる」(34.4%)、「学級間で意識しあい、切磋琢磨する機会ができる」(28.7%)、「学年全体に活気があり、学年での取り組みが盛大にできる」(26.8%)といった項目が続いています。

属性別でも、ほとんどの属性で「クラス替えにより、人間関係に変化を与えることができる」の割合が最も高くなっており、それ以下の項目も概ね同様の傾向となっています。

問6で答えた学級数別においては、1学級では「同じ児童とずっと同じ学級で過ごすことができ、お互いの人間関係が深まる」(66.8%)、2学級と3学級以上では、「クラス替えにより、人間関係に変化を与えることができる」(各71.2%、68.9%)の割合が最も高くなっています。[図表3・4参照]

図表3. 「小学校1学年あたりの学級数」で選んだ回答の理由について



図表4. 「小学校1学年あたりの学級数」で選んだ回答の理由について
(属性別—上位第3位、%)

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=2489)		クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 64.1	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 50.7	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 48.5
性別	男性 (n=228)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 67.5	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 54.4	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 39.9
	女性 (n=2252)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 63.9	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 51.9	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 47.9
年代	10・20代 (n=199)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 60.3	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 49.2	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 39.7
	30代 (n=1196)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 63.0	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 53.3	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 46.3
	40代 (n=1007)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 65.6	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 50.6	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 50.0
	50代 (n=68)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 75.0	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 55.9	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 42.6
	60代 (n=5)	さまざまな個性や考え方を持つ友達とふれあえる/児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい/クラス替えにより、人間関係に変化を与えることができる		60.0
	70代 (n=5)	学年全体に活気があり、学年での取り組みが盛大にできる/さまざまな個性や考え方を持つ友達とふれあえる/児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい/クラス替えにより、人間関係に変化を与えることができる/運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える/学級間で意識しあい、切磋琢磨する機会ができる		40.0
旧町区分	打田町 (n=821)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 62.9	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 51.3	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 48.5
	粉河町 (n=398)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 62.3	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 55.3	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 45.7
	那賀町 (n=243)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 60.5	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 57.2	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 39.9
	桃山町 (n=264)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 68.6	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 56.1	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 50.8
	貴志川町 (n=754)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 67.5	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 48.9	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 46.2
子供学 生有 無の	いる (n=1846)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 64.0	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 52.0	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 47.0
	いない (n=643)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 64.4	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 52.6	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 47.3
学級 数別	複式学級 (n=35)	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 62.9	社会性や協調性を育む機会に恵まれる 57.1	異学年間の縦の交流が生まれやすい 51.4
	1学級 (n=190)	同じ児童とずっと同じ学級で過ごすこと ができ、お互いの人間関係が深まる 66.8	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 58.9	異学年間の縦の交流が生まれやすい 22.1
	2学級 (n=1526)	クラス替えにより、人間関係に変化 を与えることができる 71.2	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 50.0	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 49.3
	3学級以上 (n=701)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 68.9	さまざまな個性や考え方を持つ友達 とふれあえる 56.3	児童一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 52.5

●その他の内容

区 分	内 容
1 学級	1 学年の人数が少ないため仕方がない
	少子化を考慮し1 学年1 学級でも充分、親も交流しやすい
	人間関係に変化を与えずに済むことができる
	人数にもよりますが、小人数の数クラスあれば良いと思います
	クラス替えや人数が多すぎるのは子供にとって緊張や不安を伴うため
2 学級	新型コロナウイルス感染対策
	2 学級程度だと全員の顔、名前が覚えられる
	問題があった場合、クラス替えで解消できることもあると思うから
	2 学級程度がクラス替えをしてもそれまでの交友関係が継続しやすい
3 学級以上	新型コロナウイルス感染対策
	教員側の余裕
	自身が小学生の頃マンモス校だったので
	中学校に入って大人数・多クラスになじめるように
	体が大きくなるにつれ、せますぎると思う事が授業参観で見ているとよくある
無回答	それぞれの良い所、悪い所があるので、特にこだわらない

(4) 小学校1学級あたりの児童数

問8 小学校1学級あたりの人数についてお尋ねします。1学級あたりの児童数は何人程度がよいと思いますか。



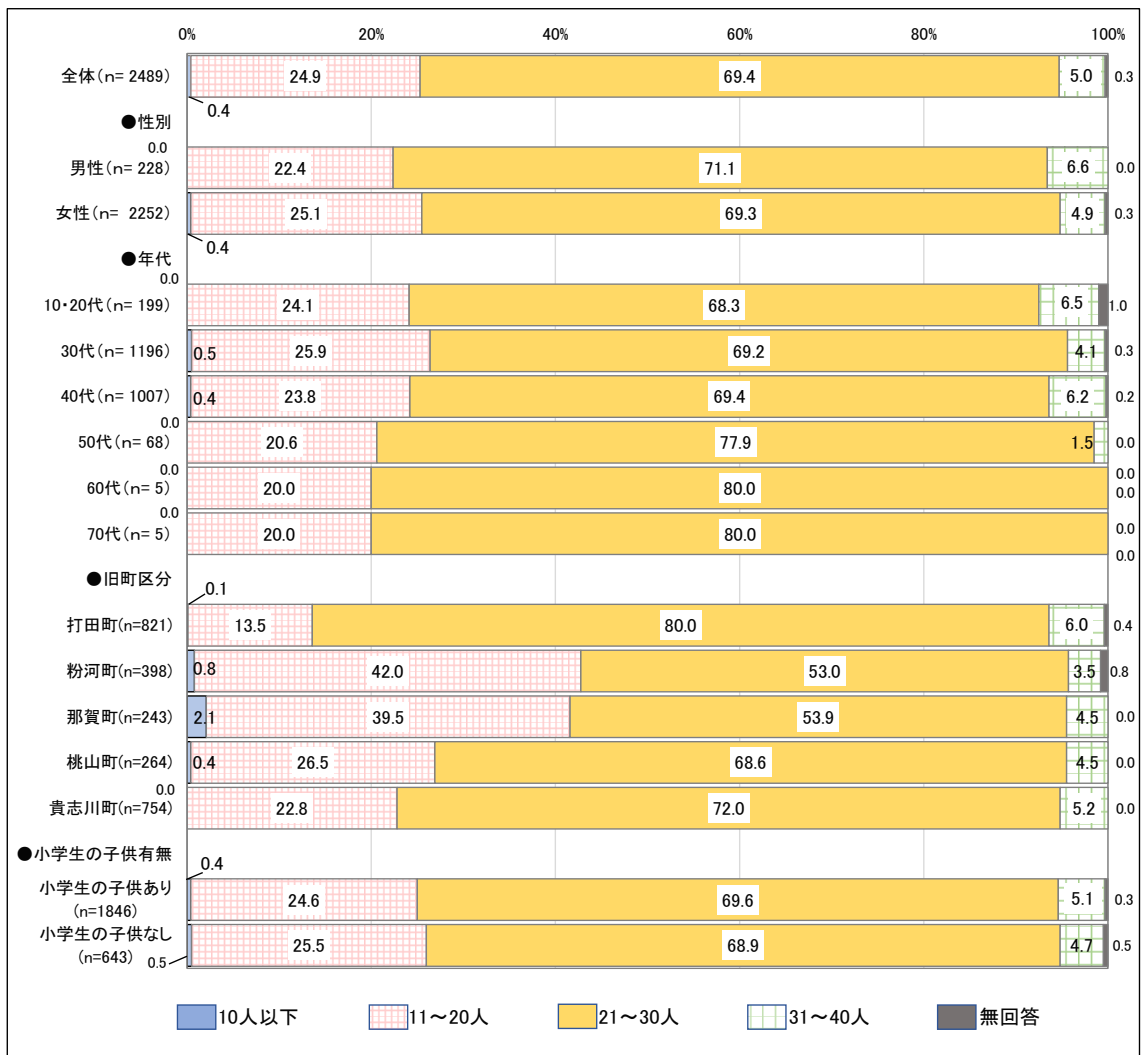
● 「21～30人」(69.4%)が他を引き離し、最も割合が高い。

小学校1学級あたりの児童数については、「21～30人」の割合が69.4%と7割近くを占めており、続いて「11～20人」(24.9%)、「31～40人」(5.0%)、「10人以下」(0.4%)の順となっています。

属性別でも、すべての属性で「21～30人」が最も高い割合を占めており、続いて「11～20人」、「31～40人」、「10人以下」の順となっています。

旧町区分においては、粉河町・那賀町で「11～20人」の割合が比較的高くなっています(各42.0%、39.5%)。[図表5参照]

図表5. 小学校1学級あたりの児童数



(5) 「小学校1学級あたりの人数」で選んだ理由

問9 問8「小学校1学級あたりの人数」で選んだ回答の理由として、あてはまるものをお答えください。【複数回答】

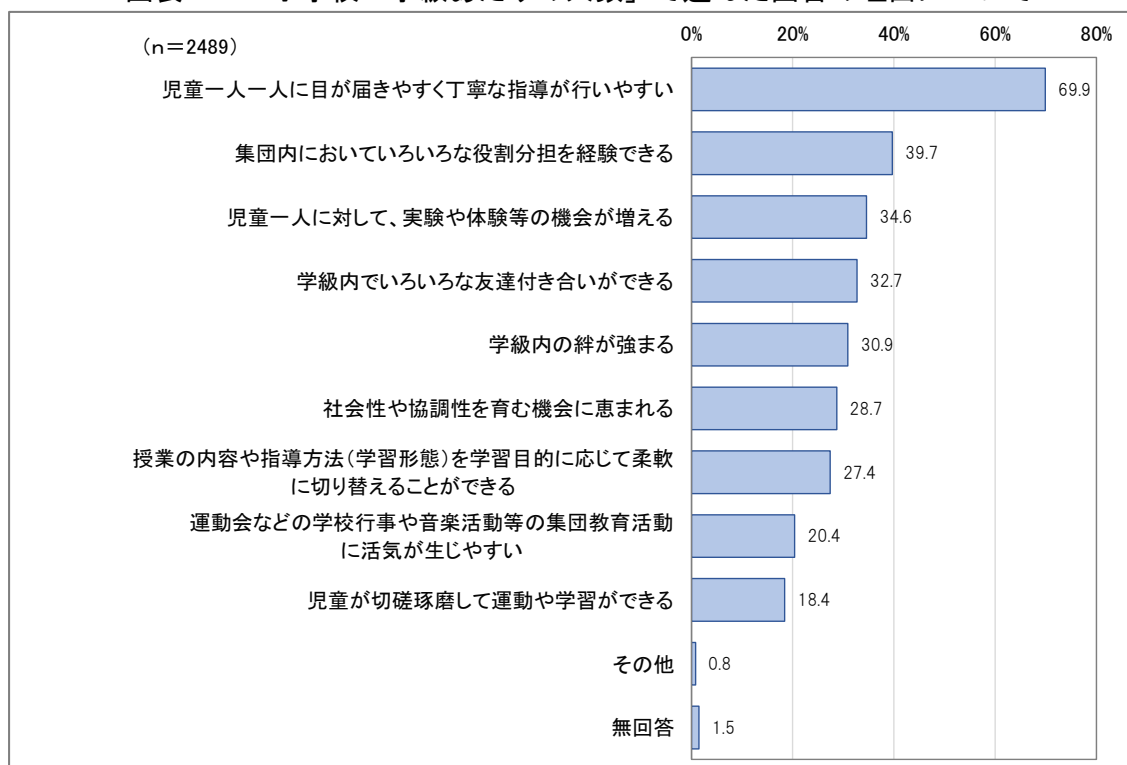
- 「児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい」(69.9%)の割合が他を引き離し、最も高い。

問8「小学校1学級あたりの人数」で選んだ回答の理由をたずねたところ、「児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい」(69.9%)の割合が最も高く、次いで「集団内においていろいろな役割分担を経験できる」(39.7%)、「児童一人に対して、実験や体験等の機会が増える」(34.6%)の割合が高くなっています。

これら以外では、「学級内でいろいろな友達付き合いができる」(32.7%)、「学級内の絆が強まる」(30.9%)、「社会性や協調性を育む機会に恵まれる」(28.7%)、「授業の内容や指導方法(学習形態)を学習目的に応じて柔軟に切り替えることができる」(27.4%)といった項目が続いています。

属性別にみても、ほとんどの属性で「児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい」の割合が最も高くなっており、それ以下の項目に関しても、概ね同様の傾向となっていますが、年代別の10代・20代・70代、学級人数別の31~40人は「集団内においていろいろな役割分担ができる」の割合が高くなっています。[図表6・7参照]

図表6. 「小学校1学級あたりの人数」で選んだ回答の理由について



図表7. 「小学校1学級あたりの人数」で選んだ回答の理由について
(属性別—上位第3位、%)

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=2489)		児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 69.9	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 39.7	児童一人に対して、実験や体験等の機会が増える 34.6
性別	男性 (n=228)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 65.4	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 43.0	児童一人に対して、実験や体験等の機会が増える 39.0
	女性 (n=2252)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 70.3	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 39.4	児童一人に対して、実験や体験等の機会が増える 34.2
年代	10・20代 (n=199)	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 50.3	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 45.7	学級内でいろいろな友達付き合いができる 43.7
	30代 (n=1196)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 70.9	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 40.6	学級内でいろいろな友達付き合いができる 34.5
	40代 (n=1007)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 73.2	児童一人に対して、実験や体験等の機会が増える 38.4	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 36.2
	50代 (n=68)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 73.5	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 44.1	児童一人に対して、実験や体験等の機会が増える 41.2
	60代 (n=5)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 80.0	児童一人に対して、実験や体験等の機会が増える 60.0	学級内の絆が強まる/社会性や協調性を育む機会に恵まれる/授業の内容や指導方法(学習形態)を学習目的に応じて柔軟に切り替えることができる/運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい/学級内でいろいろな友達付き合いができる 40.0
	70代 (n=5)	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 60.0	児童が切磋琢磨して運動や学習ができる/児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい/学級内の絆が強まる/授業の内容や指導方法(学習形態)を学習目的に応じて柔軟に切り替えることができる/児童一人に対して、実験や体験等の機会が増える 40.0	40.0
旧町区分	打田町 (n=821)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 67.1	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 41.9	学級内でいろいろな友達付き合いができる 35.9
	粉河町 (n=398)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 73.9	児童一人に対して、実験や体験等の機会が増える 41.5	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 35.2
	那賀町 (n=243)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 77.0	児童一人に対して、実験や体験等の機会が増える 38.3	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 34.2
	桃山町 (n=264)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 74.6	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 38.6	児童一人に対して、実験や体験等の機会が増える 35.2
	貴志川町 (n=754)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 67.2	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 41.9	学級内でいろいろな友達付き合いができる 35.3
子小 供学 有生 無の	いる (n=1846)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 72.1	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 38.4	児童一人に対して、実験や体験等の機会が増える 36.8
	いない (n=643)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 63.5	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 43.4	学級内でいろいろな友達付き合いができる 39.3
学級人数別	10人以下 (n=10)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 90.0	児童一人に対して、実験や体験等の機会が増える 50.0	授業の内容や指導方法(学習形態)を学習目的に応じて柔軟に切り替えることができる 40.0
	11~20人 (n=619)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 92.9	児童一人に対して、実験や体験等の機会が増える 54.8	学級内の絆が強まる 42.2
	21~30人 (n=1727)	児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 66.1	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 43.9	学級内でいろいろな友達付き合いができる 38.3
	31~40人 (n=125)	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 64.8	学級内でいろいろな友達付き合いができる 64.0	社会性や協調性を育む機会に恵まれる 62.4

●その他の内容

区 分	内 容
11～20 人	今現在この人数だから
	児童間で変化に気付きやすい
	教員側の余裕
	新型コロナウイルス感染症対策
21～30 人	先生の負担が軽くなり、ゆとりができるから
	人数が少ない方が教室内を、余裕をもって使える
	自分がそうだったから
	新型コロナウイルス感染症対策
	多からず少なからずちょうど良いと思うから
ハーバード大学の研究でも 30 人以下が 1 人 1 人の個性を活かし、その他多勢の児童を作らない人数と出ているそうです	
31～40 人	最大で 31～40 人程度が適切だと思う
無回答	それぞれの良い所、悪い所があるのでこだわらないが 30 人程度が理想

2 市立中学校について

(1) 中学校の通学可能範囲

問 10 中学校の通学距離について、どの程度の距離までが通学可能範囲と思われますか。



- 通学可能範囲は、「4 km 以内」(38.5%)、「6 km 以内」(35.8%) と考える人で約7割を占めている。

中学校の通学範囲については、「4 km 以内」が 38.5% と最も多く、「6 km 以内」(35.8%)、「2 km 以内」(13.0%)、「距離は問わない」(9.5%)、「8 km 以内」(1.1%) の順となっています。

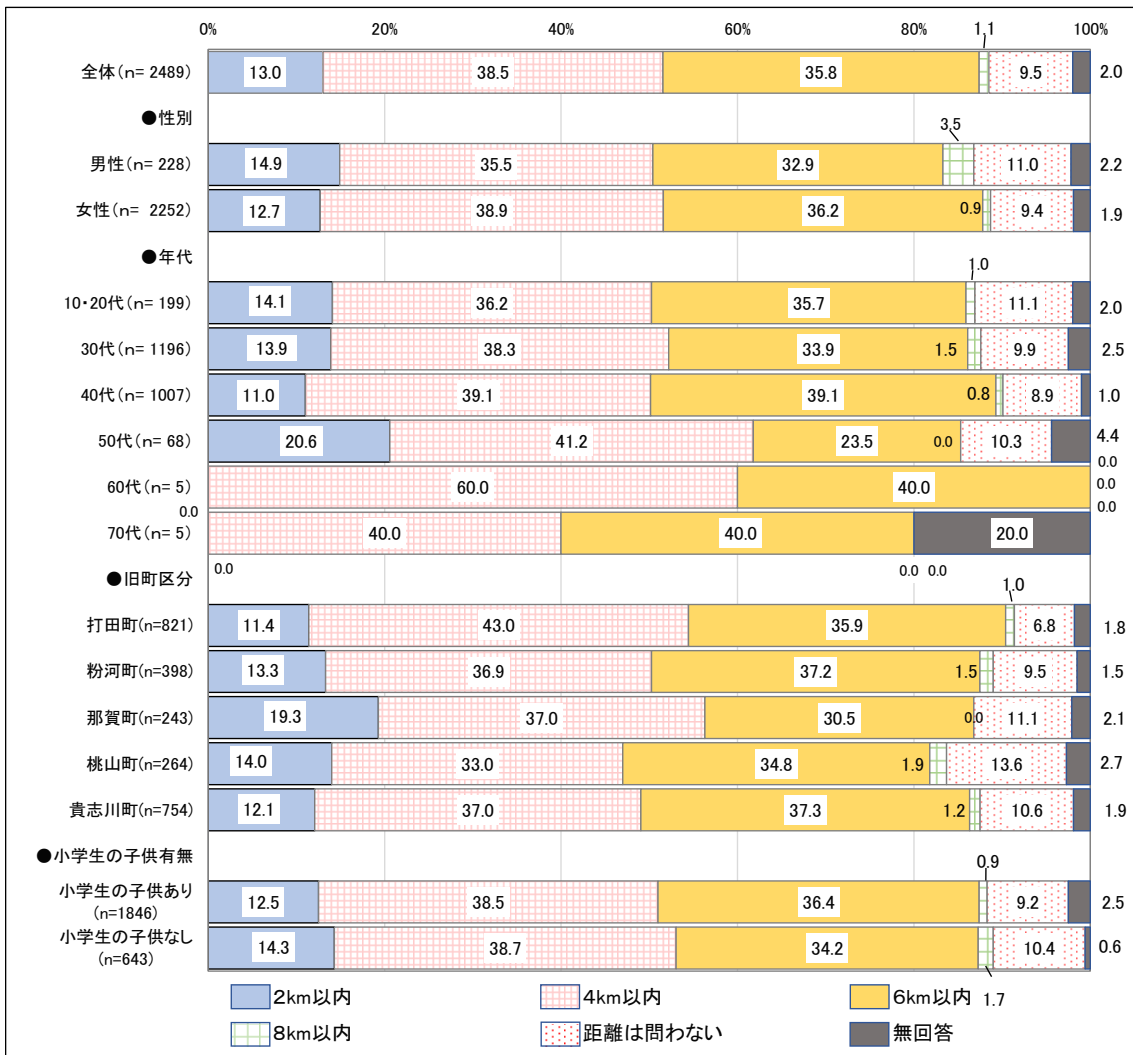
属性別でみると、性別では、男性・女性ともに全体と同様の傾向がみられます。

年代別でも、概ね同様の傾向がみられますが、40代・70代は「4 km 以内」・「6 km 以内」が同率で最も割合が高くなっています。

旧町区分でみると、打田町・那賀町では全体と同様の傾向がみられますが、粉河町・桃山町・貴志川町では「6 km 以内」が最も割合が高く、「4 km 以内」が2番目に高い割合となっています。

また小学生の子供有無では、小学生の子供あり・なしともに全体と同様の傾向がみられません。[図表 8 参照]

図表 8. 中学校の通学距離について



(2) 中学校 1 学年あたりの学級数

問 11 中学校 1 学年あたりの学級数についてお尋ねします。1 学年あたりの学級数（複式学級含む）は何学級がよいと思いますか。



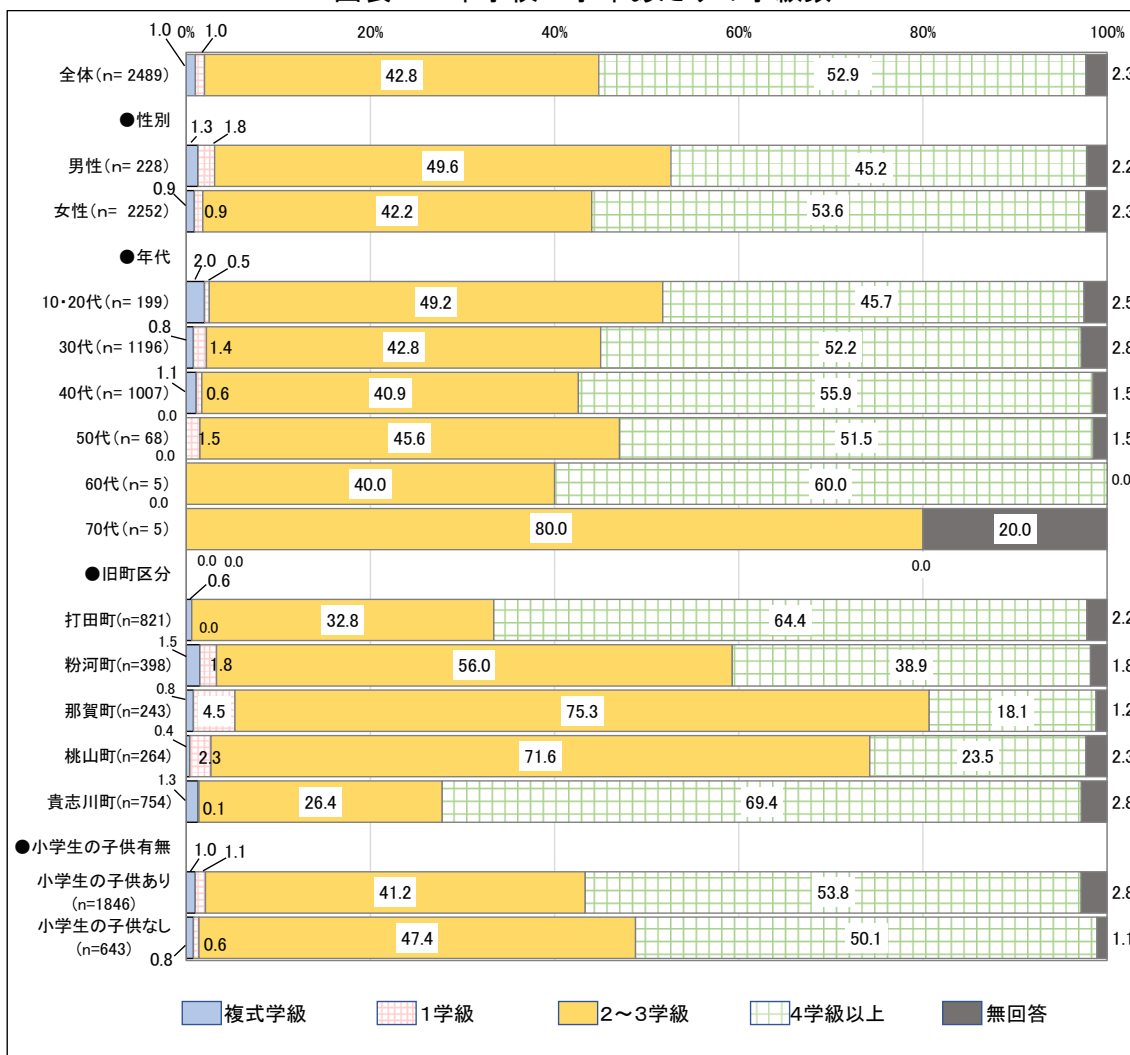
● 「4 学級以上」（52.9%）、「2～3 学級」（42.8%）の割合が高い。

中学校 1 学年あたりの学級数については、「4 学級以上」の割合が 52.9%と半数を占めており、続いて「2～3 学級」（42.8%）、「複式学級」・「1 学級」（同率 1.0%）となっています。

属性別でみると、概ね全体と同様の傾向がみられますが、年代別でみると、10・20 代において「2～3 学級」（49.2%）が「4 学級以上」（45.7%）よりも割合が高くなっています。

旧町区分では、町により傾向に差がみられ、「2～3 学級」の割合が最も高いのは那賀町（75.3%）、桃山町（71.6%）、粉河町（56.0%）となっています。また「4 学級以上」の割合が大半を占めているのは打田町（64.4%）・貴志川町（69.4%）となっています。[図表 9 参照]

図表 9. 中学校 1 学年あたりの学級数



(3) 「中学校 1 学年あたりの学級数」で選んだ理由

問 12 問 11「中学校 1 学年あたりの学級数」で選んだ回答の理由として、あてはまるものをお答えください。【複数回答】

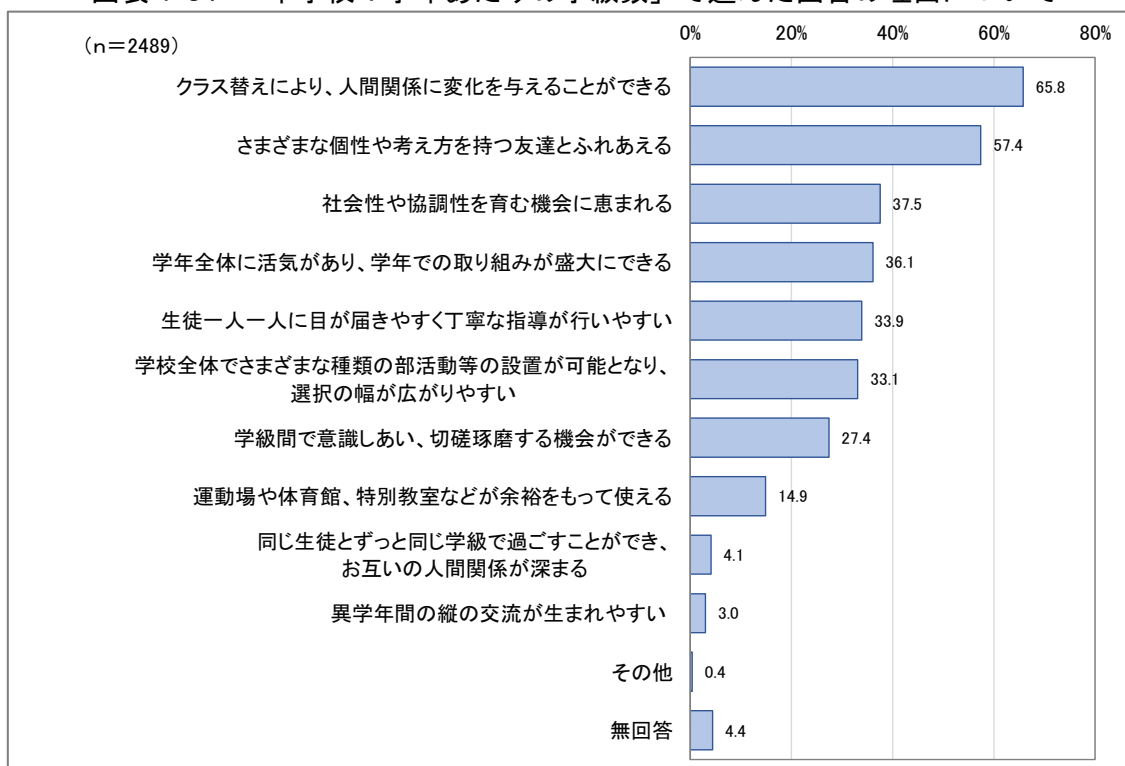
- 「クラス替えにより、人間関係に変化を与えることができる」(65.8%)、「さまざまな個性や考え方を持つ友達とふれあえる」(57.4%)の割合が高い。

問 11「中学校 1 学年あたりの学級数」で選んだ回答の理由をたずねたところ、「クラス替えにより、人間関係に変化を与えることができる」(65.8%)と、「さまざまな個性や考え方を持つ友達とふれあえる」(57.4%)の 2 項目の割合が、他を引き離して特に高くなっています。

これら以外では、「社会性や協調性を育む機会に恵まれる」(37.5%)、「学年全体に活気があり、学年での取り組みが盛大にできる」(36.1%)、「生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい」(33.9%)、「学校全体でさまざまな種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい」(33.1%)といった項目が続いています。

属性別では、ほとんどの属性で「クラス替えにより、人間関係に変化を与えることができる」の割合が最も高くなっており、それ以下の項目についても概ね同様の傾向がみられます。[図表 10・11 参照]

図表 10. 「中学校 1 学年あたりの学級数」で選んだ回答の理由について



図表 1 1. 「中学校 1 学年あたりの学級数」で選んだ回答の理由について
(属性別—上位第 3 位、%)

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=2489)		クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 65.8	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 57.4	社会性や協調性を育む機会に 恵まれる 37.5
性別	男性 (n=228)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 68.0	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 48.7	社会性や協調性を育む機会に 恵まれる 38.2
	女性 (n=2252)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 65.8	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 58.3	社会性や協調性を育む機会に 恵まれる 37.5
年代	10・20代 (n=199)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 66.3	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 56.3	学年全体に活気があり、学年での 取り組みが盛大にできる 42.2
	30代 (n=1196)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 64.4	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 56.7	社会性や協調性を育む機会に 恵まれる 37.9
	40代 (n=1007)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 67.2	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 58.3	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 37.5
	50代 (n=68)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 73.5	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 58.8	社会性や協調性を育む機会に 恵まれる/学級間で意識しあい、切 磋琢磨する機会ができる 39.7
	60代 (n=5)	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 80.0	学校全体でさまざまな種類の部 活動等の設置が可能となり、選 択の幅が広がりやすい/生徒一人 一人に目が届きやすく丁寧な指 導が行いやすい/クラス替えによ り、人間関係に変化を与えるこ とができる 60.0	
	70代 (n=5)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 60.0	学年全体に活気があり、学年での 取り組みが盛大にできる/学校全 体でさまざまな種類の部活動等 の設置が可能となり、選択の幅 が広がりやすい/さまざまな個 性や考え方を持つ友達とふれあ える/生徒一人一人に目が届 きやすく丁寧な指導が行いやす い 40.0	
旧町区分	打田町 (n=821)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 61.8	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 55.4	社会性や協調性を育む機会に 恵まれる 40.6
	粉河町 (n=398)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 69.1	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 61.8	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 36.9
	那賀町 (n=243)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 65.8	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 52.7	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 44.4
	桃山町 (n=264)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 65.2	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 53.4	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 39.8
	貴志川町 (n=754)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 69.1	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 60.3	学年全体に活気があり、学年での 取り組みが盛大にできる 41.4
子小 供学 有生 無の	いる (n=1846)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 65.2	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 57.2	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 36.5
	いない (n=643)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 67.8	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 58.0	社会性や協調性を育む機会に 恵まれる 41.8
学級 数別	複式学級 (n=24)	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 45.8	クラス替えにより、人間関係に 変化を与えることができる 37.5	社会性や協調性を育む機会に 恵まれる/生徒一人一人に目が 届きやすく丁寧な指導が行い やすい 33.3
	1学級 (n=25)	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 52.0	学年全体に活気があり、学年での 取り組みが盛大にできる/同じ 学級で過ごすことができ、お互 いの人間関係が深まる 44.0	
	2～3学級 (n=1066)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 65.2	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 53.7	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧 な指導が行いやすい 40.3
	4学級以上 (n=1316)	クラス替えにより、人間関係に変化を 与えることができる 70.9	さまざまな個性や考え方を 持つ友達とふれあえる 63.4	学年全体に活気があり、学年での 取り組みが盛大にできる 44.1

●その他の回答

区 分	内 容
2～3学級	学級数が増えると、仲のよい友人と離れ孤立してしまわないか心配
	新型コロナウイルス感染症対策
	学級数が多いと、横のつながりが薄くなってしまいそう
4学級以上	教員側の余裕
	新型コロナウイルス感染症対策
	担任の目がいきとどかないのなら学級数を増やすべき
	適当であると思ったから

(4) 中学校 1 学級あたりの生徒数

問 13 中学校 1 学級あたりの人数についてお尋ねします。1 学級あたりの生徒数は何人程度がよいと思いますか。



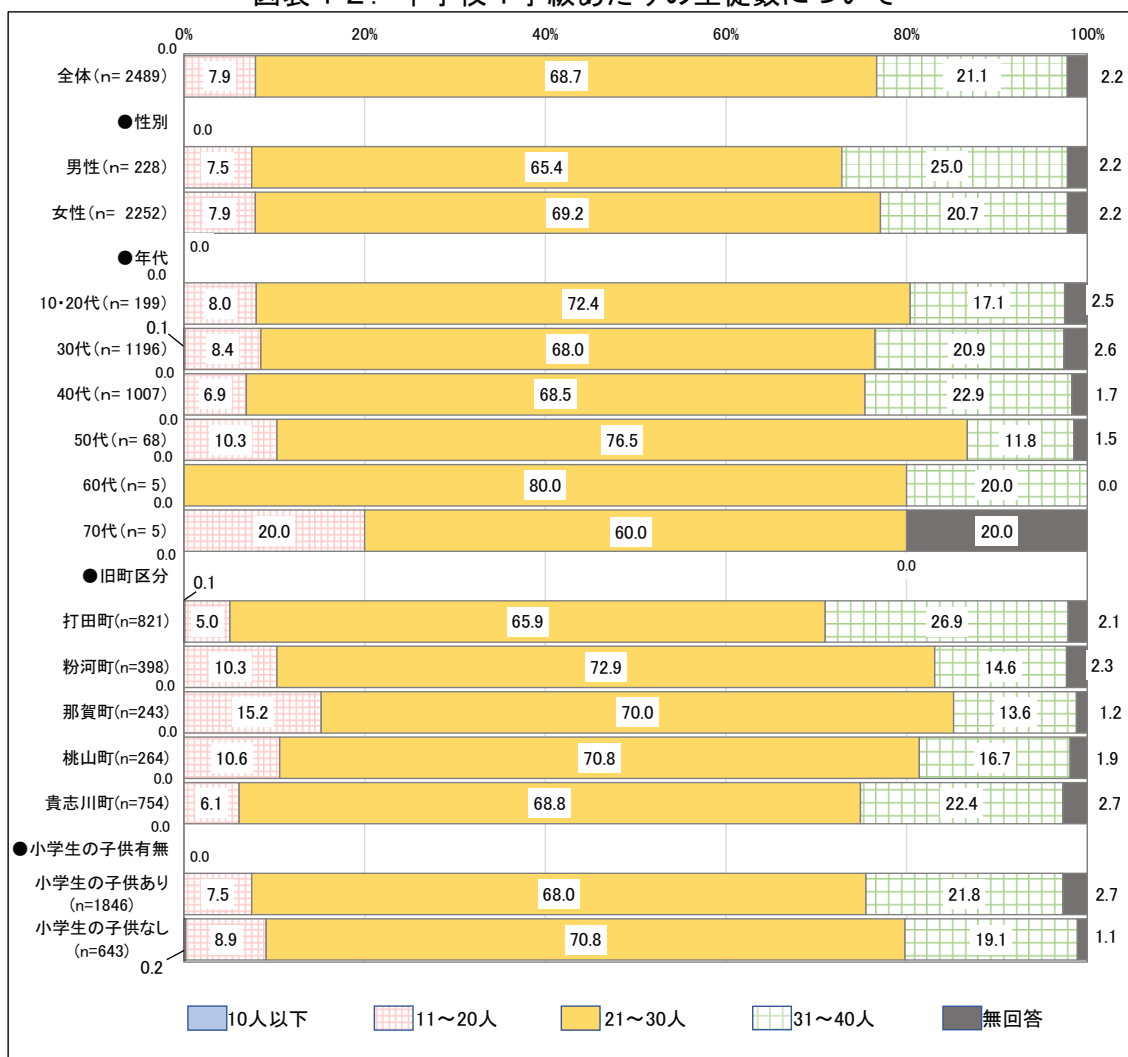
● 「21～30 人」(68.7%) の割合が他を引き離し、最も高い。

中学校 1 学級あたりの生徒数については、「21～30 人」が 68.7% と大半を占めており、続いて「31～40 人」(21.1%)、「11～20 人」(7.9%)、「10 人以下」(0.0%) となっています。

属性別にみても、概ね全体と同様の傾向がみられます。[図表 1 2 参照]

※全体集計と性別の女性では、「10 人以下」は数値の表示上 0.0% ですが、1 名回答がありました。

図表 1 2. 中学校 1 学級あたりの生徒数について



(5) 「中学校 1 学級あたりの人数」で選んだ理由

問 14 問 13「中学校 1 学級あたりの人数」で選んだ回答の理由として、あてはまるものをお答えください。【複数回答】

- 「生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい」(52.8%) の割合が最も高い。

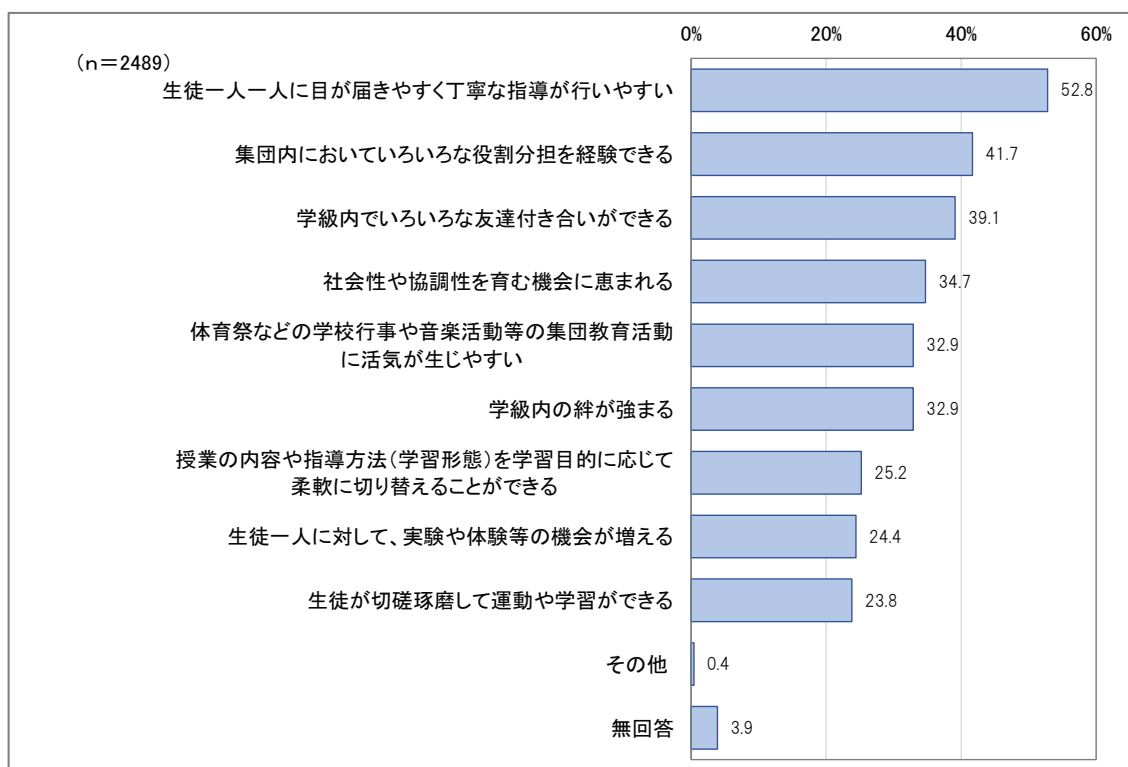
問 13「中学校 1 学級あたりの人数」で選んだ回答の理由をたずねたところ、「生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい」(52.8%) の割合が最も高く、次いで「集団内においていろいろな役割分担を経験できる」(41.7%)、「学級内でいろいろな友達付き合いができる」(39.1%) の割合が高くなっています。

これら以外では、「社会性や協調性を育む機会に恵まれる」(34.7%)、「体育祭などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい」・「学級内の絆が強まる」(同率 32.9%) といった項目が続いています。

属性別にみても、ほとんどすべての属性で「生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい」の割合が最も高く、それ以下の項目も概ね同様の傾向がみられます。

年代別の「10・20 代」では「集団内においていろいろな役割を経験できる」の割合が最も高くなっています。また、学級人数別の 31～40 人では、「学級内でいろいろな友達付き合いができる」の割合が最も高くなっています。[図表 1 3・1 4 参照]

図表 1 3. 中学校 1 学級あたりの人数で選んだ理由



図表 1 4. 中学校 1 学級あたりの人数で選んだ理由（属性別—上位第 3 位、％）

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=2489)		生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 52.8	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 41.7	学級内でいろいろな友達付き合いができる 39.1
性別	男性 (n=228)	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 47.8	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 42.5	学級内でいろいろな友達付き合いができる 39.9
	女性 (n=2252)	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 53.4	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 41.5	学級内でいろいろな友達付き合いができる 39.1
年代	10・20代 (n=199)	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 47.7	学級内でいろいろな友達付き合いができる 43.2	体育祭などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい 41.2
	30代 (n=1196)	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 50.5	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 42.3	学級内でいろいろな友達付き合いができる 40.2
	40代 (n=1007)	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 57.8	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 40.0	学級内でいろいろな友達付き合いができる 37.7
	50代 (n=68)	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 66.2	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 42.6	生徒一人に対して、実験や体験等の機会が増える 41.2
	60代 (n=5)	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい/学級内の絆が強まる 80.0		生徒一人に対して、実験や体験等の機会が増える 60.0
	70代 (n=5)	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい/集団内においていろいろな役割分担を経験できる/社会性や協調性を育む機会に恵まれる/授業の内容や指導方法(学習形態)を学習目的に応じて柔軟に切り替えることができる/生徒一人に対して、実験や体験等の機会が増える 40.0		
旧町区分	打田町 (n=821)	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 50.2	学級内でいろいろな友達付き合いができる 40.7	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 40.4
	粉河町 (n=398)	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 54.0	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 40.2	学級内でいろいろな友達付き合いができる 35.7
	那賀町 (n=243)	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 62.6	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 42.4	学級内でいろいろな友達付き合いができる 40.7
	桃山町 (n=264)	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 59.1	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 39.0	社会性や協調性を育む機会に恵まれる/学級内でいろいろな友達付き合いができる 35.2
	貴志川町 (n=754)	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 49.9	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 44.7	学級内でいろいろな友達付き合いができる 40.3
子供・学有・生無の	いる (n=1846)	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 55.0	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 40.0	学級内でいろいろな友達付き合いができる 36.9
	いない (n=643)	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 46.7	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 46.3	学級内でいろいろな友達付き合いができる 45.6
学級人数別	10人以下 (n=1)	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい/集団内においていろいろな役割分担を経験できる/生徒一人一人に対して、実験や体験等の機会が増える/ 100.0		
	11～20人 (n=196)	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 88.3	生徒一人に対して、実験や体験等の機会が増える 47.4	授業の内容や指導方法(学習形態)を学習目的に応じて柔軟に切り替えることができる 44.4
	21～30人 (n=1710)	生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい 62.9	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 39.2	学級内の絆が強まる 35.5
	31～40人 (n=526)	学級内でいろいろな友達付き合いができる 64.6	集団内においていろいろな役割分担を経験できる 58.6	体育祭などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい 56.5

●その他の内容

区 分	内 容
11～20 人	新型コロナウイルス感染症対策
	教員側の余裕
	体が大きくなってきて、教室がせまく感じられるから
21～30 人	先生の負担が軽くなり、ゆとりができることで学校全体の雰囲気の良いものになるのでは
31～40 人	それぞれに良い所、悪い所があるので、特にこだわりはないが、中学生にもなってくれば、色々な人と接したり自立性も必要と思う
	最大 31～40 人が適切だと思った
	自身の経験から

3 市立学校の今後の適正な規模や配置について

(1) 今後の小中学校の教育環境について

問 15 今後、下記のグラフのように、将来児童生徒数が少なくなることが予測されます。これからの紀の川市の小中学校のよりよい教育環境の確保及び向上のためには、どちらを選んだ方がよいと思いますか。



- 「現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持するほうがよい」(54.6%)の割合が「学校の位置・通学区域・学校数を検討するほうがよい」(43.8%)の割合を10.8ポイント上回る。

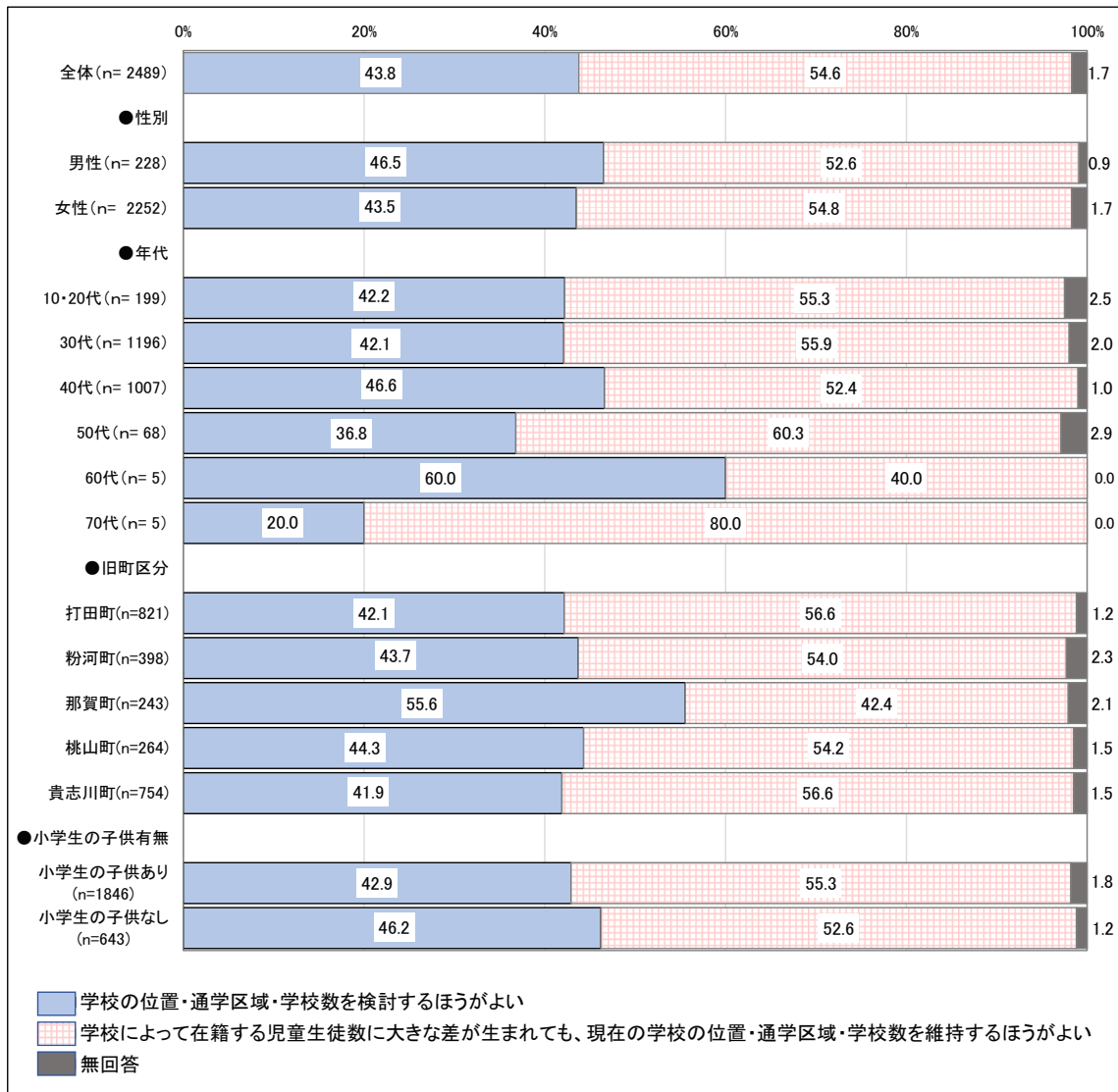
今後のよりよい教育環境の確保及び向上のための意見を把握するため、「学校の位置・通学区域・学校数を検討するほうがよい」、「学校によって在籍する児童生徒数に大きな差が生まれても、現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持するほうがよい」のいずれかを選んでもらいました。

その結果、「学校によって在籍する児童生徒数に大きな差が生まれても、現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持するほうがよい」(54.6%)と答えた人が「学校の位置・通学区域・学校数を検討するほうがよい」(43.8%)を上回る結果となりました。

属性別にみても、全体と概ね同様の結果がみられます。

一方、旧町区分別の那賀町では「学校の位置・通学区域・学校数を検討するほうがよい」(55.6%)が「学校によって在籍する児童生徒数に大きな差が生まれても、現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持するほうがよい」(42.4%)を上回っています。[図表15参照]

図表 15. 今後の小中学校の教育環境について



(2) 学校規模や配置の対策について

問 16 問 15 で「1) 学校の位置・通学区域・学校数を検討するほうがよい」と答えた方にお聞きします。学校規模や配置の対策として、どの方法が適切だと思いますか。【複数回答】

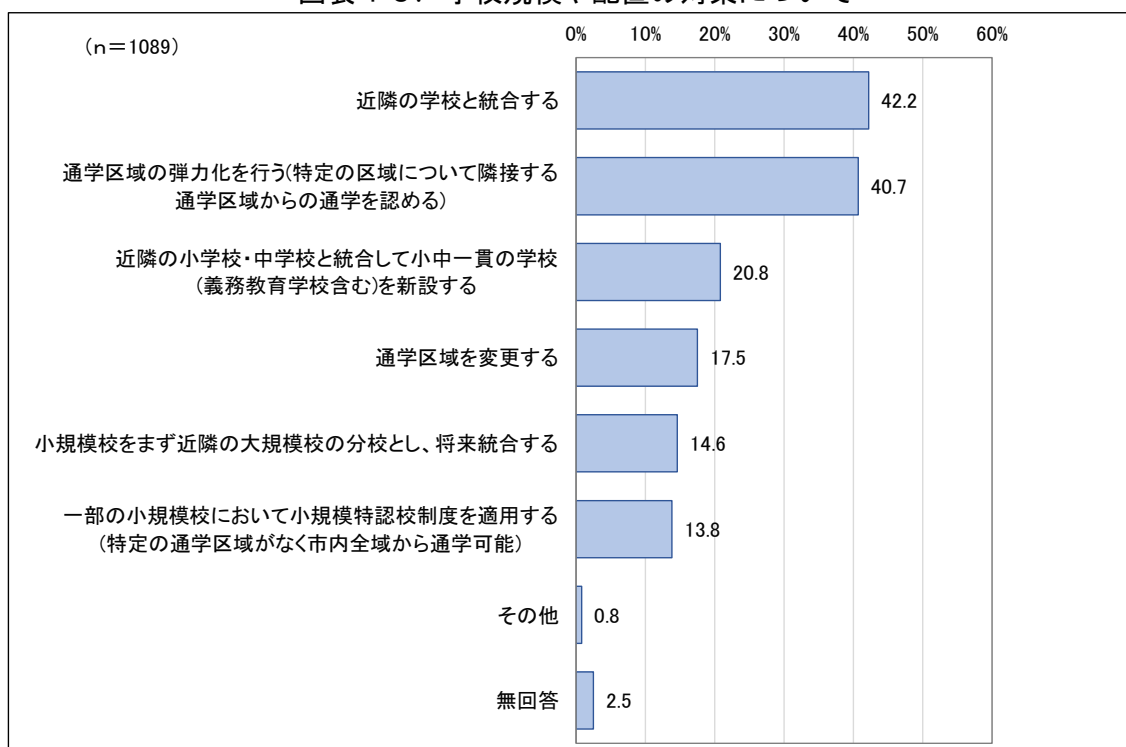
- 「近隣の学校と統合する」(42.2%)、「通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める)」(40.7%)の割合が高い。

問 15「今後のよりよい教育環境の確保及び向上のための意見」で「1) 学校の位置・通学区域・学校数を検討するほうがよい」と答えた方に学校規模や配置の対策をたずねたところ、「近隣の学校と統合する」(42.2%)の割合が最も高く、次いで「通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める)」(40.7%)、「近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する」(20.8%)の割合が高くなっています。

属性別にみると、概ね全体と同様の傾向がみられますが、年代別では、40代は「通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める)」(43.3%)の割合が最も高くなっています。旧町区別では、那賀町の「近隣の学校と統合する」の割合が60.7%と大幅に高くなっています。また、打田町は「通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める)」が最も高くなっています(47.4%)。

同居の子供有無では、いない属性では「通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める)」(44.1%)の割合が最も高くなっています。[図表 16・17 参照]

図表 16. 学校規模や配置の対策について



図表 17. 学校規模や配置の対策について（属性別—上位第3位、％）

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=1089)		近隣の学校と統合する 42.2	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 40.7	近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する 20.8
性別	男性 (n=106)	近隣の学校と統合する 44.3	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 41.5	近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する 28.3
	女性 (n=980)	近隣の学校と統合する 41.9	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 40.7	近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する 20.1
年代	10・20代 (n=84)	近隣の学校と統合する 47.6	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 41.7	近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する 20.2
	30代 (n=504)	近隣の学校と統合する 43.3	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 38.9	近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する 21.4
	40代 (n=469)	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 43.3	近隣の学校と統合する 39.9	近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する 19.8
	50代 (n=25)	近隣の学校と統合する 48.0	近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する 28.0	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 24.0
	60代 (n=3)	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める)/近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する 66.7		近隣の学校と統合する 33.3
	70代 (n=1)	通学区域を変更する 100.0		
旧町区分	打田町 (n=346)	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 47.4	近隣の学校と統合する 30.9	通学区域を変更する 21.4
	粉河町 (n=174)	近隣の学校と統合する 42.0	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 28.2	近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する 27.6
	那賀町 (n=135)	近隣の学校と統合する 60.7	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 39.3	近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する 17.8
	桃山町 (n=117)	近隣の学校と統合する 44.4	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 43.6	通学区域を変更する 19.7
	貴志川町 (n=316)	近隣の学校と統合する 45.9	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 39.6	近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する 23.1
子供 有 無	いる (n=792)	近隣の学校と統合する 42.8	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 39.4	近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する 19.9
	いない (n=297)	通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める) 44.1	近隣の学校と統合する 40.7	近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する 23.2

●その他の内容

学校統合後の通学バスの開設
紀の川市内でも居住地によって意見が違ふと思います、私の居住地においては近隣の学校と統合するのが良いと思います
そのままがいい
わからない

(3) 将来の学校の再編について

問 17 問 15 で「1) 学校の位置・通学区域・学校数を検討するほうがよい」と答えた方にお聞きします。将来学校の再編を検討していく際に、特に重要と考えることは何だと思えますか。【複数回答】

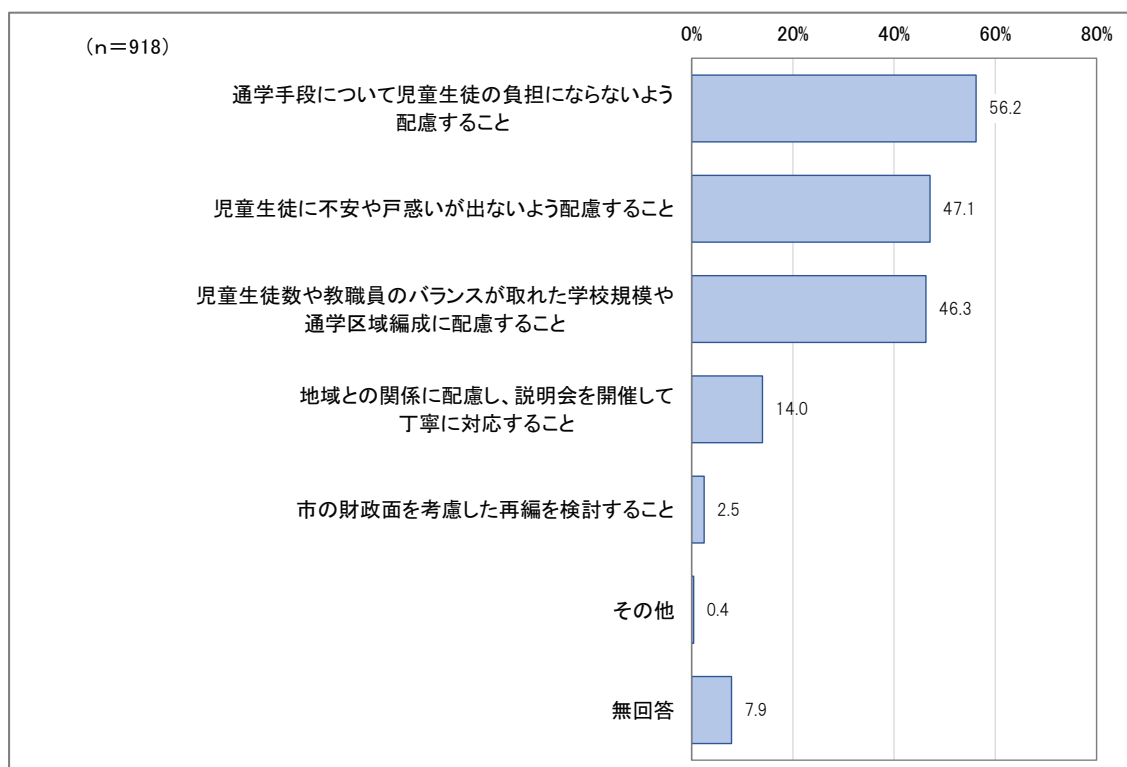
- 「通学手段について児童生徒の負担にならないよう配慮すること」(56.2%) の割合が最も高い。

問 15 で「1) 学校の位置・通学区域・学校数を検討するほうがよい」と答えた方に、将来学校の再編を検討していく際に特に重要と考えることをたずねたところ、「通学手段について児童生徒の負担にならないよう配慮すること」(56.2%) の割合が最も高く、次いで「児童生徒に不安や戸惑いが出ないよう配慮すること」(47.1%)、「児童生徒数や教職員のバランスが取れた学校規模や通学区域編成に配慮すること」(46.3%) の割合が高くなっており、他を引き離しています。

これら以外では、「地域との関係に配慮し、説明会を開催して丁寧に対応すること」(14.0%)、「市の財政面を考慮した再編を検討すること」(2.5%) といった項目が続いています。

属性別でも、概ね全体と同様の傾向がみられます。[図表 18・19 参照]

図表 18. 将来の学校の再編について



図表 19. 将来の学校の再編について（属性別—上位第3位、％）

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=1089)		通学手段について児童生徒の負担にならないよう配慮すること 56.2	児童生徒に不安や戸惑いが出ないよう配慮すること 47.1	児童生徒数や教職員のバランスが取れた学校規模や通学区域編成に配慮すること 46.3
性別	男性 (n=106)	通学手段について児童生徒の負担にならないよう配慮すること 51.9	児童生徒数や教職員のバランスが取れた学校規模や通学区域編成に配慮すること 48.1	児童生徒に不安や戸惑いが出ないよう配慮すること 41.5
	女性 (n=980)	通学手段について児童生徒の負担にならないよう配慮すること 56.7	児童生徒に不安や戸惑いが出ないよう配慮すること 47.8	児童生徒数や教職員のバランスが取れた学校規模や通学区域編成に配慮すること 46.2
年代	10・20代 (n=84)	通学手段について児童生徒の負担にならないよう配慮すること 54.8	児童生徒に不安や戸惑いが出ないよう配慮すること 51.2	児童生徒数や教職員のバランスが取れた学校規模や通学区域編成に配慮すること 33.3
	30代 (n=504)	通学手段について児童生徒の負担にならないよう配慮すること 59.1	児童生徒に不安や戸惑いが出ないよう配慮すること 46.8	児童生徒数や教職員のバランスが取れた学校規模や通学区域編成に配慮すること 43.8
	40代 (n=469)	通学手段について児童生徒の負担にならないよう配慮すること 53.3	児童生徒数や教職員のバランスが取れた学校規模や通学区域編成に配慮すること 50.7	児童生徒に不安や戸惑いが出ないよう配慮すること 46.3
	50代 (n=25)	児童生徒数や教職員のバランスが取れた学校規模や通学区域編成に配慮すること 56.0	児童生徒に不安や戸惑いが出ないよう配慮すること/通学手段について児童生徒の負担にならないよう配慮すること 52.0	
	60代 (n=3)	児童生徒数や教職員のバランスが取れた学校規模や通学区域編成に配慮すること/通学手段について児童生徒の負担にならないよう配慮すること 66.7	児童生徒に不安や戸惑いが出ないよう配慮すること 33.3	
	70代 (n=1)	児童生徒に不安や戸惑いが出ないよう配慮すること/通学手段について児童生徒の負担にならないよう配慮すること 100.0		
	旧町区分	打田町 (n=346)	通学手段について児童生徒の負担にならないよう配慮すること 54.6	児童生徒に不安や戸惑いが出ないよう配慮すること 50.0
粉河町 (n=174)		通学手段について児童生徒の負担にならないよう配慮すること 50.0	児童生徒数や教職員のバランスが取れた学校規模や通学区域編成に配慮すること 47.1	児童生徒に不安や戸惑いが出ないよう配慮すること 46.0
那賀町 (n=135)		通学手段について児童生徒の負担にならないよう配慮すること 60.7	児童生徒数や教職員のバランスが取れた学校規模や通学区域編成に配慮すること 50.4	児童生徒に不安や戸惑いが出ないよう配慮すること 42.2
桃山町 (n=117)		通学手段について児童生徒の負担にならないよう配慮すること 55.6	児童生徒に不安や戸惑いが出ないよう配慮すること 47.9	児童生徒数や教職員のバランスが取れた学校規模や通学区域編成に配慮すること 45.3
貴志川町 (n=316)		通学手段について児童生徒の負担にならないよう配慮すること 59.8	児童生徒数や教職員のバランスが取れた学校規模や通学区域編成に配慮すること 47.8	児童生徒に不安や戸惑いが出ないよう配慮すること 46.2
子供 有 無	いる (n=792)	通学手段について児童生徒の負担にならないよう配慮すること 55.4	児童生徒に不安や戸惑いが出ないよう配慮すること 47.6	児童生徒数や教職員のバランスが取れた学校規模や通学区域編成に配慮すること 46.0
	いない (n=297)	通学手段について児童生徒の負担にならないよう配慮すること 58.2	児童生徒数や教職員のバランスが取れた学校規模や通学区域編成に配慮すること 47.1	児童生徒に不安や戸惑いが出ないよう配慮すること 45.8

●その他の内容

保育園は安楽川、小学校は調月、中学校は荒川と、すでに迷いが出ています

親、児童の自主性

(4) 現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持する理由

問 18 問 15 で「2) 学校によって在籍する児童生徒数に大きな差が生じても、現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持するほうがよい」と答えた方にお聞きします。その理由として、当てはまるものをお答えください。【複数回答】

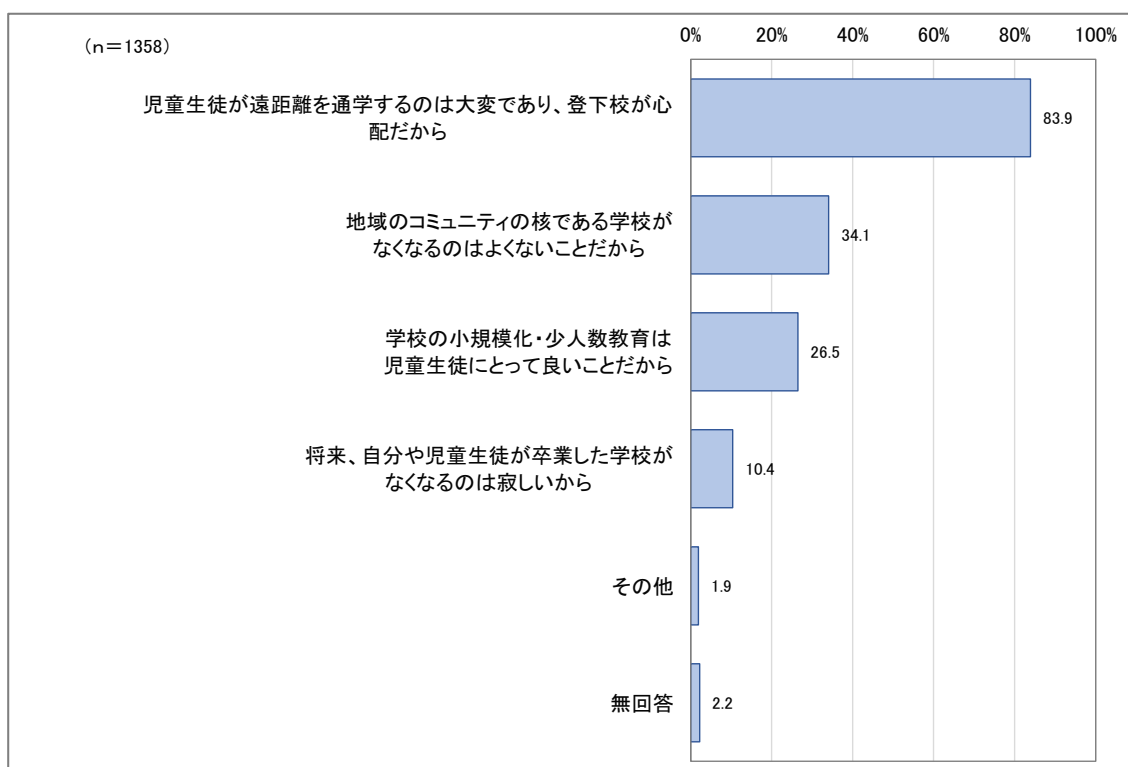
● 「児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから」の割合が 83.9%で、特に高くなっている。

問 15 で「2) 学校によって在籍する児童生徒数に大きな差が生じても、現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持するほうがよい」と答えた方に、現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持する理由をたずねたところ、「児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから」の割合が 83.9%となっており、特に高くなっています。

それ以外では、「地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから」(34.1%)、「学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから」(26.5%)、「将来、自分や児童生徒が卒業した学校がなくなるのは寂しいから」(10.4%)と続いています。

属性別でも、ほとんどの属性で「児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから」の割合が最も高くなっており、それ以下の項目も同様の傾向がみられます。[図表 20・21 参照]

図表 20. 現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持する理由



図表 2.1. 現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持する理由

(属性別—上位第3位、%)

		第1位	第2位	第3位	
全体 (n=1358)		児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 83.9	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 34.1	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 26.5	
性別	男性 (n=120)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 79.2	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 41.7	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 26.7	
	女性 (n=1233)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 84.5	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 33.3	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 26.5	
年代	10・20代 (n=110)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 81.8	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 26.4	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 25.5	
	30代 (n=668)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 84.4	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 31.0	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 28.6	
	40代 (n=528)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 84.7	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 38.4	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 23.9	
	50代 (n=41)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 80.5	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 48.8	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 29.3	
	60代 (n=2)	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから/児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから/地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから/将来、自分や児童生徒が卒業した学校がなくなるのは寂しいから			50.0
	70代 (n=4)	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 75.0	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから/児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから		25.0
旧町区分	打田町 (n=465)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 83.7	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 31.6	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 26.2	
	粉河町 (n=215)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 84.2	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 39.1	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 27.4	
	那賀町 (n=103)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 70.9	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 40.8	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 35.9	
	桃山町 (n=143)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 84.6	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 35.7	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 31.5	
	貴志川町 (n=427)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 86.7	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 33.7	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 21.5	
子小 供学 有生 無の	いる (n=1020)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 82.6	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 35.8	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 26.6	
	いない (n=338)	児童生徒が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配だから 87.6	地域のコミュニティの核である学校がなくなるのはよくないことだから 29.0	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いことだから 26.3	

●その他の内容

災害時の役割として必要だから
自宅が近い方が友だち同士で交遊しやすいので
リモート等を活用すれば、学校数を減らす必要はないと思うから
その地域の小・中学校に行く事で地元地域人とのコミュニケーションがある為
もし統廃合した場合、地域住民のコミュニティ場をも統合していくことは無理だと思われる
小、中の間は地域の学校に通うことで安心感がある。又、環境が大きく変わると思春期の子どもたちの情緒面に大きな影響が出るのではないかと気になるので
上の子と同じ小学校・中学校に下の子も通わせてあげたいから
小学校の間は近くで登校させたい！でもバスとか迎えに来てもらえるなら、生徒数が多い状態にってもらえると嬉しい！いろんな人と接する方が楽しいと思うので
多くなりすぎて、1人ひとりに目がいきとどかなくなるから
旧町単位以上に減らすメリットを見出せない
知った人のいるところ、目の届くところで学校へ通わせたいと思っている
遠距離の通学は、交通事故が心配
この先増える可能性もあるのに先走って少なくしてあとからやめといた方が良かったと思うときがくるから
地元の子ども達を地域で見守る意識が薄れてしまうのでは…
それぞれの地域の特色があるから
校区にこだわることなく少人数が良いとか大規模がいいとか選択して学校をえらべるようにしたほうがいい
地域によって差が出るのは仕方ない、小中学校で小人数はそれなりの良さ（目が届く）がある 高校以上で多人数なら社会性の発達にさほど影響はないと思う
小さい間は、親も先生も手をかけて育てるほうがいいと思います
地元回帰する子供が減り、将来的に人口が減る要因になる 長い目で見ると、統合や小規模特認校制度は良くない
現在とてもよい環境だと思います 親どうしのつながりも、希薄になったり、親（大人）が他の子供に目をむけたり交流したりすることが、しにくくなるように思います
大人数を求めているなら私学に行く選択もあるから
学校によって雰囲気が違うから

4 義務教育学校について

(1) 義務教育学校の設置について

問 19 県内（和歌山市）に義務教育学校が設置されていることについて、どのように思いますか。



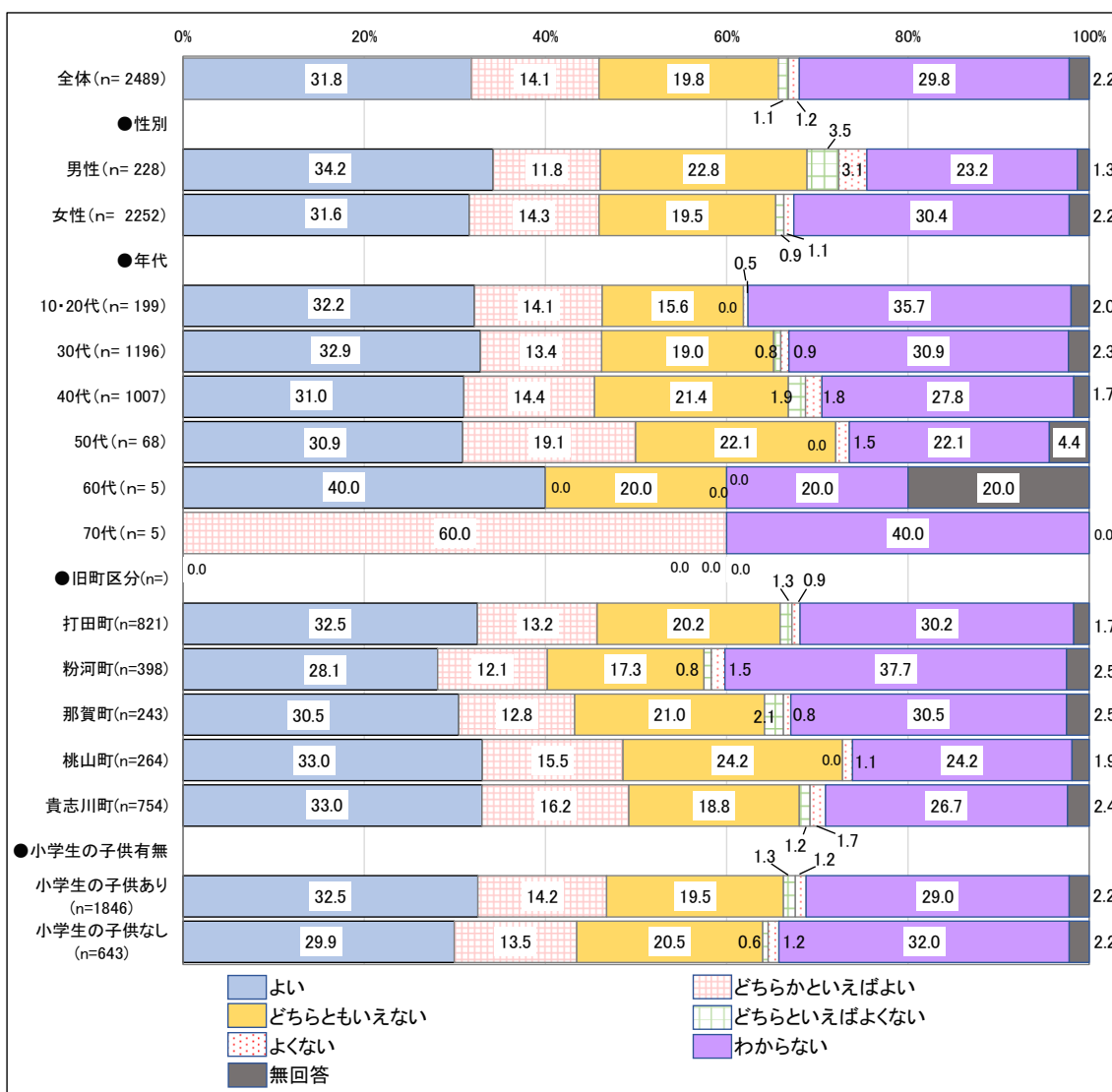
- “よい”（45.9%）が“よくない”（2.3%）を大幅に上回る。

県内（和歌山市）に義務教育学校が設置されていることについて、「よい」、「どちらかといえばよい」、「どちらともいえない」、「どちらかといえばよくない」、「よくない」、「わからない」の中から1つを選んでもらいました。

その結果、“よい”（「よい」（31.8%）と「どちらかといえばよい」（14.1%）の合計）が45.9%、“よくない”（「どちらかといえばよくない」（1.1%）と「よくない」（1.2%）の合計）は2.3%となっています。なお、「どちらともいえない」は19.8%、「わからない」は29.8%となっています。

また、属性別にみても、“よい”の割合がいずれも45%前後となっており、“よくない”を大幅に上回っています。[図表22参照]

図表 2 2. 義務教育学校の設置について



学校のあり方に関するアンケート調査

—ご協力のお願い—

紀の川市教育委員会では「次代を担う子供たちのためによりよい教育環境の確保及びその向上を図る」ことを目的とし、紀の川市立小中学校の適正規模と適正配置の検討をすすめています。今回、小学生までのお子様がいいらっしゃる保護者の皆さまのご意見をお伺いし、今後の参考とするため、本アンケート調査を実施させていただきます。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

なお、ご回答いただいた内容は調査の目的以外に使用いたしません。

令和3年5月

調査票のご記入にあたって

- お手数ですが、回答後はこのアンケートが入っていた元の封筒に入れていただき、6月15日(火)までに担任にお渡しください。
- 記入は、鉛筆やボールペンなど、はっきりと読み取れる筆記用具をご使用ください。
- 調査票にお名前を書きいただく必要はありません。
- お答えは、あてはまる回答の番号に「○」をつけてください。また、「その他」をお選びになった場合は、その後ろにある（ ）の中に内容をご記入ください。
- 問によっては、(○は1つ)、(○は2つまで)、(○は5つまで)、(○はいくつでも)など、ご記入いただく「○」の数を指定していますので、ご注意ください。
- 問によっては、前の問の回答によって次に進む問が異なる箇所がありますので、問の指示に従いご回答ください。
- お子様2人以上いるなどの理由で2通以上のアンケートを受け取られた場合は、1通のみご回答いただき、お子様が通っている小学校や保育所等に提出してください。
- この調査につきまして、ご不明な点などございましたら下記へお問い合わせください。

紀の川市教育委員会教育総務課

電話 0736(77)2511

FAX 0736(77)0917

※公立小・中学校の適正規模・適正配置について

公立小・中学校において、活力ある学校づくりのため、地域の実情に応じて学校規模や学校の配置を適正化するための取り組みです。学校統合により魅力ある学校づくりを行ったり、小規模校のデメリットの克服を図りつつ学校の存続を選択したりするなど、複数の選択肢が考えられます。しかし児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、小・中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいものと考えられており、国の基準では、学級数は1学年2学級以上が望ましいとされています。また、通学距離については、小学校は片道4km以内、中学校は片道6km以内が望ましいとされています。ただし、いずれも地域の実情により、特別の事情があるときはこの限りではないとされています。

はじめに、あなたご自身のことについてお伺いします。

【問1】お住まいの小学校区はどこですか。該当する番号に○をつけてください。(○は1つ)

- | | | | |
|-----------|------------|------------|------------|
| 1) 池田小学校 | 2) 田中小学校 | 3) 長田小学校 | 4) 粉河小学校 |
| 5) 竜門小学校 | 6) 川原小学校 | 7) 鞆渕小学校 | 8) 名手小学校 |
| 9) 上名手小学校 | 10) 麻生津小学校 | 11) 安楽川小学校 | 12) 調月小学校 |
| 13) 丸栖小学校 | 14) 西貴志小学校 | 15) 中貴志小学校 | 16) 東貴志小学校 |

【問2】アンケートにお答えになっている方の性別をお答えください。(○は1つ)

- | | | |
|-------|-------|------------|
| 1) 男性 | 2) 女性 | 3) どちらでもない |
|-------|-------|------------|

【問3】アンケートにお答えになっている方の年代をお答えください。(○は1つ)

- | | | | |
|--------|--------|--------|----------|
| 1) 10代 | 2) 20代 | 3) 30代 | 4) 40代 |
| 5) 50代 | 6) 60代 | 7) 70代 | 8) 80代以上 |

【問4】あなたのお子様の年代をお答えください。2人以上お子様がいらっしゃる場合には、あてはまる年代すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | | | |
|--------|--------|--------|------------|
| 1) 就学前 | 2) 小学生 | 3) 中学生 | 4) 中学校卒業以上 |
|--------|--------|--------|------------|

つぎに、市立小学校について、あなたのご意見をお伺いします。

【問5】小学校の通学距離について、どの程度の距離までが通学可能範囲と思われますか。(○は1つ)

- | | | | | |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| 1) 1 km 以内 | 2) 2 km 以内 | 3) 3 km 以内 | 4) 4 km 以内 | 5) 距離は問わない |
|------------|------------|------------|------------|------------|

※国においては、小学校の通学距離をおおむね4 km 以内としています。また、通学状況に応じてスクールバス等の運行を実施しています。

【問6】小学校1学年あたりの学級数についてお尋ねします。1学年あたりの学級数(複式学級含む)は何学級がよいと思いますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---------|--------|--------|----------|
| 1) 複式学級 | 2) 1学級 | 3) 2学級 | 4) 3学級以上 |
|---------|--------|--------|----------|

※国においては、小学校では1学年あたり2学級～3学級を標準としています。

※複式学級とは異なる学年の児童を1つの学級に編成した学級です。

【問7】【問6】「小学校1学年あたりの学級数」で選んだ回答の理由として、あてはまるものをお答えください。(○は5つまで)

- | |
|---------------------------------------|
| 1) 学年全体に活気があり、学年での取り組みが盛大にできる |
| 2) 同じ児童とずっと同じ学級で過ごすことができ、お互いの人間関係が深まる |
| 3) さまざまな個性や考え方を持つ友達とふれあえる |
| 4) 社会性や協調性を育む機会に恵まれる |
| 5) 児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい |
| 6) クラス替えにより、人間関係に変化を与えることができる |
| 7) 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える |
| 8) 異学年間の縦の交流が生まれやすい |
| 9) 学級間で意識しあい、切磋琢磨する機会ができる |

10) その他 ()

【問 8】 小学校 1 学級あたりの人数についてお尋ねします。 1 学級あたりの児童数は何人程度がよいと思いますか。(○は 1 つ)

1) 10 人以下 2) 11～20 人 3) 21～30 人 4) 31～40 人

※国においては、小学校 1 年と 2 年生は 35 人以下、その他の学年は 40 人以下を標準としています。
(R3. 5. 1 現在)

【問 9】 【問 8】 「小学校 1 学級あたりの人数」 で選んだ回答の理由として、あてはまるものをお答えください。(○は 5 つまで)

- 1) 児童が切磋琢磨して運動や学習ができる
- 2) 児童一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい
- 3) 集団内においていろいろな役割分担を経験できる
- 4) 学級内の絆が強まる
- 5) 社会性や協調性を育む機会に恵まれる
- 6) 授業の内容や指導方法(学習形態)を学習目的に応じて柔軟に切り替えることができる
- 7) 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい
- 8) 学級内でいろいろな友達付き合いができる
- 9) 児童一人に対して、実験や体験等の機会が増える
- 10) その他 ()

続いて、市立中学校について、あなたのご意見をお伺いします。

【問 10】 中学校の通学距離について、どの程度の距離までが通学可能範囲と思われますか。(○は 1 つ)

1) 2 km 以内 2) 4 km 以内 3) 6 km 以内 4) 8 km 以内 5) 距離は問わない

※国においては、中学校の通学距離をおおむね 6 km 以内としています。また、通学状況に応じてスクールバス等の運行を実施しています。

【問 11】 中学校 1 学年あたりの学級数についてお尋ねします。 1 学年あたりの学級数(複式学級含む)は何学級がよいと思いますか。(○は 1 つ)

1) 複式学級 2) 1 学級 3) 2～3 学級 4) 4 学級以上

※国においては、中学校では 1 学年あたり 4 学級～6 学級を標準としています。
※複式学級とは異なる学年の生徒を 1 つの学級に編成した学級です。

【問 12】【問 11】「中学校 1 学年あたりの学級数」で選んだ回答の理由として、あてはまるものをお答えください。(○は 5 つまで)

- 1) 学年全体に活気があり、学年での取り組みが盛大にできる
- 2) 学校全体でさまざまな種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい
- 3) 同じ生徒とずっと同じ学級で過ごすことができ、お互いの人間関係が深まる
- 4) さまざまな個性や考え方を持つ友達とふれあえる
- 5) 社会性や協調性を育む機会に恵まれる
- 6) 生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい
- 7) クラス替えにより、人間関係に変化を与えることができる
- 8) 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える
- 9) 異学年間の縦の交流が生まれやすい
- 10) 学級間で意識しあい、切磋琢磨する機会ができる
- 11) その他 ()

【問 13】中学校 1 学級あたりの人数についてお尋ねします。1 学級あたりの生徒数は何人程度がよいと思いますか。(○は 1 つ)

- | | | | |
|-----------|------------|------------|------------|
| 1) 10 人以下 | 2) 11～20 人 | 3) 21～30 人 | 4) 31～40 人 |
|-----------|------------|------------|------------|

※国においては、中学校は 40 人以下を標準としています。(R3. 5. 1 現在)

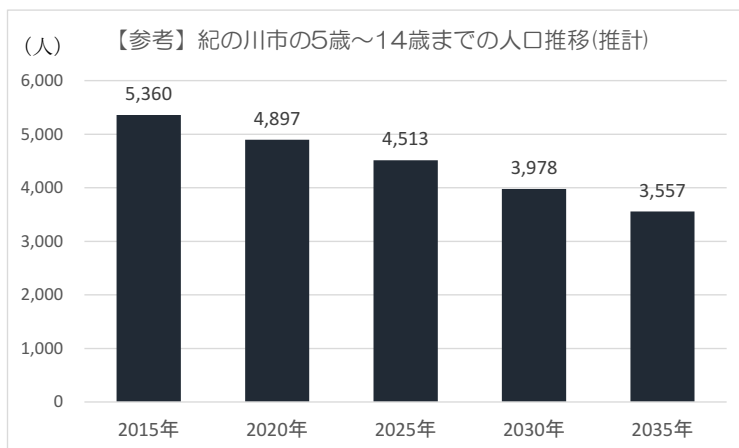
【問 14】【問 13】「中学校 1 学級あたりの人数」で選んだ回答の理由として、あてはまるものをお答えください。(○は 5 つまで)

- 1) 生徒が切磋琢磨して運動や学習ができる
- 2) 生徒一人一人に目が届きやすく丁寧な指導が行いやすい
- 3) 集団内においていろいろな役割分担を経験できる
- 4) 学級内の絆が強まる
- 5) 社会性や協調性を育む機会に恵まれる
- 6) 授業の内容や指導方法(学習形態)を学習目的に応じて柔軟に切り替えることができる
- 7) 体育祭などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい
- 8) 学級内でいろいろな友達付き合いができる
- 9) 生徒一人に対して、実験や体験等の機会が増える
- 10) その他 ()

続いて、市立学校の今後の適正な規模や配置について、あなたのご意見をお伺いします。

【問 15】 今後、下記のグラフのように、将来児童生徒数が少なくなることが予測されます。これからの紀の川市の小中学校のよりよい教育環境の確保及び向上のためには、どちらを選んだ方がよいと思いますか。(〇は1つ)

- 1) 学校の位置・通学区域・学校数を検討するほうがよい ⇒【問 16】【問 17】にお進みください
- 2) 学校によって在籍する児童生徒数に大きな差が生まれても、現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持するほうがよい ⇒【問 18】にお進みください



出典：将来人口・世帯予測ツール V2 (国土技術政策総合研究所)

【問 16】【問 15】で「1) 学校の位置・通学区域・学校数を検討するほうがよい」と答えた方にお聞きします。学校規模や配置の対策として、どの方法が適切だと思いますか。(〇は2つまで)

- 1) 通学区域の弾力化を行う(特定の区域について隣接する通学区域からの通学を認める)
- 2) 通学区域を変更する
- 3) 近隣の学校と統合する
- 4) 小規模校をまず近隣の大規模校の分校とし、将来統合する
- 5) 近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫の学校(義務教育学校含む)を新設する
- 6) 一部の小規模校において小規模特認校制度を適用する
(特定の通学区域がなく市内全域から通学可能)
- 7) その他 ()

※義務教育学校とは

小学校の6年間と中学校の3年間の義務教育期間の合計9年間で1つの学校として、一貫の教育を実施するための学校です。義務教育を一貫して行い、9年間の系統的な教育、9年間の継続的な生徒指導、1年生から9年生までの異学年交流が行われることが、主な特徴となっています。

※小規模特認校とは

小規模校の特性を活かして特色ある教育を展開している、通学区域外からでも入学を許可することのできる学校のことです。

